

一般社団法人ダム工学会

20周年記念誌



表彰関係

1 . 表彰基準	-1
2 . 特別功績賞	-2
3 . 功績賞	-4
4 . 技術功績賞	-10
5 . 技術賞	-13
6 . 論文賞	-16
7 . 技術開発賞	-20
8 . 著作賞	-26

災害調査委員会

1 . 新潟県中越地震	-1
2 . 宮城内陸地震	-1

その他

1 . 会員数の変遷	-1
2 . 10周年記念事業	-2
3 . 15周年記念事業	-3
4 . ダム工学掲載一覧	-5

会長挨拶



第17代会長（現会長）

いり え ひろ き
入 江 洋 樹

ダム工学会20周年を記念して

一般社団法人ダム工学会の20周年を記念して、ひとことご挨拶申し上げます。

近年、「コンクリートから人へ」のようなキャッチコピーを始めとして、ダムに対する風当たりは非常に厳しいものがあります。その中には、正確な情報を欠いたものや誤解に基づいたものも多く見られます。ダム工学会としては、学術的な研究の公開のみならず、科学的知見に基づいた正確な情報を折に触れて発信していくことが重要であると考えております。

ダム工学会では、15周年記念事業として、21世紀のダムビジョン「ダムが語る1000年物語」を纏めました。ダムは、大阪府の狭山池や香川県の満濃池で見られるように、1000年以上にわたって役割を発揮し続けている最も古い社会資本の一つであります。このビジョンは、農業用水、水道用水、工業用水の供給や発電などの利水目的、洪水調節などの治水目的について、ダムが今まで果たしてきた役割を正しく整理するとともに、現在提起されている色々な問題点を技術的制度的に克服して、将来予想される世界の人口増や地球温暖化などに対処するため、今後も1000年以上にわたって機能を発揮し続けていく技術を開発するなど、今後の方向性を示そうとしたものであります。

日本の治水事業は、堤防の設置、河道の拡幅など河川の改修を中心として進められてきましたが、明治以降の急激な人口の増加により、次第に河道の拡幅が難しくなってきました。日本は、国土が小さく、山が急峻であり、洪水の流出が速く、洪水波形がシャープであります。そこで、大正時代に東京大学の物部博士が、シャープな洪水波形をダムによりピークカットすることが効果的であると提言され、治水計画の策定にあたって、ダムによる洪水調節効果も検討されることになってきました。ダム計画の決定に当たっては、他の治水施設との経済比較などの種々の比較検討がなされることとなります。日本の治水計画の整備目標は、100～200年に一度の安全度を目指していますが、これは欧米諸国と比較しても低く、しかも達成するためには、今後かなりの施設整備が必要な状況にあります。

利水面では、日本は10年に一度の濁水を目標として計画されることになっていますが、古いダムによっては、戦後の急激な経済発展に対応するため、より低い安全度で計画されたものもあり、濁水に対しては脆弱であります。アメリカの利水計画の安全度は、アメリカの水道協会の調査によりますと、20年に一度の安全度に貯水容量に25%の余裕を見込むものが多いとされています。アメリカが計画し、復帰に伴い日本に引き継いだ沖縄の福地ダムでは、このように計画されていました。また、日本では、治水容量には20%の余裕を見込んでいますが、利水容量には余裕を見込んでいませんので、日本とアメリカでは、利水の安全度については、このように大きな差があります。

I P C C (気候変動に関する政府間パネル)の第4次評価報告書を始めとする種々の研究機関の調査結果によりますと、地球温暖化による気象現象の変化により、今後は治水利水面にわたって一段と厳しい状況が予測されています。文部科学省の「人・自然・地球共生プロジェクト」と、それに続く「21世紀

気候変動予測革新プログラム」では、スーパーコンピューター「地球シミュレーター」を活用した地球温暖化による次のような予測研究を行っています。降雨予測を例にとりますと、21世紀の終わりには、日降水量が50mm以上の強い雨の日数が現在の2～3倍になり、他方雨の降らない日数も現在より10%強増加すると予測しています。台風などの熱帯低気圧については、中心風速の強いものが増え、最大級の台風は現在より風速で約10%強くなると予測しています。また、「21世紀気候変動予測革新プログラム」では、より小さな区域にスケールダウンした温暖化の影響予測が実施されることになっていますので、河川流域単位の降雨予測が可能になってくるものと思われます。いずれにしても、温暖化による治水水面の安全度の低下が予想されますので、今後の治水水面での更なる対応が重要になってくるものと思われます。

国連開発計画（UNDP）の「人間開発報告書2006」によりますと、世界の人口は現在の約60億人から2050年には約90億人に増加するものと推定しています。この膨大な人口増に伴い、2050年には、水不足人口が約14億人、水にストレスを感じる人口が約40億人になると予測しています。このような世界の水事情から、21世紀は「水の世紀」と云われており、わが国としても、今まで培ってきた技術と人材を利用して、積極的に世界に貢献していく必要があると考えています。また、日本の農業自給率は約40%と云われており、これに関係する「仮想水」の輸入は膨大なものになると想定されています。日本では、水に余裕がありますので、水が不足する地域に対して「水の輸出」を検討していく必要があると思います。

これからのダム問題を考慮しますと、「ダムが語る1000年物語」で提起したダムの長寿命化対策、地球温暖化による気候の大きな変動に対する治水水面での更なる対応、「水の世紀」といわれる世界の水不足問題に対する世界的貢献など、解決すべき多くの課題があります。ダム工学会としましては、これらの課題に積極的に取り組み、国内外の社会の発展に寄与していきたいと考えています。

歴代会長の寄稿



第 11 代会長

長 谷 川 たか し

ダム工学会が、発足以来順調に発展を遂げ、二十周年を迎えられたことは大変おめでたく、心からお祝いを申し上げます。

私はその間、第 11 代の会長を務めさせていただきましたが、皆様方のご助力を得て無事任期を全うできたことは喜ばしい思い出となっています。

私がダム技術に関係しだした昭和 30 年の中頃は、未だコンピュータの発展段階も低く、利用できる数理的手法も限られておりました。そのために、理論結果の確認や補完は最終的に各種の模型実験によることとなり、実験室で多くの時間を費やしました。その後コンピュータの発展、それに対応した数理的手法の開発が進んで研究の手法も対象も広がり、変化してきました。しかし、技術の研究は何といたっても現場の要求に応じたものでなければならないのですが、大学の研究室は通常は技術の現場と直接結びついていないので、ダム技術を大学の研究テーマとするには難しいものがあると感じ続けていました。しかし、幸いにも、その頃から農業生産基盤整備の必要が叫ばれ始め、多くの農業用ダムの建造が進められることとなり、現場に親しんで技術研究を進めることができるようになりました。

しかし、そこで知ったことは、多くの技術の中でも特にダム技術がきわめて複合的なものであって、問題を解決するために必要な知識の範囲も格別に広く、技術的な工夫が各所に求められるものだったということです。つまり、問題解決に寄与するには土木工学の専門基礎領域の学術的知識が確固としたものであることは言うに及びませんが、そこに留まらず、それらの学術領域の知識を利用した一段の工夫がなければならないという技術学のテーマ意識でした。また、現場はそういった問題に日々直面しながら、解決法の巧緻さの程度は別としても、何らかの解決法を見出して進められているという技術者の努力でした。

このような工夫や努力は大いに社会的に評価されるべきにも拘わらず、往々にしてこのような技術的工夫は専門基礎学領域の観点からすると学術的貢献度において高い評価とならない、つまり、優れた創意工夫であっても学術論文にはなりにくい場合が多々ありました。しかし、このことは技術者の意欲を大きく削ぐだけでなく、その技術分野の発展を阻害することにもなります。そこで、技術的な創意工夫を、学術的に評価する立場の存在がぜひ必要であり、設立以来この学会は大きな役割と存在意義を持ってきたと言えましょう。

本学会に寄せられる論文はもとより、本学会で毎年行われる各ダムの技術表彰は、こういった地道で目立たない技術者の努力を評価することによって、技術を主張し発展させるための大変重要な意義を持ったものと考えます。

学会誌や学界活動が、技術知識の交流や発展に更なる役割を果たすことを大いに期待しているところです。



第12代会長

うめ た さだ お
梅 田 貞 夫

ダム工学会設立20周年、おめでとうございます。会長を務めさせていただいた一人として、当時を振り返りながら、これからのダム工学会への期待を申し述べさせていただきます。

私は、平成17年度のダム工学会会長を仰せつかりました。会社に入ってから昭和58年の川治ダム完成まではダム一辺倒の土木屋人生を送ってきましたが、その後の20数年間はダム技術とは縁のない業務に就いておりましたので、実に久しぶりにダムの世界に戻ってきたということで感慨深いものがありました。幸い、官学民の各分野でご活躍の多くの方々にご支援、ご協力を賜り、学会活動の活性化や、財政基盤確立のための賛助会員システム強化等に取り組みさせていただきました。

平成17年は、台風や集中豪雨による被害が多発した年でした。特に九州に上陸した台風14号の影響で、宮崎県えびの市の総雨量が1,300mmに達するなど、九州を中心とした61地点で日雨量の記録が更新されました。これに対し、渇水による取水制限が行われていた四国では、早明浦ダムが洪水を貯め込み下流の被害軽減に大きな効果を発揮しました。将来起こり得る異常気象に伴う旱魃や洪水と、その対応策としてのダムの役割を示唆するものであります。

ダム工学会が設立された平成2年(1990年)は、バブル経済崩壊後の長期低迷の始まりとなる、我が国にとって大きな転換期でした。その後の20年間、世界経済のグローバル化が加速的に進み、世界各国が経済成長を謳歌する中で、我が国はほとんど経済成長しないという事態に陥りました。その結果、歳入が伸びず国の財政事情が悪化し、それらを補う形で公共投資は減少を続け今日に至っています。とりわけ、政権交代に伴い、ダムを巡る情勢は極めて厳しいものとなっています。

将来世代への貢献と成長のための投資である公共投資が減少を続け、社会資本整備が滞る事態に対し、土木界は専門家集団としてしっかりと社会に警鐘を鳴らす責務があると思います。

我が国の都市部における渇水被害が大きく減少した背景には、都市用水の約2/3が、長年にわたり計画的に実施されてきたダム等による水資源開発により供給されるようになったということがあります。ダム工学会としても、このような事実をより分かり易く国民に伝えると共に、地球温暖化に起因する異常気象への適応策としてのダムの計画的な建設及び再開発は、国民の安全・安心を担保するために成すべき重要な課題となっているということを粘り強く社会に向けて発信していくことが肝要であります。

世界に目を向ければ、膨大な人口増により21世紀は深刻な食糧問題、水問題が不可避な状況にあります。エネルギー問題への対応も含めて、水資源の確保とその利活用から、ダム建設の要望が高まることは明らかであります。我が国のダム技術は世界のトップレベルにあると思われませんが、今までは、海外での積極的な活用・展開を明確に意識した取組みに欠けていた面は否めません。官学民の連携のもとに、対象国との多面的な交流促進、技術開発や人材育成等を含めた総合的な取組みを推進していくことが極めて重要となります。海外展開への対応が、ダム工学会の今後の重要課題の一つになると思います。

ダムを取り巻く環境が大きく変わり、国内では今しばらくは逆風が続くと思われませんが、このような変化の時にこそ、官学民の協力の場となるダム工学会の役割が益々重要なものとなると思います。ダム工学会の今後益々のご活躍を期待し、一層のご隆盛を祈念申し上げます。

岡本舜三先生とダム工学研究会



第 13 代会長

あ だ ち と し ひ さ
足 立 と し 崎

ダム工学会創立 20 周年を迎えたが、設立準備に関わった日々のが、つい先日のように思い出される。それは、午後十時ごろ東京出張から帰宅した、ある日に始まった。中川博次先生から、何時でも良いから連絡が欲しいという電話があったとのことで、電話を入れると“幹事長をやって欲しい”とのことである。当時、土木学会関西支部の幹事長を務めていたからその旨を告げると、それではなく、「ダム工学研究会」設立準備会の幹事長とのことであった。ダムとは関係が無いから、不適と断ったが、中川先生が顧問をやるからとの一言と、夜半であり、詳細を聴かずに引き受けた。その後、建設省が中心となり、個人会員によるダム工学会の設置を目指す研究会の設立準備を、東京大学の小長井一男先生を副幹事長として、建設省の竹林征三君をはじめダム技術センター、建設会社、コンサルタント、

またメーカーの方々と共に進めることが、私の役割であることを知った。

さて、学会の設立には、日本学術会議法に基く学術研究団体として認められる道がある。その条件は、「学会誌」の発行および「研究発表会」の実施等、3 年間の実績が課せられる。また、研究会発足の趣意書の作成は、広く会員を募るためにも必要であった。

これら必要な事項の検討を開始したある日、大学 1 年後輩である関西電力の後藤浩一君と大阪で飲む機会があった。その席で、“足立さん、危険なことをやっていますね。通産、電力が関係するダムもありますよ”と忠告を受けた。しかし、この件は 10 日も待たず、後藤君により建設省と通産省双方の担当者が協議する場を設けていただき、決着した。

その年の秋、土木学会が新潟で行われ、懇親会に参加すると、岡本舜三先生と田村重四郎先生が目に入り、ご挨拶に伺った。岡本先生は“足立さん、大変なことをされておりますね”とおっしゃり、“農林のダムもあります、よろしければ学士院で沢田敏男先生が常にお隣です。私の方からお願いをしておきましょうか？”と有り難いお言葉をいただいた。素直にお受けすればよいのに、“先生には「ダム工学研究会」の委員長をお願いすることになっております”と申し上げ、農林との件は“トップダウンよりボトムアップの方が良いと思います、しばらくお待ちください”とお断りをし、建設省の担当者に農林省との協議を進めるよう依頼した。

準備委員会においても当初から、建設のみならず通産、農林と共に研究会を設立すべきであるとの強い希望が出されていたが、通産とは解決したし、農林ともうまく行くだらうと考えていた。ところが「ダム工学研究会」設立総会の 10 日ほど前であった。建設省の担当者から、岡本先生に委員長就任のお願いに伺ったところ、“引き受ける条件に、設立総会、少なくとも懇親会に沢田先生のご出席があること”とのこと、沢田先生の件を頼むと連絡があった。岡本先生にお願いしておけばと後悔したが、後の祭りである。沢田先生に電話をさし上げ、沢田先生へのご説明とお願いは建設省の担当者に対応するよう頼んだ。

設立総会の日、岡本舜三先生が委員長に就任され、ダム工学研究会が発足した。また、懇親会で沢田敏男先生にお会いすることもできた。その日こそ建設、通産、農林が共に参画する「ダム工学会」への道へ踏み出した日であった。

岡本舜三先生をはじめ多くの方々には大変お世話になり、感謝の念は尽きない。



第14代会長

やま うち たけし
山 内 彪

ダム工学会設立20周年おめでとう御座います。この間15年にわたって理事、監事、会長といった立場で会の活動に係わってきた会員の一人としてこの20年を振り返ってみたいと思います。この会の設立の話が出てきたのはわが国のダム事業の数が最盛期にあった平成元年頃だと思いますが、研究会として設立された平成2年頃には、既にあの長良川河口堰の反対運動が世間で大きな話題となっており、これからのダム事業の進め方への難しさが、ある程度予感されていた時代でした。当時ダム事業に関する機関や組織としては発注者である国や自治体のいわゆる官と民間電力会社のそれぞれの担当部門や研究所、或いはセンター等の第三者機関のほかに、民間のコンサルタント、ダム施工業者、大学、高専等のダム関係の先生方がおられました。これら関係者が集まる団体としては戦前に電力会社を中心となり、後に官やコンサルタント、続いてダム施工業者が加わった(社)日本大ダム会議や、昭和50年代にダム施工業者が集まって設立された(財)日本ダム協会等がありましたが、いずれも組織としての参加方式でした。そういった時代でしたので、これからの様々な困難が予想されるダムの問題に対して国、自治体の官、電力会社、コンサルタント、ダム施工業者の民に加えて、大学や高専の先生方の学がそれぞれ個人参加の形で結集される研究組織が設立される事は、これまでになかったことで非常に喜ばしいことでした。

多くの著名な先生方やダムに直接関係はない方々にも参加していただき、やがて文部省からも正式の学術団体として認められ、名実ともにダム工学会としての活動が進められていたのですが、一方で公共事業に対するバッシングが強まるにつれて、大型公共事業の代表格としてダムに対するアゲインストの風は益々強くなってきました。そして10年前には某知事による脱ダム宣言などが飛び出してきましたが、これほどダムに対して誤解と偏見に満ちた論調が公然と出てきたのは久しぶりでした。ダムというのは単純に言えば河川に流れてくる水を貯溜して水資源や発電としての利用や、洪水時にそれを貯めることによって、そのピークの流量を減じて下流の堤防への負担を軽減するなど、多目的な機能を有した構造物です。その機能が最も経済的に発揮できると考えられる場合に採用されるものですが、ダムの堆砂、補償問題、環境問題等の負的な側面のみを大きく取り上げ、ついには個人的な美的感覚まで持ち出してダムは治水上必要ない無駄な構造物と決め付けたのです。その後、この考え方は一部見直されたものの、昨年には再燃し、今度はダム抜きでの治水のあり方を問うなどという議論に発展してしまいました。

3000年とも言われる長い治水の歴史を見ればその柱が堤防であることは瞭然であり、ダムはここ100年の議論の中で堤防への負担を軽減するための治水上の手段の一つであるとされ、それが経済的にも最適とされた時に採用される性格のもので、その辺の理解不足がそもそもの誤解のもとでした。このような時代が続いたのですから、ダム工学会の活動にも少なからず影響を与えてきたのは事実で、会員の減少するこの10年間は、一部の会員の方々の熱心なボランティアによって支えられて来たのではないかと考えています。ただ20年の歳月とともに当初の活動の中心であった方々は、今や殆ど第一線を退いており、その継続性が懸念されていますが、この5年間は若手の方々が中心になって新たな学会活動が展開されているとも聞いております。困難な時代が続きますが、ダム本来の目的や機能を十分に一般の方々に理解されるような役目も含めて工学会の更なる発展を期待したいと考えています。

ダム工学会設立 20 周年に寄せて



第 15 代会長

すぎのけんいち
杉野 健一

「ダム工学会」が設立 20 周年を迎えられました事。誠におめでとうございます。

私も設立当時から参加していますが、会員としての活動は平成 7 年にダム工学会評議委員に選任されてからであります。平成 15 年から理事・副会長として学会を運営する立場となり、4 年間副会長を勤めさせて頂きました。16 年に企画運営委員長に任命された時は、最盛期 2100 名近くいた会員がダム事業の減少に伴い急減し、組織活性化が学会の喫緊の課題とされておりました。企画運営委員会がその担当を命じられましたが、当時の「ダム工学会規約」には企画運営委員会に関する規約がまったく無く、規約・規定作りから着手することになりました。それが契機となり、その後すべての規約・規定についての見直し・整備が行われた結果、運営上の課題が迅速に解決でき、かつ会員が活動しやすい組織に改正されていきました。さらに活性化諸方策を具体化すべき機関として、

活性化特別小委員会を 2 年間の時限で設置し、活動を開始いたしました。活動の成果は目覚しく、時限設置の予定が恒久的な組織と位置づけられ、現在も学会の牽引的組織としてダムの啓蒙策や会員増加策活動についての中心的役割を果たして頂いております。

平成 20 年 5 月に第 15 代ダム工学会会長に就任いたしました。就任当時、脱ダム宣言等、過激なダム事業批判が盛んな頃でありましたが、当時の「ダム工学会」の研究活動がダム建設技術に特化していたため、それらの批判に公式に反論できる立場になかったのは残念な事でありました。しかし、ダム工学が直面する課題が多様化・複雑化している現状に対応するためには「ダム工学会」の活動領域の拡大の必要性を痛感し、調査研究委員会に諮り平成 22 年に研究部会の中に新しく「計画研究部会」を立ち上げて頂く事になりました。これからの活躍が期待されます。

国土交通省所管のダム事業は平成 7 年の 405 事業をピークに現在 136 事業に急減しています。そのため「ダム工学会会員」の多くが、ダム事業から離れざるを得ない状況に置かれています。これは民間に限らず、学・官の職域においても同様の傾向にあります。ダム事業の減少がダム技術者の分散やダム技術力の低下を招き、さらにダムを目指そうとする若手技術者の道を閉ざすことに繋がるのが懸念されます。このような状況は、我が国のダム工学の持続的発展と継承にとって大きな損失であります。

現状では国内のダム事業が縮小傾向にあることは明らかですので、ダム技術者はこれから海外のダム事業にも活躍の場を求めていくことが必要であります。海外に目を向ければ地球温暖化に伴う気象変動により水問題が顕在化しており、洪水対策、食料不足対策、エネルギー対策としてのダムの役割に、ますます期待が高まってくるものと思われます。幸い、日本のダム技術は、世界に誇れる技術水準を保持していますので、政府が新成長戦略に掲げるインフラ輸出の一環として、ダム事業の輸出が実現するように学・官・民が一体となって努力していかねばなりません。

ダムを取り巻くこのような環境の中でダム事業を適切に進めていくためには、「ダム工学会」は、ダムが直面する課題や将来の海外進出に向けての課題についての確に取り組み、会員がダムの将来に希望が持てる学会を目指し、全員参加の運営を進めていく必要があります。「ダム工学会」は個人会員に支えられておりますので、会員の減少は直ちに活動の縮小につながります。しばらくは、ダム技術者にとって辛く厳しい時代が続きますが、「ダム工学会会員」の皆様におかれましては、日本のダム工学の持続的発展と継承のために、「ダム工学会」を支える活動を継続して下さるようお願いいたします。



第 16 代会長

さか た けん じ
阪 田 憲 次

ダムの効用

ダムは、発電・利水・治水などの目的で水をためるために、河川・溪谷などを横切って築いた工作物とその付帯構造物の総称と定義される。わが国においては、過去 100 年間にわたり、約 2700 のダムが整備され、洪水の防御、水資源の開発、電力開発等の社会的要請に応えてきた。

近年、ダムの整備がある程度の水準に達したこと、優良なダムサイトの適地が減少したこと、自然環境保全の重要性の意識の高まり等の理由により、新規のダムの建設が難しくなってきた。それに拍車をかけるように、「コンクリートから人へ」のキャッチフレーズとともに、ダム等の社会基盤整備に対する風当たりはきわめて厳しい。とくに、「ハツ場ダムの建設中止」という発言が、「コンクリートから人へ」の象徴とされていることは、残念なことである。ハツ場ダムは、国民の安全で豊かな生活を保証し、社会の経済活動を円滑に進める基盤であり、そのようなストックという視点から建設の是非が議論されるのではなく、今年度の予算をどう配分するかというフローの視点での議論が行われていることに、強い不安と不満を感じる。

わが国の社会基盤整備を取り巻く環境はきわめて厳しい。すなわち、少子高齢化による生産人口の減少は、税収減、および福祉予算の増大をもたらし、公共事業費の削減を余儀なくさせている。また、経済成長期に整備された社会基盤の多くが老朽化し、それに対する効果的な維持管理と長期効用が求められている。刻々と進行する地球温暖化による気候変動は、今までに経験しなかった洪水や渇水被害をもたらす恐れがあり、それらに対する対応策としての社会基盤整備が求められている。また、韓国および中国をはじめとする東アジア諸国の経済成長とどのように向き合っていくかということも、わが国にとって重要な課題である。

わが国の河川は、河床勾配が急であること、洪水流量が流域面積に比べて大きく、短時間に洪水が流出しやすいこと、洪水時の最大流量と渇水時の最小流量の比が大きいこと、地質的に風化しやすい火成岩地帯が多く、崩壊や浸食による流出土砂が多量であること、などの特徴を有している。すなわち、諸外国に比べ、わが国の河川は、きわめて災害を起こしやすい状況にあると言える。また、わが国の 2700 のダム全体の貯水量は約 230 億 m^3 であり、米国のフーバーダムの貯水量 350 億 m^3 の 66% に過ぎない。このような事実を、社会基盤整備を議論する前提として、理解する必要がある。

IPCC (気候変動に関する政府間パネル) の第 4 次統合報告書によれば、地球温暖化が確実に進行していることが、科学的根拠に基づいて報告されている。さらに、地球温暖化の影響についての様々な予測がなされている。気温上昇が 1980 年～99 年を基準にして $2^{\circ}C$ 以上になれば、10 億人～20 億人の人々が、深刻な水不足に直面すると予測している、さらに、30% の種で絶滅の可能性が高まり、人間をも含めた生物多様性の喪失が懸念される。

今、地球が、人類が直面している問題に目を向け、人類の生命を守り、健康で安全な生活を保証し、豊かな自然を守るため、われわれが何を成すべきかを考えるときである。

ダム工学会年表

- 平成 2年 6月 日本ダム工学会設立準備会
 平成 2年 9月 ダム工学研究会 発足
 平成 2年 12月 ダム工学ニュース 創刊
 平成 2年 幹事会、評議委員会、企画運営委員会、編集委員会を設置
- 平成 3年 3月 学会誌「ダム工学」創刊
 平成 3年 理事会を設置
- 平成 4年 ダム工学会賞 技術開発賞を発足
 顧問、監事を設置
- 平成 5年 9月 日本学術会議法に基づく学術研究団体として認可
 平成 5年 表彰委員会、選考委員会を設置
- 平成 6年 5月 第4回通常総会において、名称を「ダム工学会」に改称
 平成 6年 ダム工学会賞 功績賞、論文賞を発足
- 平成 11年 2月 ダム工学会ホームページ開設
- 平成 13年 5月 ダム工学会 10周年記念講演開催
- 平成 14年 ダム工学会賞 技術功績賞、技術賞、著作賞を発足
 調査研究委員会、災害調査委員会を設置
- 平成 15年 ダム工学会賞 特別功績賞を発足
- 平成 17年 12月 ダム工学会 15周年記念シンポジウム開催
 平成 17年 優秀発表賞選考委員会を設置
- 平成 18年 21世紀ダムビジョン懇談会が「21世紀のダムビジョン」を発表
- 平成 20年 8月 メール配信サービス開始
- 平成 21年 11月 一般社団法人登録完了により、「一般社団法人ダム工学会」が設立

会長・役員等

平成3年度

会長	岡本 舜三	東京大学	評議員	足立 紀尚	京都大学
				市川 慧	建設省 土木研究所
副会長	佐々木 才朗	(財)ダム技術センター		大木 達夫	(財)ダム技術センター
	田村 重四郎	日本大学		小川 健	長野県
	本田 茂	(財)日本ダム協会		奥村 敏昭	飛鳥建設(株)
	湯浅 昭	(社)建設コンサルタツ協会		金沢 紀一	電源開発(株)
				吉川 泰	西松建設(株)
理事	安藝 恒夫	(株)大林組		毛涯 卓郎	水資源開発公団
	荒井 治	建設省		小長井 一男	東京大学
	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		阪田 憲次	岡山大学
	大根 義男	愛知工業大学		高樋 堅太郎	水資源開発公団
	岡村 甫	東京大学		竹林 征三	建設省 土木研究所
	清山 信二	鹿島建設(株)		寺島 一雄	前田建設工業(株)
	柴田 功	(財)ダム技術センター		寺園 勝二	(財)ダム水源地環境整備センター
	土居 康良	石川島播磨重工業(株)		葉山 莞児	大成建設(株)
	長瀧 重義	東京工業大学		人見 信之	新日本技術(株)
	長谷川 高士	京都大学		福田 佳之	アイ・エル・エヌ・エー(株)
	羽田 忍	応用地質(株)		古城 一省	八千代エンジニアリング(株)
	山岸 俊之	岐阜県		牧田 新一郎	(株)熊谷組
	山口 甚郎	(財)ダム水源地環境整備センター		三谷 勇蔵	三菱重工業(株)
	山住 有巧	水資源開発公団		宮本 昇	日本工営(株)
	渡邊 元	中部電力(株)		吉越 洋	東京電力(株)

平成4年度

会長	岡本 舜三	東京大学	評議員	足立 紀尚	京都大学
				市川 慧	建設省 土木研究所
副会長	佐々木 才朗	(財)ダム技術センター		大木 達夫	(財)ダム技術センター
	田村 重四郎	東京大学		小川 健	長野県
	本田 茂	(財)日本ダム協会		奥村 敏昭	飛鳥建設(株)
	湯浅 昭	(社)建設コンサルタツ協会		金沢 紀一	電源開発(株)
				吉川 泰	西松建設(株)
理事	安藝 恒夫	(株)大林組		毛涯 卓郎	水資源開発公団
	荒井 治	建設省		小長井 一男	東京大学
	飯田 隆一	(財)ダム技術センター		阪田 憲次	岡山大学
	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		高樋 堅太郎	水資源開発公団
	大根 義男	愛知工業大学		竹林 征三	建設省 土木研究所
	岡村 甫	東京大学		寺島 一雄	前田建設工業(株)
	清山 信二	鹿島建設(株)		寺園 勝二	(財)ダム水源環境整備センター
	柴田 功	アイ・エル・エンジニアリング(株)		葉山 莞児	大成建設(株)
	土居 康良	石川島播磨重工業(株)		人見 信之	(株)ニュージェック
	内藤 克美	水資源開発公団		福田 佳之	アイ・エル・エンジニアリング(株)
	長瀧 重義	東京工業大学		古城 一省	八千代エンジニアリング(株)
	長谷川 高士	京都大学		牧田 新一郎	(株)熊谷組
	羽田 忍	応用地質(株)		三谷 勇蔵	三菱重工業(株)
	藤重 邦夫	水資源開発公団		宮本 昇	日本工営(株)
	山岸 俊之	岐阜県		吉越 洋	東京電力(株)
	山口 甚郎	(財)ダム水源環境整備センター			
	山住 有巧	水資源開発公団			
	渡邊 元	東海コンクリート工業(株)			
監事	今村 瑞穂	岡山県			
	小林 義正	(財)日本ダム協会			
顧問	國分 正胤	東京大学			
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	山本 三郎	(財)日本住宅総合センター			

平成5年度

会長	岡本 舜三	東京大学	評議員	足立 紀尚	京都大学
				石井 次男	福島県
副会長	佐々木 才朗	(財)ダム技術センター		市川 慧	建設省 土木研究所
	田村 重四郎	東京大学		大木 達夫	(財)ダム技術センター
	本田 茂	(財)日本ダム協会		奥村 敏昭	飛鳥建設(株)
	湯浅 昭	(社)建設コンサルタツ協会		金沢 紀一	電源開発(株)
				吉川 泰	西松建設(株)
理事	安藝 恒夫	(株)大林組		毛涯 卓郎	水資源開発公団
	荒井 治	建設省		小長井 一男	東京大学
	飯田 隆一	(財)ダム技術センター		阪田 憲次	岡山大学
	石井 清	東京電力(株)		高樋 堅太郎	水資源開発公団
	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		竹林 征三	建設省 土木研究所
	大根 義男	愛知工業大学		寺島 一雄	前田建設工業(株)
	岡村 甫	東京大学		寺園 勝二	(財)ダム水源環境整備センター
	清山 信二	鹿島建設(株)		葉山 莞児	大成建設(株)
	土居 康良	石川島播磨重工業(株)		人見 信之	(株)ニュージェック
	内藤 克美	水資源開発公団		福田 佳之	アイールエンジニアリング(株)
	長瀧 重義	東京工業大学		古城 一省	八千代エンジニアリング(株)
	長谷川 高士	京都大学		牧田 新一郎	(株)熊谷組
	羽田 忍	応用地質(株)		三谷 勇蔵	三菱重工業(株)
	山内 彪	水資源開発公団		宮本 昇	日本工営(株)
	藤重 邦夫	水資源開発公団		吉越 洋	東京電力(株)
	山岸 俊之	岐阜県			
	山口 甚郎	(財)ダム水源環境整備センター			
	山住 有巧	(財)ダム技術センター			
監事	今村 瑞穂	水資源開発公団			
	小林 義正	(財)日本ダム協会			
顧問	國分 正胤	東京大学			
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	山本 三郎	(社)日本河川協会			

平成6年度

会長	佐々木 才朗	(財)ダム技術センター	評議員	足立 紀尚	京都大学
				石井 次男	福島県
副会長	飯田 隆一	(財)ダム技術センター		市川 慧	(財)国土開発技術研究センター
	田村 重四郎	東京大学		大木 達夫	(財)ダム技術センター
	湯浅 昭	(株)建設技術研究所		奥村 敏昭	飛鳥建設(株)
理事	安藝 恒夫	(株)大林組		金沢 紀一	電源開発(株)
	石井 清	東京電力(株)		吉川 泰	西松建設(株)
	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		毛涯 卓郎	(財)水資源協会
	大根 義男	愛知工業大学		小長井 一男	東京大学
	岡村 甫	東京大学		阪田 憲次	岡山大学
	坂本 健次	鹿島建設(株)		高樋 堅太郎	水資源開発公団
	坂本 忠彦	建設省		竹林 征三	建設省 土木研究所
	谷山 重孝	水資源開発公団		寺島 一雄	前田建設工業(株)
	土居 康良	石川島播磨重工業(株)		寺園 勝二	(財)ダム水源環境整備センター
	長瀧 重義	東京工業大学		葉山 莞児	大成建設(株)
	長谷川 高士	京都大学		人見 信之	(株)ニュージェック
	原田 譲二	三重県		福田 佳之	アイ・エル・エス・エス(株)
	藤重 邦夫	水資源開発公団		古城 一省	八千代エンジニアリング(株)
	羽田 忍	応用地質(株)		牧田 新一郎	(株)熊谷組
	山内 彪	水資源開発公団		三谷 勇蔵	三菱重工業(株)
	山口 甚郎	国際航業(株)		宮本 昇	日本工営(株)
	山住 有巧	(財)ダム技術センター		吉越 洋	東京電力(株)
監事	今村 瑞穂	水資源開発公団			
	小林 義正	(財)日本ダム協会			
顧問	國分 正胤	東京大学			
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	山本 三郎	(社)日本河川協会			
	岡本 舜三	東京大学			

平成7年度

会長	田村 重四郎	東京大学	評議員	足立 紀尚	京都大学
				石川 忠晴	東京工業大学
副会長	飯田 隆一	(財)ダム技術センター		江川 良武	建設省 土木研究所
	中川 博次	京都大学		大町 達夫	東京工業大学
	湯浅 昭	(株)建設技術研究所		奥田 英治	アイ・エンジニアリング(株)
				木村 省三	香川県
理事	青山 俊樹	建設省		工藤 正	(株)建設技術研究所
	荒井 治	(財)ダム水源地環境整備センター		小長井 一男	東京大学
	大根 義男	愛知工業大学		酒井 克己	日立造船(株)
	岡村 甫	東京大学		阪田 憲次	岡山大学
	坂本 健次	鹿島建設(株)		品川 正典	建設省
	谷山 重孝	水資源開発公団		清水 国夫	日本工営(株)
	長瀧 重義	東京工業大学		清水 哲	(株)ニュージェック
	長谷川 高士	京都大学		下青木 隆一	飛鳥建設(株)
	原田 稔	関西電力(株)		下村 周	(財)ダム水源地環境整備センター
	福富 幹男	応用地質(株)		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	丸杉 雄造	日本工営(株)		高樋 堅太郎	水資源開発公団
	三谷 勇蔵	三菱重工業(株)		田口 勝也	水資源開発公団
	森下 忠幸	水資源開発公団		寺本 勝三	西松建設(株)
	矢野 元暎	(株)大林組		長田 高雄	石川島播磨重工業(株)
	山岸 俊之	水資源開発公団		中村 幾雄	関西電力(株)
	山地 義門	水資源開発公団		藤澤 侃彦	建設省 土木研究所
	山住 有巧	(財)ダム技術センター		堀 正幸	電源開発(株)
	大和 文哉	(株)間組		堀家 茂一	(株)熊谷組
	横内 秀明	香川県		眞野 達直	前田建設工業(株)
				松谷 真二	大成建設(株)
監事	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		松本 徳久	(財)ダム技術センター
	岡本 舜三	東京大学		三井 良直	佐藤工業(株)
				柳澤 栄司	東北大学
顧問	國分 正胤	東京大学		吉越 洋	東京電力(株)
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	山本 三郎	(財)日本住宅総合センター			
	佐々木 才朗	(財)水資源協会			

平成8年度

会長	田村 重四郎	東京大学	評議員	足立 紀尚	京都大学
				石川 忠晴	東京工業大学
副会長	飯田 隆一	(財)ダム技術センター		江川 良武	(社)国際建設技術協会
	中川 博次	京都大学		大町 達夫	東京工業大学
	湯浅 昭	(株)建設技術研究所		奥田 英治	アイ・エンジニアリング(株)
				木村 省三	香川県
理事	荒井 治	(財)ダム水源地環境整備センター		工藤 正	(株)建設技術研究所
	大根 義男	愛知工業大学		小長井 一男	東京大学
	岡村 甫	東京大学		酒井 克己	日立造船(株)
	坂本 健次	鹿島建設(株)		阪田 憲次	岡山大学
	竹村 公太郎	建設省		品川 正典	農水省
	中道 宏	水資源開発公団		清水 国夫	日本工営(株)
	長瀧 重義	新潟大学		清水 哲	(株)ニュージェック
	長谷川 高士	京都大学		下青木 隆一	飛鳥建設(株)
	原田 稔	関西電力(株)		下村 周	(財)ダム水源地環境整備センター
	福富 幹男	応用地質(株)		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	丸杉 雄造	日本工営(株)		高樋 堅太郎	水資源開発公団
	三谷 勇蔵	三菱重工業(株)		田口 勝也	水資源開発公団
	森下 忠幸	水資源開発公団		寺本 勝三	西松建設(株)
	矢野 元暎	(株)大林組		長田 高雄	(株)東京エンジニアリング
	山岸 俊之	水資源開発公団		中村 幾雄	関西電力(株)
	山地 義門	水資源開発公団		藤澤 侃彦	建設省 土木研究所
	山住 有巧	(財)ダム技術センター		堀 正幸	電源開発(株)
	大和 文哉	(株)間組		堀家 茂一	(株)熊谷組
	横内 秀明	香川県		眞野 達直	前田建設工業(株)
				松谷 真二	大成建設(株)
監事	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		松本 徳久	(財)ダム技術センター
	山内 彪	(財)日本ダム協会		三井 良直	佐藤工業(株)
				柳澤 栄司	東北大学
顧問	國分 正胤	東京大学		吉越 洋	東京電力(株)
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	山本 三郎	(財)日本住宅総合センター			
	佐々木 才朗	(財)水資源協会			
	岡本 舜三	東京大学			

平成9年度

会長	湯浅 昭	(株)建設技術研究所	評議員	足立 紀尚	京都大学
				石川 忠晴	東京工業大学
副会長	飯田 隆一	(財)ダム技術センター		上阪 恒雄	建設省 土木研究所
	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		大町 達夫	東京工業大学
	坂本 健次	鹿島建設(株)		奥田 英治	アイ・エンジニアリング(株)
	中川 博次	京都大学		加藤 敏治	水資源開発公団
				神尾 重雄	建設省 土木研究所
理事	荒井 治	(財)ダム水源環境整備センター		工藤 正	(株)建設技術研究所
	伊集院 敏	(株)間組		酒井 克己	日立造船(株)
	上原 忠	(株)大林組		阪田 憲次	岡山大学
	大根 義男	愛知工業大学		酒井 信義	富山県
	岡村 甫	東京大学		佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー
	小野 透	日立造船(株)		清水 哲	(株)ニュージェック
	金沢 紀一	電源開発(株)		下青木 隆一	飛鳥建設(株)
	坂本 忠彦	(財)ダム技術センター		下村 周	(財)ダム水源環境整備センター
	白井 芳樹	富山県		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	高樋 堅太郎	水資源開発公団		高津 浩明	東京電力(株)
	竹村 公太郎	建設省		寺本 勝三	西松建設(株)
	中道 宏	水資源開発公団		長田 高雄	(株)東京エンジニアリング
	長瀧 重義	東京工業大学		中村 幾雄	関西電力(株)
	長谷川 高士	京都大学		堀 正幸	電源開発(株)
	福富 幹男	応用地質(株)		堀家 茂一	(株)熊谷組
	丸杉 雄造	日本工営(株)		松島 浩太郎	佐藤工業(株)
	森下 忠幸	水資源開発公団		松谷 真二	大成建設(株)
	山地 義門	水資源開発公団		松本 徳久	(財)ダム技術センター
監事	山内 彪	(財)日本ダム協会		水野 光章	水資源開発公団
	上條 實	東京電力(株)		宮本 博司	建設省
				柳澤 栄司	東北大学
				米谷 敏	前田建設工業(株)
顧問	國分 正胤	東京大学			
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	山本 三郎	(財)日本住宅総合センター			
	岡本 舜三	東京大学			
	田村 重四郎	東京大学			

小長井 一男 東京大学



平成10年度

会長	中川 博次	京都大学	評議員	石川 忠晴	東京工業大学
				上阪 恒雄	建設省 土木研究所
副会長	飯田 隆一	(財)ダム技術センター		大町 達夫	東京工業大学
	大根 義男	愛知工業大学		奥田 英治	アイ・エンジニアリング(株)
	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー		加藤 敏治	水資源開発公団
	坂本 健次	鹿島建設(株)		神尾 重雄	建設省 土木研究所
				工藤 正	(株)建設技術研究所
理事	足立 紀尚	京都大学		酒井 克己	日立造船(株)
	伊集院 敏	(株)間組		阪田 憲次	岡山大学
	上原 忠	(株)大林組		佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー
	岡村 甫	東京大学		清水 哲	(株)ニュージェック
	小野 透	日立造船(株)		下青木 隆一	飛鳥建設(株)
	葛城 幸一郎	水資源開発公団		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	金沢 紀一	電源開発(株)		鈴木 紘	西松建設(株)
	黒澤 正敬	水資源開発公団		高津 浩明	東京電力(株)
	坂本 忠彦	(財)ダム技術センター		田中 忠次	明治大学
	坂本 弘道	水資源開発公団		中 哲男	富山県
	下村 周	(財)ダム水源環境整備センター		長田 高雄	(株)東京エンジニアリング
	白井 芳樹	富山県		中村 幾雄	関西電力(株)
	長瀧 重義	新潟大学		堀 正幸	電源開発(株)
	長谷川 高士	京都大学		堀家 茂一	(株)熊谷組
	福富 幹男	応用地質(株)		松島 浩太郎	佐藤工業(株)
	丸杉 雄造	日本工営(株)		松谷 真二	大成建設(株)
	山地 義門	水資源開発公団		松本 徳久	(財)ダム技術センター
	横塚 尚志	建設省		水野 光章	水資源開発公団
				満岡 英世	(財)ダム水源環境整備センター
監事	山内 彪	(財)日本ダム協会		宮本 博司	建設省
	上條 實	東京電力(株)		柳澤 栄司	東北大学
				米谷 敏	前田建設工業(株)
顧問	國分 正胤	東京大学			
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	岡本 舜三	東京大学			
	田村 重四郎	東京大学			

平成11年度

会長	飯田 隆一	(財)ダム技術センター	評議員	石川 忠晴	東京工業大学
				上阪 恒雄	建設省 土木研究所
副会長	大根 義男	愛知工業大学		大町 達夫	東京工業大学
	坂本 健次	鹿島建設(株)		奥田 英治	アイ・エンジニアリング(株)
	古城 一省	八千代エンジニアリング(株)		神尾 重雄	建設省 土木研究所
	山口 甚郎	(財)経済調査会		工藤 正	(株)建設技術研究所
				小長井 一男	東京大学
理事	足立 紀尚	京都大学		酒井 克己	日立造船(株)
	伊集院 敏	(株)間組		阪田 憲次	岡山大学
	入佐 純次	応用地質(株)		佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー
	上原 忠	(株)大林組		塩田 洵	電源開発(株)
	岡村 甫	東京大学		渋谷 八郎	三菱重工業(株)
	小野 透	日立造船(株)		清水 哲	(株)ニュージェック
	葛城 幸一郎	水資源開発公団		下青木 隆一	飛鳥建設(株)
	熊谷 恒一郎	福岡県		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	黒澤 正敬	水資源開発公団		鈴木 紘	西松建設(株)
	坂本 忠彦	(財)ダム技術センター		高津 浩明	東京電力(株)
	坂本 弘道	水資源開発公団		隅田 知明	福岡県
	長瀧 重義	東京工業大学		原田 譲二	(財)ダム水源環境整備センター
	長谷川 高士	京都大学		播田 一雄	水資源開発公団
	満岡 英世	(財)ダム水源環境整備センター		堀家 茂一	(株)熊谷組
	丸杉 雄造	日本工営(株)		松島 浩太郎	佐藤工業(株)
	宮口 友延	中部電力(株)		松谷 真二	大成建設(株)
	山地 義門	水資源開発公団		松本 徳久	(財)ダム技術センター
	横塚 尚志	建設省		松本 正毅	関西電力(株)
				水野 光章	水資源開発公団
監事	上條 實	日本工営(株)		宮本 博司	建設省
	山内 彪	(財)日本ダム協会		柳澤 栄司	東北大学
				米谷 敏	前田建設工業(株)
顧問	國分 正胤	東京大学			
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	岡本 舜三	東京大学			
	田村 重四郎	東京大学			
	中川 博次	京都大学			

平成12年度

会長	大根 義男	愛知工業大学	評議員	青山 俊行	建設省
				石川 忠晴	東京工業大学
副会長	坂本 健次	鹿島建設(株)		上阪 恒雄	建設省 土木研究所
	長瀧 重義	新潟大学		魚本 健人	東京大学
	古城 一省	八千代エンジニアリング(株)		大町 達夫	東京工業大学
	山口 甚郎	(財)経済調査会		奥田 英治	アイールエンジニアリング(株)
				工藤 正	(株)建設技術研究所
理事	足立 紀尚	京都大学		小長井 一男	東京大学
	伊集院 敏	(株)間組		酒井 克己	日立造船(株)
	入佐 純次	応用地質(株)		阪田 憲次	岡山大学
	上原 忠	(株)大林組		佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・イー
	岡村 甫	東京大学		塩田 洵	電源開発(株)
	小野 透	日立造船(株)		渋谷 八郎	三菱重工業(株)
	熊谷 恒一郎	福岡県		清水 哲	(株)ニュージェック
	黒澤 正敬	水資源開発公団		下青木 隆一	飛鳥建設(株)
	坂本 忠彦	(財)ダム技術センター		丈達 俊夫	水資源開発公団
	坂本 弘道	水資源開発公団		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	高橋 修	日本工営(株)		鈴木 紘	西松建設(株)
	長谷川 高士	京都大学		高津 浩明	東京電力(株)
	藤原 信吉	水資源開発公団		隅田 知明	福岡県
	満岡 英世	(財)ダム水源地環境整備センター		田中 雄作	(株)熊谷組
	水野 光章	水資源開発公団		西田 穂積	建設省 土木研究所
	宮口 友延	中部電力(株)		原田 讓二	(財)ダム水源地環境整備センター
	柳澤 栄司	八戸工業高等専門学校		播田 一雄	水資源開発公団
	横塚 尚志	建設省		松島 浩太郎	佐藤工業(株)
				松谷 真二	大成建設(株)
監事	山内 彪	(財)日本ダム協会		松本 徳久	(財)ダム技術センター
	上條 實	日本工営(株)		松本 正毅	関西電力(株)
				米谷 敏	前田建設工業(株)
顧問	國分 正胤	東京大学			
	沢田 敏雄	京都大学			
	野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議			
	岡本 舜三	東京大学			
	田村 重四郎	東京大学			
	中川 博次	京都大学			
	飯田 隆一	(財)ダム技術センター			

平成13年度

会長	坂本 健次	鹿島建設(株)	監事	山内 彪	(財)日本ダム協会
				吉越 洋	東京電力(株)
副会長	上原 忠	(株)大林組	顧問	國分 正胤	東京大学
	長瀧 重義	新潟大学		沢田 敏雄	京都大学
	福田 佳之	アイドールエンジニアリング(株)		野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議
	山口 甚郎	(財)経済調査会		岡本 舜三	東京大学
理事	足立 紀尚	京都大学		田村 重四郎	東京大学
	入江 洋樹	(財)ダム技術センター		中川 博次	京都大学
	岡田 宣昭	(株)間組		飯田 隆一	(財)ダム技術センター
	岡村 甫	高知工科大学		大根 義男	愛知工業大学
	門松 武	国土交通省			
	黒澤 正敬	水資源開発公団			
	坂本 弘道	水資源開発公団			
	清水 哲	(株)ニュージェック			
	富岡 征一郎	鹿島建設(株)			
	野阪 正美	(株)建設技術研究所			
	長谷川 高士	京都大学			
	藤原 信吉	水資源開発公団			
	堀部 優	日立造船(株)			
	満岡 英世	(財)ダム水源地環境整備センター			
	水野 光章	水資源開発公団			
	宮口 友延	中部電力(株)			
	柳澤 栄司	八戸工業高等専門学校			
	山口 昇	兵庫県			

平成13年度

評議員	青山 俊行	国土交通省
	石川 忠晴	東京工業大学
	魚本 健人	東京大学
	内田 善久	東京電力(株)
	大町 達夫	東京工業大学
	岡田 光弘	飛鳥建設(株)
	岡部 幸彦	応用地質(株)
	奥田 英治	アイ・エンジニアリング(株)
	越川 正彦	三井建設(株)
	小長井 一男	東京大学
	酒井 克己	日立造船(株)
	阪田 憲次	岡山大学
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー
	篠原 巧吉	日本工営(株)
	嶋田 洋	清水建設(株)
	丈達 俊夫	水資源開発公団
	杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	鈴木 英二	三菱重工業(株)
	鈴木 紘	西松建設(株)
	高須 修二	(独)土木研究所
	田中 雄作	(株)熊谷組
	中川 進三郎	兵庫県
	中村 康夫	(独)土木研究所
	原田 譲二	(財)ダム水源地環境整備センター
	樋口 淳美	水資源開発公団
	松谷 真二	大成建設(株)
	松本 徳久	(財)ダム技術センター
	松本 正毅	関西電力(株)
	村 良平	電源開発(株)
	舘 真人	佐藤工業(株)
	米谷 敏	前田建設工業(株)

平成14年度

会長	長瀧 重義	新潟大学	監事	吉越 洋	東京電力(株)
				山内 彪	(財)日本ダム協会
副会長	上原 忠	(株)大林組	顧問	國分 正胤	東京大学
	長谷川 高士	近畿大学		沢田 敏雄	京都大学
	福田 佳之	アイ・エル・エス・コンサルティング(株)		野瀬 正儀	(社)日本大ダム会議
	山口 甚郎	(財)経済調査会		岡本 舜三	東京大学
理事	足立 紀尚	京都大学		田村 重四郎	東京大学
	入江 洋樹	(財)ダム技術センター		中川 博次	京都大学
	岡田 宣昭	(株)間組		飯田 隆一	(財)ダム技術センター
	岡村 甫	高知工科大学		大根 義男	愛知工業大学
	門松 武	国土交通省		坂本 健次	鹿島建設(株)
	坂本 弘道	水資源開発公団			
	阪田 憲次	岡山大学			
	清水 哲	(株)ニュージェック			
	丈達 俊夫	水資源開発公団			
	富岡 征一郎	鹿島建設(株)			
	野阪 正美	(株)建設技術研究所			
	原田 譲二	(財)ダム水源地環境整備センター			
	藤原 信吉	水資源開発公団			
	堀部 優	日立造船(株)			
	松浦 良和	水資源開発公団			
	宮口 友延	中部電力(株)			
	柳澤 栄司	八戸工業高等専門学校			
	山口 昇	兵庫県			

平成14年度

評議員	青山 俊行	国土交通省
	石川 忠晴	東京工業大学
	石川 浩	兵庫県
	内田 善久	東京電力(株)
	岡田 光弘	飛鳥建設(株)
	岡部 幸彦	応用地質(株)
	越川 正彦	三井建設(株)
	塩入 淑史	水資源開発公団
	執行 信	前田建設工業(株)
	篠原 巧吉	日本工営(株)
	嶋田 洋	清水建設(株)
	鈴木 英二	三菱重工業(株)
	鈴木 紘	西松建設(株)
	高須 修二	(独)土木研究所
	舘 真人	佐藤工業(株)
	田中 雄作	(株)熊谷組
	中村 康夫	(独)土木研究所
	橋本 健	(財)ダム水源地環境整備センター
	樋口 淳美	水資源開発公団
	村 良平	電源開発(株)
	奥田 英治	アイ・エル・エンジニアリング(株)
	魚本 健人	東京大学
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー
	酒井 克己	日立造船(株)
	小長井 一男	東京大学
	松谷 真二	大成建設(株)
	松本 正毅	関西電力(株)
	松本 徳久	(財)ダム技術センター
	杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	成田 国朝	愛知工業大学
	浅枝 隆	埼玉大学
	大町 達夫	東京工業大学

平成15年度

会長	山口 甚郎	(財)経済調査会	監事	前田 泰生	電源開発(株)
				山内 彪	(財)日本ダム協会
副会長	入江 洋樹	(財)ダム技術センター	顧問	國分 正胤	東京大学
	上原 忠	(株)大林組		沢田 敏雄	京都大学
	杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)		田村 重四郎	東京大学
	長谷川 高士	近畿大学		中川 博次	京都大学
理事	足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所		飯田 隆一	(財)ダム技術センター
	大町 達夫	東京工業大学		大根 義男	愛知工業大学
	奥田 英治	アイールエンジニアリング(株)		坂本 健次	鹿島建設(株)
	陰山 凌	兵庫県		長瀧 重義	愛知工業大学
	木村 洋行	大成建設(株)		岡村 甫	高知工科大学
	阪田 憲次	岡山大学			
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー			
	丈達 俊夫	水資源開発公団			
	富岡 征一郎	鹿島建設(株)			
	原田 讓二	(財)ダム水源環境整備センター			
	堀部 優	日立造船(株)			
	松浦 良和	水資源開発公団			
	松本 徳久	(財)ダム技術センター			
	望月 常好	国土交通省			
	山崎 遼二	(株)間組			
	柳澤 栄司	八戸工業高等専門学校			
	吉越 洋	東京電力(株)			

平成15年度

評議員	浅枝 隆	埼玉大学
	池内 幸司	国土交通省
	石川 忠晴	東京工業大学
	魚本 健人	東京大学
	宇佐美 雅弘	石川島播磨重工業(株)
	内田 善久	東京電力(株)
	大本 家正	水資源開発公団
	大藪 勝美	水資源開発公団
	岡田 光弘	飛鳥建設(株)
	岡部 幸彦	応用地質(株)
	岡本 政明	(株)ニュージェック
	金 昌秀	(株)建設技術研究所
	越川 正彦	三井住友建設(株)
	小長井 一男	東京大学
	才田 進	八千代エンジニアリング(株)
	佐々木 史朗	東京都
	佐々木 良作	兵庫県
	佐藤 良一	清水建設(株)
	塩尻 弘雄	日本大学
	執行 信	前田建設工業(株)
	篠原 巧吉	日本工営(株)
	鈴木 英二	三菱重工業(株)
	鈴木 紘	西松建設(株)
	田中 雄作	(株)熊谷組
	寺田 昌史	関西電力(株)
	中村 康夫	(独)土木研究所
	永山 功	(独)土木研究所
	成田 国朝	愛知工業大学
	野池 悦雄	中部電力(株)
	橋本 健	(財)ダム水源地環境整備センター
	藤澤 侃彦	(財)ダム技術センター
	舘 真人	佐藤工業(株)

平成16年度

会長	長谷川 高士	京都大学	監事	山内 彪	(財)日本ダム協会
				前田 泰生	電源開発(株)
副会長	足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所	顧問	國分 正胤	東京大学
	入江 洋樹	(財)ダム技術センター		沢田 敏雄	京都大学
	上原 忠	(株)大林組		田村 重四郎	東京大学
	杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)		中川 博次	京都大学
理事	大町 達夫	東京工業大学		飯田 隆一	(財)ダム技術センター
	大藪 勝美	(独)水資源機構		大根 義男	愛知工業大学
	岡野 眞久	(財)ダム水源環境整備センター		坂本 健次	鹿島建設(株)
	奥田 英治	アイ・エルエンジニアリング(株)		長瀬 重義	愛知工業大学
	陰山 凌	兵庫県		岡村 甫	高知工科大学
	木村 洋行	大成建設(株)		山口 甚郎	川崎重工業(株)
	阪田 憲次	岡山大学			
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー			
	田中 忠次	東京大学			
	富岡 征一郎	鹿島建設(株)			
	堀部 優	日立造船(株)			
	松浦 良和	(独)水資源機構			
	松本 徳久	(財)ダム技術センター			
	望月 常好	国土交通省			
	山崎 遼二	(株)間組			
	柳澤 栄司	八戸工業高等専門学校			
	吉越 洋	東京電力(株)			

平成16年度

評議員	浅枝 隆	埼玉大学
	石川 忠晴	東京工業大学
	伊藤 涉	(独)水資源機構
	魚本 健人	東京大学
	宇佐美 雅弘	石川島播磨重工業(株)
	内田 善久	東京電力(株)
	岡田 光弘	飛鳥建設(株)
	岡部 幸彦	応用地質(株)
	岡本 政明	(株)ニュージェック
	金尾 健司	国土交通省
	金 昌秀	(株)建設技術研究所
	越川 正彦	三井住友建設(株)
	小長井 一男	東京大学
	才田 進	八千代エンジニアリング(株)
	佐々木 史朗	東京都
	佐々木 良作	兵庫県
	貞弘 丈佳	(独)水資源機構
	塩尻 弘雄	日本大学
	執行 信	前田建設工業(株)
	篠原 巧吉	日本工営(株)
	鈴木 英二	三菱重工業(株)
	鈴木 紘	西松建設(株)
	田中 雄作	(株)熊谷組
	寺田 昌史	関西電力(株)
	永山 功	(独)土木研究所
	成田 国朝	愛知工業大学
	野池 悦雄	中部電力(株)
	橋本 健	(財)ダム水源地環境整備センター
	平野 勇	(独)土木研究所
	藤澤 侃彦	(財)ダム技術センター
	宝示戸 恒夫	清水建設(株)
	舘 真人	佐藤工業(株)

平成17年度

会長	梅田 貞夫	鹿島建設(株)	監事	前田 泰生	電源開発(株)
				山内 彪	(財)日本ダム協会
副会長	足立 紀尚	京都大学			
	入江 洋樹	(財)ダム技術センター	顧問	沢田 敏雄	京都大学
	杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)		田村 重四郎	東京大学
	富岡 征一郎	鹿島建設(株)		中川 博次	京都大学
理事	太田 信介	(独)水資源機構		飯田 隆一	(財)ダム技術センター
	大町 達夫	東京工業大学		大根 義男	愛知工業大学
	大藪 勝美	(独)水資源機構		坂本 健次	鹿島建設(株)
	岡野 眞久	(財)ダム水源環境整備センター		長瀧 重義	愛知工業大学
	奥田 英治	アイ・エルエンジニアリング(株)		岡村 甫	高知工科大学
	小林 将志	大成建設(株)		山口 甚郎	川崎重工業(株)
	阪田 憲次	岡山大学		長谷川 高士	京都大学
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー			
	関 克己	国土交通省			
	田中 忠次	東京大学			
	原口 和夫	兵庫県			
	平山 健一	日立造船(株)			
	本庄 正史	(株)大林組			
	松本 徳久	(財)ダム技術センター			
	柳澤 栄司	八戸工業高等専門学校			
	山崎 遼二	(株)間組			
	吉越 洋	東京電力(株)			

平成17年度

評議員	浅枝 隆	埼玉大学
	石川 忠晴	東京工業大学
	上村 道夫	三菱重工業(株)
	魚本 健人	東京大学
	内田 善久	東京電力(株)
	大石 啓一	西松建設(株)
	岡田 光弘	飛鳥建設(株)
	岡部 幸彦	応用地質(株)
	岡本 政明	(株)ニュージェック
	片岡 幸毅	関西電力(株)
	金尾 健司	国土交通省
	窪田 彰	兵庫県
	越川 正彦	(株)前川元組
	小島 治久	石川島播磨重工業(株)
	小長井 一男	東京大学
	金 昌秀	(株)建設技術研究所
	才田 進	八千代エンジニアリング(株)
	佐々木 史朗	東京都
	塩尻 弘雄	日本大学
	執行 信	前田建設工業(株)
	篠原 巧吉	日本工営(株)
	高橋 信行	(株)熊谷組
	成田 国朝	愛知工業大学
	野池 悦雄	中部電力(株)
	橋本 健	(財)ダム水源環境整備センター
	平野 勇	(独)土木研究所
	藤澤 侃彦	(財)ダム技術センター
	宝示戸 恒夫	清水建設(株)
	山口 温朗	(独)水資源機構
	舘 真人	佐藤工業(株)
	吉田 等	(独)土木研究所

平成18年度

会長	足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所	監事	前田 泰生	電源開発(株)
				山内 彪	(財)日本ダム協会
副会長	入江 洋樹	いであ(株)			
	阪田 憲次	岡山大学	顧問	沢田 敏雄	京都大学
	杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)		田村 重四郎	東京大学
	富岡 征一郎	鹿島建設(株)		中川 博次	京都大学
理事	伊橋昭一郎	日立造船鉄構(株)		飯田 隆一	(財)ダム技術センター
	魚本 健人	東京大学		大根 義男	愛知工業大学
	太田 信介	(独)水資源機構		坂本 健次	鹿島建設(株)
	大町 達夫	東京工業大学		長瀧 重義	愛知工業大学
	大藪 勝美	(独)水資源機構		岡村 甫	高知工科大学
	岡野 眞久	(財)ダム水源地環境整備センター		山口 甚郎	川崎重工業(株)
	奥田 英治	アイールエンジニアリング(株)		長谷川 高士	京都大学
	金澤 真一	(株)間組		梅田 貞夫	鹿島建設(株)
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー			
	塩尻 弘雄	日本大学			
	関 克己	国土交通省			
	田中 忠次	東京大学			
	原口 和夫	兵庫県			
	本庄 正史	(株)大林組			
	松本 徳久	(財)ダム技術センター			
	吉越 洋	東京電力(株)			
	吉田 明	大成建設(株)			

平成18年度

評議員	浅枝 隆	埼玉大学
	石川 忠晴	東京工業大学
	上村 道夫	三菱重工業(株)
	内田 善久	東京電力(株)
	岡田 光弘	飛鳥建設(株)
	岡部 幸彦	応用地質(株)
	岡本 政明	(株)ニュージェック
	片岡 幸毅	関西電力(株)
	金尾 健司	国土交通省
	窪田 彰	兵庫県
	越川 正彦	(株)前川元組
	小島 治久	石川島播磨重工業(株)
	小長井 一男	東京大学
	金 昌秀	(株)建設技術研究所
	才田 進	八千代エンジニアリング(株)
	佐々木 史朗	東京都
	佐藤 健一	前田建設工業(株)
	佐藤 政良	筑波大学
	篠原 巧吉	日本工営(株)
	高橋 信行	(株)熊谷組
	成田 国朝	愛知工業大学
	野池 悦雄	中部電力(株)
	橋本 健	(財)ダム水源環境整備センター
	平野 勇	(独)土木研究所
	藤澤 侃彦	(財)ダム技術センター
	宝示戸 恒夫	清水建設(株)
	松尾 直規	中部大学
	松本 章	西松建設(株)
	山口 温朗	(独)水資源機構
	舘 真人	佐藤工業(株)
	吉田 等	(独)土木研究所

平成19年度

会長	山内 彪	(株)間組	監事	砂道 紀人	電源開発(株)
				横塚 尚志	(財)日本ダム協会
副会長	阪田 憲次	岡山大学	顧問	沢田 敏雄	京都大学
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー		田村 重四郎	東京大学
	富岡 征一郎	鹿島建設(株)		中川 博次	京都大学
	濱口 達男	(財)ダム技術センター		飯田 隆一	(財)ダム技術センター
理事	伊橋昭一郎	日立造船鉄構(株)		大根 義男	愛知工業大学
	井上 俊廣	兵庫県		坂本 健次	鹿島建設(株)
	魚本 健人	芝浦工業大学		長瀧 重義	愛知工業大学
	太田 信介	(独)水資源機構		岡村 甫	高知工科大学
	大町 達夫	東京工業大学		山口 甚郎	川崎重工業(株)
	大藪 勝美	(独)水資源機構		長谷川 高士	京都大学
	岡野 眞久	(財)ダム水源地環境整備センター		梅田 貞夫	鹿島建設(株)
	奥田 英治	アイ・エル・エス・エー(株)		足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所
	金澤 真一	(株)間組			
	塩尻 弘雄	日本大学			
	篠原 巧吉	日本工営(株)			
	関 克己	国土交通省			
	田中 忠次	東京大学			
	本庄 正史	(株)大林組			
	柳川 城二	(財)ダム技術センター			
	吉越 洋	東京電力(株)			
	吉田 明	大成建設(株)			

平成19年度

評議員	浅枝 隆	埼玉大学
	石川 忠晴	東京工業大学
	井桁 英夫	西松建設(株)
	伊藤 淳	飛鳥建設(株)
	上村 道夫	三菱重工業(株)
	岡本 政明	(株)ニュージェック
	片岡 幸毅	関西電力(株)
	北川 正男	三井住友建設(株)
	金 昌秀	(株)建設技術研究所
	久保田 克寿	東京電力(株)
	熊谷 清	(財)ダム水源地環境整備センター
	小嶋 順一	八千代エンジニアリング(株)
	小島 治久	石川島播磨重工業(株)
	小長井 一男	東京大学
	佐藤 健一	前田建設工業(株)
	佐藤 政良	筑波大学
	清水 敏夫	(株)アイ・エヌ・エー
	高須 修二	(財)ダム技術センター
	高橋 信行	(株)熊谷組
	田村 聡志	東京都
	成田 国朝	愛知工業大学
	西田 誠	佐藤工業(株)
	野池 悦雄	中部電力(株)
	平井 秀輝	国土交通省
	平野 勇	(独)土木研究所
	宝示戸 恒夫	清水建設(株)
	松尾 直規	中部大学
	森脇 康仁	兵庫県
	山口 温朗	(独)水資源機構
	山根 誠	応用地質(株)
	吉田 等	(独)土木研究所

平成20年度

会長	杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)	監事	砂道 紀人	電源開発(株)
				横塚 尚志	(財)日本ダム協会
副会長	阪田 憲次	岡山大学			
	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー	顧問	沢田 敏雄	京都大学
	濱口 達男	(財)ダム技術センター		田村 重四郎	東京大学
	本庄 正史	(株)大林組		中川 博次	京都大学
理事	青江 淳	(独)水資源機構		大根 義男	愛知工業大学
	伊橋昭一郎	日立造船鉄構(株)		坂本 健次	鹿島建設(株)
	井上 俊廣	兵庫県		長瀧 重義	愛知工業大学
	魚本 健人	芝浦工業大学		岡村 甫	高知工科大学
	太田 信介	(独)水資源機構		山口 甚郎	川崎重工業(株)
	大町 達夫	東京工業大学		長谷川 高士	京都大学
	奥田 英治	アイールエンジニアリング(株)		梅田 貞夫	鹿島建設(株)
	金澤 真一	(株)間組		足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所
	熊谷 清	(財)ダム水源地環境整備センター		山内 彪	(株)間組
	塩尻 弘雄	日本大学			
	篠原 巧吉	日本工営(株)			
	田代 民治	鹿島建設(株)			
	田中 忠次	東京大学			
	柳川 城二	(財)ダム技術センター			
	吉越 洋	東京電力(株)			
	吉田 明	大成建設(株)			

平成20年度

評議員	浅枝 隆	埼玉大学
	安部 友則	(独)土木研究所
	石川 忠晴	東京工業大学
	井桁 英夫	西松建設(株)
	伊藤 淳	飛鳥建設(株)
	上村 道夫	三菱重工業(株)
	岡本 政明	(株)ニュージェック
	木元 敏徳	三井住友建設(株)
	久保田 克寿	東京電力(株)
	小長井 一男	東京大学
	佐藤 健一	前田建設工業(株)
	佐藤 政良	筑波大学
	清水 敏夫	(株)アイ・エヌ・エー
	高須 修二	(財)ダム技術センター
	高橋 信行	(株)熊谷組
	棚橋 通雄	(財)ダム水源地環境整備センター
	田村 聡志	東京都
	出水 重光	八千代エンジニアリング(株)
	成田 国朝	愛知工業大学
	西田 誠	佐藤工業(株)
	野池 悦雄	中部電力(株)
	宝示戸 恒夫	清水建設(株)
	松尾 直規	中部大学
	森 秀人	(株)建設技術研究所
	森脇 康仁	兵庫県
	山口 温朗	(独)水資源機構
	山根 誠	応用地質(株)
	吉田 等	(独)土木研究所
	吉津 洋一	関西電力(株)

平成21年度

会長	阪田 憲次	岡山大学	監事	横塚 尚志	(財)日本ダム協会
				福田 直利	電源開発(株)
副会長	佐野 憲次	(株)アイ・エヌ・エー	顧問	沢田 敏雄	京都大学
	田中 忠次	(社)地域資源循環技術センター		田村 重四郎	東京大学
	濱口 達男	(財)ダム技術センター		中川 博次	京都大学
	本庄 正史	(株)大林組		大根 義男	愛知工業大学
理事	青江 淳	(独)水資源機構		坂本 健次	鹿島建設(株)
	伊橋昭一郎	日立造船(株)		長瀧 重義	愛知工業大学
	魚本 健人	芝浦工業大学		岡村 甫	高知工科大学
	大町 達夫	東京工業大学		山口 甚郎	川崎重工業(株)
	角江 俊昭	東京電力(株)		H22.2.12	一身上の都合により退任
	門松 武	(財)日本建設情報総合センター		長谷川 高士	京都大学
	金澤 真一	(株)間組		梅田 貞夫	鹿島建設(株)
	熊谷 清	(財)ダム水源環境整備センター		足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所
	河野 信夫	兵庫県		山内 彪	(株)間組
	小長井一男	東京大学		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	塩尻 弘雄	日本大学			
	篠原 巧吉	日本工営(株)			
	田代 民治	鹿島建設(株)			
	堤 節夫	アイドールエンジニアリング(株)			
	中條 康朗	(独)水資源機構			
	柳川 城二	(財)ダム技術センター			
	吉田 明	大成建設(株)			

平成21年度

評議員	安部 友則	(独)土木研究所
	井桁 英夫	西松建設(株)
	石井 秀紀	(株)ニュージェック
	石川 忠晴	東京工業大学
	伊藤 淳	飛鳥建設(株)
	上村 道夫	三菱重工業(株)
	宇治 公隆	首都大学東京
	上遠野 均	(株)熊谷組
	川崎 秀明	山口大学
	河野 広隆	京都大学
	北村 昭二	兵庫県
	木元 敏徳	三井住友建設(株)
	久保田 克寿	東京電力(株)
	佐藤 健一	前田建設工業(株)
	佐藤 政良	筑波大学
	鈴木 孝雄	(株)アイ・エヌ・エー
	鈴木 英也	中部電力(株)
	高須 修二	(財)ダム技術センター
	棚橋 通雄	(財)ダム水源地環境整備センター
	田村 聡志	東京都
	出水 重光	八千代エンジニアリング(株)
	西田 誠	佐藤工業(株)
	古城 一郎	(株)IHI
	宝示戸 恒夫	清水建設(株)
	松尾 直規	中部大学
	森 秀人	(株)建設技術研究所
	山口 温朗	(独)水資源機構
	山根 誠	応用地質(株)
	吉津 洋一	関西電力(株)

平成22年度

会長	入江 洋樹	(財)ダム技術センター	監事	横塚 尚志	(財)日本ダム協会
				福田 直利	電源開発(株)
副会長	田中 忠次	(社)地域資源循環技術センター	顧問	沢田 敏雄	京都大学
	堤 節夫	アイドールエンジニアリング(株)		田村 重四郎	
	濱口 達男	(財)ダム技術センター		中川 博次	立命館大学
	本庄 正史	(株)大林組		大根 義男	愛知工業大学
理事	青江 淳	(独)水資源機構		坂本 健次	鹿島建設(株)
	伊橋昭一郎	日立造船(株)		長瀧 重義	愛知工業大学
	魚本 健人	芝浦工業大学		岡村 甫	高知工科大学
	宇治 公隆	首都大学東京		長谷川 高士	
	大町 達夫	東京工業大学		梅田 貞夫	鹿島建設(株)
	角江 俊昭	東京電力(株)		足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所
	門松 武	(財)日本建設情報総合センター		山内 彪	(株)間組
	金澤 真一	(株)間組		杉野 健一	八千代エンジニアリング(株)
	河野 信夫	兵庫県		阪田 憲次	岡山大学
	熊谷 清	(財)ダム水源環境整備センター			
	小長井一男	東京大学			
	塩尻 弘雄	日本大学			
	篠原 巧吉	日本工営(株)			
	田代 民治	鹿島建設(株)			
	中條 康朗	(独)水資源機構			
	森 秀人	(株)建設技術研究所			
	柳川 城二	(財)ダム技術センター			
	吉田 明	大成建設(株)			

平成22年度

評議員	安部 友則	(独)土木研究所
	石井 秀紀	(株)ニュージェック
	石川 忠晴	東京工業大学
	伊藤 淳	飛鳥建設(株)
	尾根田 勝	東京都
	大前 明末	清水建設(株)
	上遠野 均	(株)熊谷組
	川崎 秀明	山口大学
	河野 広隆	京都大学
	木元 敏徳	三井住友建設(株)
	久保田 克寿	東京電力(株)
	小西 克彦	兵庫県
	佐藤 健一	前田建設工業(株)
	佐藤 政良	筑波大学
	鈴木 孝雄	(株)アイ・エヌ・エー
	鈴木 英也	中部電力(株)
	高須 修二	(財)ダム技術センター
	棚橋 通雄	(財)ダム水源環境整備センター
	出水 重光	八千代エンジニアリング(株)
	西田 誠	佐藤工業(株)
	古城 一郎	(株)IHIインフラシステム
	松尾 直規	中部大学
	中 孝仁	アイ・エルエンジニアリング(株)
	安田 成夫	(独)水資源機構
	山口 温朗	(独)水資源機構
	山根 誠	応用地質(株)
	吉津 洋一	関西電力(株)

総会・理事会・評議委員会

1. 総会

○ 第1回 通常総会

平成3年5月17日に通常総会を開催し、規約の承認、理事・監事の選出が行われ、平成3年度事業計画が承認された。

日時：平成3年5月17日 10:30～

場所：発明会館

議題：議長の選出

ダム工学会設立の経緯

規約および細則

評議員選挙結果の報告

理事の選任

監事の選任

平成2年度事業報告及び収支決算報告

平成3年度事業計画及び収支予算

○ 第2回 通常総会

平成4年5月7日に通常総会を開催し、規約の改正、新任理事の選出、顧問の紹介が行われ、平成4年度事業計画が承認された。

日時：平成4年5月7日 13:00～

場所：星陵会館

議題：規約の改正

平成3年度事業報告及び収支決算報告承認の件

平成3年度会計監査報告承認の件

平成4年度事業計画及び収支予算承認の件

新任理事の選出

顧問および新任理事の紹介

ダム工学会表彰規程報告

○ 第3回 通常総会

平成5年5月7日に通常総会を開催し、理事・監事の選任、評議員の選出、研究部会・賞企画小委員会設置の報告、及び日本学術会議の学術研究団体への登録申請についての説明が行われ、平成5年度事業計画が承認された。

日時：平成5年5月7日 13:00～

場所：星陵会館

議題：平成4年度事業報告及び収支決算報告承認の件
平成4年度会計監査報告承認の件
平成5年度事業計画及び収支予算承認の件
理事選任の件
監事選任の件
評議員選出
研究部会設置報告
委員会設置報告
日本学術会議の学術研究団体への登録申請の件

○ 第4回 通常総会

平成6年5月10日に通常総会を開催し、学術研究団体として名称を「ダム工学会」に改め、承認された。また、当日の総会では理事の選任、会長・副会長の紹介、会費の改訂、規約並びに規約細則の改正に、当学会シンボルマーク決定の報告、平成6年度事業計画が承認された。

日時：平成6年5月10日 13:00～

場所：星陵会館

議題：平成5年度事業報告及び収支決算報告承認の件
平成5年度会計監査報告の件
平成6年度事業計画及び収支予算承認の件
会費の改訂及び規約細則の改正の報告の件
規約の改正の件（日本学術会議登録に伴う改名ほか）
シンボルマーク決定の報告の件
理事の選任の件

○ 第5回 通常総会

平成7年5月10日に通常総会を開催し、理事・監事の選任、平成7年度事業計画が承認された。

日時：平成7年5月10日 13:00～

場所：星陵会館

議題：平成6年度事業報告及び収支決算報告承認の件
平成6年度会計監査報告承認の件
平成7年度事業計画及び収支予算承認の件
理事選任の件
監事選任の件

○ 第6回 通常総会

平成8年5月10日に通常総会を開催し、理事の選任、平成8年度事業計画が承認された。

日時：平成8年5月10日 13:00～

場所：星陵会館

議題：平成7年度事業報告及び収支決算報告
平成7年度会計監査報告
平成8年度事業計画及び収支予算
理事選任の件

○ 第7回 通常総会

平成9年5月9日に総会を開催し、平成8年度事業報告及び収支決算、平成9年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日時：平成9年5月9日 13:00～

場所：星陵会館

出席者：935名（うち委任状による出席 740名）

議題：平成8年度事業報告及び収支決算報告
平成8年度会計監査報告
平成9年度事業計画及び収支予算
理事選任
監事選任

○ 第8回 通常総会

平成10年5月15日に総会を開催し、平成9年度事業報告及び収支決算、平成10年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日時：平成10年5月15日 14:00～

場所：星陵会館

出席者：873名（委任状による出席者727名）

議題：平成9年度事業報告及び収支決算報告
平成9年度会計監査報告
平成10年度事業計画及び収支予算
理事選任

○ 第9回 通常総会

平成11年5月21日に総会を開催し、平成10年度事業報告及び収支決算、平成11年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日時：平成11年5月21日 13:00～

場所：星陵会館

出席者：752名（委任状による出席者642名）

議題：平成10年度事業報告及び収支決算報告
平成10年度会計監査報告
平成11年度事業計画及び収支予算
理事選任
監事選任

○ 第10回 通常総会

平成12年5月19日に総会を開催し、平成11年度事業報告及び収支決算、平成12年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日時：平成12年5月19日 14:00～

場所：星陵会館

出席者：848名（委任状による出席者731名）

議題：平成11年度事業報告及び収支決算報告
平成11年度会計監査報告
平成12年度事業計画及び収支予算
理事選任

○ 第11回 通常総会

平成13年5月18日に総会を開催し、平成12年度事業報告及び収支決算、平成13年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日時：平成13年5月18日 13:00～

場所：星陵会館

出席者：874名（委任状による出席者 681名）

議題：平成12年度事業報告及び収支決算報告

平成12年度会計監査報告

平成13年度事業計画及び収支予算

理事選任

監事選任

○ 第12回 通常総会

平成14年5月17日に総会を開催し、平成13年度事業報告及び収支決算、平成14年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日時：平成14年5月17日 14:00～

場所：星陵会館

出席者：696名（委任状による出席者 617名）

議題：平成13年度事業報告及び収支決算報告

平成13年度会計監査報告

平成14年度事業計画及び収支予算

理事選任

○ 第13回 通常総会

平成15年5月27日に総会を開催し、平成14年度事業報告及び収支決算、平成15年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日時：平成15年5月27日 13:00～

場所：星陵会館

出席者：676名（委任状による出席者 556名）

議題：平成14年度事業報告及び収支決算報告

平成14年度会計監査報告

平成15年度事業計画及び収支予算

ダム工学会規約の改定について

理事選任

監事選任

○ 第 14 回 通常総会

平成16年 5月12日に通常総会を開催し、平成15年度事業報告及び収支決算、平成16年度事業計画及び事業予算の承認を得た。

日 時 : 平成16年 5月12日 14:30~

場 所 : 星陵会館

出席者 : 609名(うち委任状による出席者497名)

議 題 : 平成 15 年度事業報告及び収支決算報告
平成 15 年度会計監査報告
平成 16 年度事業計画及び収支予算
理事選任

○ 第 15 回 通常総会

平成 17 年 5 月 20 日に通常総会を開催し、平成 16 年度事業報告及び収支決算、平成 17 年度事業計画及び収支予算の承認を得た。

日 時 : 平成 17 年 5 月 20 日 13:00~

場 所 : 星陵会館 2F ホール

出席者 : 664 名(うち委任状による出席者 541 名)

議 題 : 平成 16 年度事業報告及び収支決算報告
平成 16 年度会計監査報告
平成 17 年度事業計画及び収支予算
理事選任
監事選任

○ 第 16 回 通常総会

平成 18 年 5 月 18 日に通常総会を開催し、平成 17 年度事業報告及び収支決算、平成 18 年度事業計画及び収支予算、理事選任の承認を得た。

日 時 : 平成 18 年 5 月 18 日 13:30~

場 所 : 星陵会館 2F ホール

出席者 : 641 名(うち委任状による出席者 516 名)

議 題 : 平成 17 年度事業報告及び収支決算報告
平成 17 年度会計監査報告
平成 18 年度事業計画及び収支予算
理事選任

○ 第17回 通常総会

平成19年5月17日に通常総会を開催し、平成18年度事業報告及び収支決算、平成19年度事業計画及び収支予算、理事選任の承認を得た。

日時：平成19年5月17日 14:00～

場所：星陵会館 2F ホール

出席者：576名（うち委任状による出席者498名）

議題：平成18年度事業報告及び収支決算報告

平成18年度会計監査報告

平成19年度事業計画及び収支予算

理事選任

監事選任

○ 第18回 通常総会

平成20年5月15日に通常総会を開催し、平成19年度事業報告及び収支決算、平成20年度事業計画及び収支予算、理事選任およびダム工学会の一般社団法人への移行スケジュール等について承認を得た。

日時：平成20年5月15日 14:00～

場所：星陵会館 2F ホール

出席者：608名（うち委任状による出席者483名）

議題：平成19年度事業報告及び収支決算報告

平成19年度会計監査報告

平成20年度事業計画及び収支予算

理事選任

ダム工学会の一般社団法人への移行について

第19回 通常総会

平成21年5月14日に通常総会を開催し、平成20年度事業報告及び収支決算、平成21年度事業計画及び収支予算、理事選任およびダム工学会の規約の変更および一般社団法人ダム工学会定款等について承認を得た。

日時：平成21年5月14日 14:00～

場所：星陵会館 2F ホール

出席者：582名（うち委任状による出席者474名）

議題：平成20年度事業報告及び収支決算報告

平成20年度会計監査報告

平成21年度事業計画及び収支予算

理事選任

監事選任

ダム工学会規約の変更及び一般社団法人ダム工学会定款について

第20回 通常総会

平成22年5月13日に通常総会を開催し、平成21年度事業報告及び収支決算、平成22年度事業計画及び収支予算、理事選任について承認を得た。

日時：平成22年5月13日 14:00～

場所：星陵会館

出席者：448名（うち委任状による出席者310名）

議題：平成21年度事業報告及び収支決算報告

平成21年度会計監査報告

平成22年度事業計画及び収支予算

理事選任

2. 理事会

第1回 理事会

日時：平成3年5月17日
場所：発明会館 7階
議題：会長、副会長の選出

第2回 理事会

日時：平成4年5月7日
場所：星陵会館 4階会議室
議題：顧問の選出
ダム工学研究会賞規程・各委員会委員の議決
謝金等の承認

第3回 理事会

日時：平成5年5月7日
場所：星陵会館 4階会議室
議題：監事の選出
研究部会、委員会設置の議決

第4回 理事会

日時：平成5年5月7日
場所：星陵会館 4階会議室
議題：会長・副会長の互選

第5回 理事会

日時：平成6年5月10日 10:00～
場所：星陵会館 4階会議室
議題：シンボルマークの決定
会費の改訂
規約及び規約細則の改正
第4回 通常総会議案について

第6回 理 事 会

日 時 : 平成6年5月10日 14:00~
場 所 : 星陵会館 4階会議室
議 題 : 会長・副会長の選任
顧問の選任
日本学術会議会員候補者及び推薦人の選定

第7回 理 事 会

日 時 : 平成6年12月15日 18:00~
場 所 : (財)ダム技術センター6F第1会議室
議 題 : 評議員の改選スケジュールについて
評議員の選挙告示について

第8回 理 事 会

日 時 : 平成7年5月10日 10:00~
場 所 : 星陵会館 4階A会議室
議 題 : 第5回通常総会議案について

第9回 理 事 会

日 時 : 平成7年5月10日 13:55~
場 所 : 星陵会館 4階A会議室
議 題 : 会長・副会長の選任の件
顧問の選任の件
ダム工学会賞表彰委員会委員選出の件
ダム工学会賞選考委員会委員選出の件
委員長承認の件

第10回 理 事 会

日 時 : 平成8年5月10日 10:00~
場 所 : 星陵会館 4階A会議室
議 題 : 第6回通常総会議案について

第11回 理 事 会

日 時 : 平成8年12月5日
場 所 : (書面決裁)
議 題 : 評議員選挙に関する告示について

- 第12回 理事会
日 時 : 平成9年5月9日 10:00~
場 所 : 星陵会館
議 題 : 第7回通常総会議案について

- 第13回 理事会
日 時 : 平成9年5月9日 15:00~
場 所 : 星陵会館
議 題 : 会長・副会長の互選
顧問の選出
表彰委員会委員の選出
選考委員会委員の選出

- 第14回 理事会
日 時 : 平成10年5月15日 13:00~
場 所 : 星陵会館
議 題 : 第8回通常総会議案について
会長・副会長の選任について
理事の選出

- 第15回 理事会
日 時 : 平成11年1月26日
場 所 : 書面による
議 題 : 評議員任期満了に伴う改選挙の告示に関する
理事会の議決について

- 第16回 理事会
日 時 : 平成11年4月21日 13:30~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 第9回通常総会議案について
総会までのスケジュールについて
ダム耐震工学に関するワークショップについて
ホームページの運営方針について
ダム工学会入会パンフレットについて

○ 第17回 理事会

日時：平成11年5月21日 15:00～

場所：星陵会館

議題：会長・副会長の互選
顧問の選出
表彰委員会委員の選出
選考委員会委員の選出

○ 第18回 理事会

日時：平成12年4月19日 13:30～

場所：(財)ダム技術センター 5F 特別会議室

議題：第10回通常総会議案について
新委員会の設置について
ダム工学会入会案内パンフレットについて
平成12年度役員の選任について

○ 第19回 理事会

日時：平成12年9月27日 16:10～

場所：(財)ダム技術センター 5F 特別会議室

議題：ダム工学会10周年について

○ 第20回 理事会

日時：平成13年1月26日

場所：書面による

議題：評議員任期満了に伴う改選挙の告示に関する
理事会の議決について

○ 第21回 理事会

日時：平成13年4月19日 14:00～

場所：(財)ダム技術センター 5F 特別会議室

議題：第11回通常総会議案について
調査研究委員会と災害調査研究委員会の設置について
特許法による学術団体の指定について
ダム工学会賞の表彰委員会委員について
ダム工学会10周年記念について
役員の変更(案)について

○ 第22回 理 事 会

日 時 : 平成13年 5月18日 14:00~

場 所 : 星陵会館

議 題 : 会長・副会長の互選について
顧問の選出について
ダム工学会賞表彰委員会委員選出について
ダム工学会賞選考委員会委員選出について

○ 第23回 理 事 会

日 時 : 平成14年 4月16日 14:00~

場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室

議 題 : 第12回通常総会議案について
役員の変更について
ダム工学会の活性化等への対応について

○ 第24回 理 事 会

日 時 : 平成15年 1月23日 10:00~

場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室

議 題 : ダム工学会賞表彰規程の改正について
ダム工学会賞選考委員会の委員について
理事等の任期に関する内規について

○ 第25回 理 事 会

日 時 : 平成15年 4月22日 13:00~

場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室

議 題 : 第13回通常総会議案について
ダム工学会規約の改正について
旅費支給に関する内規について

○ 第26回 理 事 会

日 時 : 平成15年 5月27日 14:00~

場 所 : 星陵会館 会議室

議 題 : 会長・副会長の互選について
顧問の選出について
ダム工学会賞表彰委員会委員選出について
ダム工学会賞選考委員会委員選出について

○ 第27回 理 事 会

日 時 : 平成 15 年 9 月 3 日 13:30 ~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : ダム工学会賞表彰規程の改正について
ダム工学会活性化方策について
(会員の増加策について)

○ 第28回 理 事 会

日 時 : 平成 16 年 4 月 20 日 13:30 ~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 総会議案について
役員の変更について
ダム工学会賞の報告
会長の推挙のあり方懇談会の設置の報告

○ 第29回 理 事 会

日 時 : 平成 17 年 4 月 7 日 13:00 ~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 第 15 回通常総会議案
企画運営委員会内規及び活性化特別小委員会の設置
企画運営委員会の構成及び運営に関する内規(案)
旅費支給に関する内規の改正
会長の推挙のあり方等

○ 第30回 理 事 会

日 時 : 平成 17 年 5 月 20 日 14:00 ~
場 所 : 星陵会館 4F A 会議室
議 題 : 会長・副会長の選出について
顧問の選出について
ダム工学会表彰委員会委員選出について
ダム工学会選考委員会委員選出について
その他の委員会の委嘱について

○ 第31回 理事会

日時：平成17年6月20日 13:00～
場所：(財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議題：内規の制定・変更等について
選考委員会の委員の追加選出について
研究部会の設置について
活性化小委員会の役割と活動について
委員会委員の委嘱について

○ 第32回 理事会

日時：平成18年4月17日 15:30～
場所：(財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議題：ダム工学会の通常総会までのスケジュール
第16回通常総会議案
会長の推挙のあり方
活性化対策
研究部会の内規
ダム工学会出版事業
調査研究部会 維持管理研究部会の成果報告

○ 第33回 理事会

日時：平成18年5月18日 14:30～
場所：星陵会館 4F A会議室
議題：会長・副会長の選出について
顧問の選出について
理事の担当委員会について

○ 第34回 理事会

日時：平成18年11月2日 14:30～
場所：(財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議題：各委員会内規の変更について
選考委員会の選考方法の変更について
調査研究委員会内規の変更について
企画運営委員会内規の変更について
会員数増加対策について

○ 第35回 理 事 会

日 時 : 平成19年4月26日 12:30~14:30
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : ダム工学会の通常総会までのスケジュール
第17回通常総会議案
会長の推挙のあり方と内規の改訂
企画運営委員会の構成及び運営に関する内規
ダム工学会活動活性化の方策

○ 第36回 理 事 会

日 時 : 平成19年5月17日 15:00~15:20
場 所 : 星陵会館 E 会議室
議 題 : 会長・副会長の選出について
顧問の選出について
ダム工学会表彰委員会委員選出について
ダム工学会選考委員会委員選出について
委員会の担当理事について

○ 第37回 理 事 会

日 時 : 平成19年10月25日 15:30~16:30
場 所 : (財)ダム技術センター 6F A・B 会議室
議 題 : 大規模ダム竣工50周年記念事業について
最新ボーリング調査技術マニュアルの出版について
最近の活動状況について

○ 第38回 理 事 会

日 時 : 平成20年4月24日 13:00~14:30
場 所 : (財)ダム技術センター 6FA・B 会議室
議 題 : ダム工学会の通常総会までのスケジュール
第18回通常総会議案
ダム工学会の公益法人化について
大ダム会議シンポジウムの参加について
ダムの役割を考える国際セミナーの参加について
ダム工学投稿規定の変更について

○ 第39回 理事会

日時：平成20年5月15日 15:00～15:20

場所：星陵会館 E会議室(1階)

議題：会長・副会長の選出について
顧問の選出について
ダム工学会表彰委員会委員選出について
ダム工学会選考委員会委員選出について
委員会の担当理事について

○ 第40回 理事会

日時：平成20年11月19日 13:00～15:00

場所：(財)ダム技術センター 6F A・B会議室

議題：ダム工学会創立20周年記念事業について
一般社団法人移行手続き代行会社の選定について
口座振替集金代行会社の選定について
シニア会員制度について
規約細則の変更について
賛助会員の新規加入について

○ 第41回 理事会

日時：平成21年4月15日 15:00～16:20

場所：(財)ダム技術センター 6F A・B会議室

議題：一般社団法人ダム工学会定款(案)について
組織図の変更について
第19回通常総会議案について
その他

○ 第42回 理事会

日時：平成21年5月14日 15:00～15:20

場所：星陵会館 E会議室(1階)

議題：会長・副会長の選出について
顧問の選出について
ダム工学会表彰委員会委員選出について
ダム工学会選考委員会委員選出について
理事の委員会委員委嘱について
規約細則の改正について

○ 第43回 理事会

日時：平成21年12月15日 14:00～16:00

場所：(財)ダム技術センター 2F A・B会議室

議題：ダム工学会創立20周年記念事業について
新研究部会について
一般社団法人移行手続きの状況について
第20回通常総会の日程(案)について
ダム工学会会員数について

○ 第44回 理事会

日時：平成22年4月22日 15:30～17:00

場所：(財)ダム技術センター 2F A・B会議室

議題：第20回通常総会議案について
ダムの安全管理・点検のための最新計測技術に関するシポジウム
の共催について
賛助会員の新規加入について
国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会の共催について
一般社団法人ダム工学会 会員数等について

○ 第45回 理事会

日時：平成22年5月13日 15:00～15:20

場所：星陵会館 E会議室(1階)

議題：会長・副会長の選出について
顧問の選出について
ダム工学会表彰委員会委員選出について
ダム工学会選考委員会委員選出について
理事の委員会委員委嘱について
評議委員選出の報告

3. 評議委員会

第1回 評議委員会

日 時 : 平成3年3月27日 15:40～16:40
 場 所 : 中野サンプラザ 15階「寿の間」
 議 題 : 議長の選出について
 会の主旨・規約について
 会員名簿について
 平成2年度決算および平成3年度予算について
 今後の活動について

第2回 評議委員会

日 時 : 平成3年5月16日 16:00～17:30
 場 所 : (財)ダム技術センター 6階 第一会議室
 議 題 : 理事の推薦について
 第1回 通常総会議案について
 委員会の設置等について

第3回 評議委員会

日 時 : 平成4年5月6日 15:00～17:00
 場 所 : 機械振興会館 会議室
 議 題 : 新任理事の推薦について
 第2回 通常総会議案について
 謝金等の議決

第4回 評議委員会

日 時 : 平成5年5月6日 13:00～15:00
 場 所 : (財)ダム技術センター 7階幹部会議室
 議 題 : 理事の推薦について
 第3回 通常総会議案について

第5回 評議委員会

日 時 : 平成6年5月9日 15:00～
 場 所 : (財)ダム技術センター 7階幹部会議室
 議 題 : 理事の推薦について
 シンボルマークの策定
 会費の改訂について
 規約及び規約細則の改正
 第4回 通常総会議案について

第6回 評議員会

日時 : 平成7年1月12日 14:30~
場所 : (財)ダム技術センター 6F 第一会議室
議題 : 評議員の改選について
次期評議員候補者の推薦について

第7回 評議員会

日時 : 平成7年3月1日 13:30~
場所 : (財)ダム技術センター 6F 特別会議室
議題 : 次期評議員候補者の推薦について

第8回 評議員会

日時 : 平成7年4月7日 15:00~
場所 : (財)ダム技術センター 6階第一・第二会議室
議題 : 次期理事の推薦について

第9回 評議員会

日時 : 平成7年4月27日 15:00~
場所 : (財)ダム技術センター 6階第一会議室
議題 : 第5回通常総会の議事内容について
次期理事の推薦について

第10回 評議員会

日時 : 平成8年4月24日 15:00~
場所 : (財)ダム技術センター 6階第一・第二会議室
議題 : 第6回通常総会の議事内容について
理事の推薦について

第11回 評議員会

日時 : 平成9年1月31日 16:00~
場所 : (財)ダム技術センター 5階特別会議室
議題 : 評議員の改選について
次期評議員候補者の推薦について

第12回 評議員会

日時 : 平成9年2月24日 16:00~
場所 : (財)ダム技術センター 5階特別会議室
議題 : 次期評議員候補者の推薦について

- 第13回 評 議 員 会
日 時 : 平成9年4月8日 13:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 7F 研究顧問室
議 題 : 「次期評議員」の決定について

- 第14回 評 議 員 会
日 時 : 平成9年4月24日 13:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 新理事の推薦について
第7回通常総会議案について

- 第15回 評 議 員 会
日 時 : 平成10年5月7日 14:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 新理事の推薦について
第8回通常総会議案について

- 第16回 評 議 員 会
日 時 : 平成11年4月28日 14:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 新理事の推薦について
評議員候補者の推薦について
監事の推薦について
総会までのスケジュールについて
第9回通常総会の議案
ダム耐震工学に関するワークショップについて
ホームページの運営方針について
ダム工学会入会パンフレットについて

- 第17回 評 議 員 会
日 時 : 平成12年4月26日 13:30~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 理事の推薦について
評議員の候補者の推薦について
第10回通常総会議案について

- 第18回 評 議 員 会
日 時 : 平成13年4月25日 14:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 理事の推薦について
評議員の候補者の推薦について
第11回通常総会議案について

- 第19回 評 議 員 会
日 時 : 平成14年5月8日 14:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 理事の推薦について
評議員候補者の推薦について
第12回通常総会議案について

- 第20回 評 議 員 会
日 時 : 平成15年5月7日 15:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 理事の推薦について
評議員候補者の推薦について
第13回通常総会議案について

- 第21回 評 議 員 会
日 時 : 平成16年4月27日 15:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 役員の変更について
第14回通常総会議案について

- 第22回 評 議 員 会
日 時 : 平成17年4月14日 13:30~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 第15回通常総会議案
役員の変更について

- 第23回 評 議 員 会
日 時 : 平成18年4月28日 14:00~
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 第16回通常総会議案
役員の変更について

○ 第24回 評 議 員 会

日 時 : 平成19年4月27日 10:00~12:00
場 所 : (財)ダム技術センター 5F 特別会議室
議 題 : 第17回通常総会議案
 役員の変更について

○ 第25回 評 議 員 会

日 時 : 平成20年4月25日 13:30~15:00
場 所 : (財)ダム技術センター 6階 A・B 特別会議室
議 題 : 第18回通常総会議案
 役員の変更について

○ 第26回 評 議 員 会

日 時 : 平成21年4月22日 13:30~15:00
場 所 : (財)ダム技術センター 6階 A・B 会議室
議 題 : 一般社団法人ダム工学会定款(案)について
 第19回通常総会議案について
 組織図の変更について
 役員の変更について

○ 第27回 評 議 員 会

日 時 : 平成22年4月27日 15:30~
場 所 : (財)ダム技術センター 2階 A・B 会議室
議 題 : 第20回通常総会議案について
 役員の変更について

調査研究委員会活動

1. コンクリートダム研究部会

平成5年度 研究部会としての活動方針について

平成6年度

平成7年度

平成8年度

平成9年度

平成10年度

平成11年度

平成12年度

平成13年度

平成14年度

平成15年度

平成16年度

平成17年度

平成18年度

平成19年度

平成20年度

平成21年度

平成22年度



プレキャスト型枠の活用について

ポンプ打設工法に関する研究

ダム用ポンプ打設工法

コンクリートダムの補修

講演
第8回ダム工学研究発表会



会誌「ダム工学」
Vol.8 No.1
『コンクリートダムの
空洞部の設計・施工に関する
調査報告書』



会誌「ダム工学」
Vol.17 No.3
『ダム用ポンプ打設工法』

2. フィルダム研究部会

平成5年度 今後の活動方針について

平成6年度

平成7年度

平成8年度



フィルダムに関する資料、事例の収集・検討

平成9年度

平成10年度



フィルダムの
耐震設計に関する課題と提言
フィルダムにおけるコスト縮減



会誌「ダム工学」
Vol.12 No.3
『フィルダム耐震設計における
課題と提言』

平成11年度

平成12年度



平成13年度

平成14年度

既設フィルダムの安全性確保のための
ダム計測及び安全診断について



会誌「ダム工学」
Vol.16 No.4
『フィルダムの安全管理』

平成15年度

平成16年度

平成17年度



平成18年度



平成19年度

平成20年度

フィルダム洪水吐き構造の海外事例と
国内ダムへの適用

平成21年度

平成22年度



3. 地質・基礎研究部会

平成5年度 活動方針検討

平成6年度 ● ダム地質に関わる問題点の整理

平成7年度

平成8年度

平成9年度 ●

平成10年度 ダム建設における横坑調査

平成11年度

平成12年度 ● グラウチング技術の動向と課題

平成13年度 ● ダム建設におけるボーリング調査法

平成14年度

平成15年度

平成16年度

平成17年度

平成18年度

平成19年度

平成20年度

平成21年度

平成22年度

会誌「ダム工学」
Vol.10 No.3
Vol.10 No.4
Vol.11 No.1
Vol.11 No.2
『ダム建設における横坑調査』

4. 維持管理研究部会

平成5年度 今後の活動方針について

平成6年度

平成7年度

平成8年度 研究テーマの検討

平成9年度

平成10年度

平成11年度

平成12年度

ダム貯水池の
堆砂および濁水に関する調査



会誌「ダム工学」
Vol.11 No.4
Vol.12 No.1
Vol.12 No.2
Vol.12 No.3
『ダム貯水池の堆砂および
濁水に関する調査報告』

平成13年度

平成14年度

平成15年度

平成16年度

平成17年度

排砂の視点から見た
既設ダムの有効利用



講演
第16回ダム工学研究発表会
会誌「ダム工学」
Vol.16 No.3
『排砂の視点から見た
既設施設の有効利用に
関する研究』

平成18年度

平成19年度

平成20年度

排砂施設の設置にかかる技術的検討



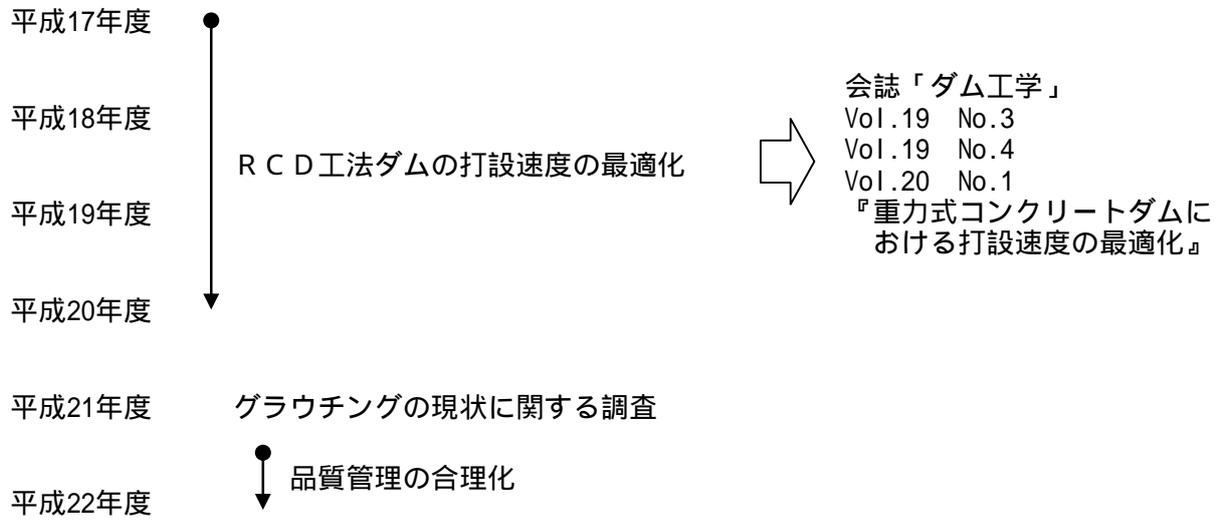
会誌「ダム工学」
Vol.18 No.4
『排砂施設の設置にかかる
技術的検討』

平成21年度

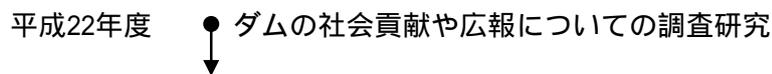
平成22年度

ダム貯水池の水質保全設備に関する総合的検討

5. 施工研究部会



6. 計画研究部会



ダム工学

1. ダム工学掲載論文

「ダム工学」に投稿される原稿は、以下のとおり区分している。

学術部門：ダム工学の発展に学術的に寄与する内容のもので、原則として未発表のものとする。

巻頭言	学識経験者・見識者から、ダム工学分野に関する現在ならびに将来の課題、話題等をもとに、執筆者の考えを記述して頂くもの。
学術講演 概要	ダム工学会関連の学術講演会における講演内容について、会員にその概要を報告する。
招待論文	現在の社会的関心事に関連し、将来展望も含めて、学識経験者・見識者から学術的論文を執筆頂く。
論文	理論的または実証的な研究・技術成果、あるいはそれらを統合した知見を示すものであって、独創性があり、論文として完結した体裁を整えていること。
特集	現在ならびに将来の課題・話題に関連して統一的テーマを設定し、複数の技術者にそれぞれの専門分野の観点から研究・技術成果、あるいはそれらを統合した知見を紹介頂く。
報告	調査・計画・設計・施工・現場計測・環境等の報告で、技術的・工学的に有益な内容を含むもの。
ノート	1) 論文・報告として体裁が整わなくとも新しい研究成果を述べたもの。 2) 問題の提起・試論およびこれに対する意見。 3) 既発表の論文・報告に対する補足または修正。 4) 実験・実測データや新しい数表・図表などで研究の参考となるもの。
討議	1) 発表された論文・報告・ノートに関連した討議者の研究成果。 2) 発表された論文・報告・ノートについての意見または質問。 討議原稿の受付は、討議の対象とする論文・報告・ノート掲載後6ヶ月以内とする。
委員会・部会・調査団報告	ダム工学会に設置された各種委員会、部会、調査団報告。連載の場合は原則として4回以内とする。

一般部門：上記区分に依らないもので、ダム工学の幅広い読者に興味ある内容を含むものとする。

技術報告	ダム関連の最新技術の紹介、ダム関連の技術開発の紹介等
現場だより	ある程度建設が進行した段階のダムの中から毎号1~2基のダムを選定し、ダムの概要や技術的特徴、その他現場でのトピック等を紹介
意見・提言	ダム工学の発展に寄与する内容の意見や提言
本の紹介	会員の皆様にお薦めしたい本などの紹介
その他	

「ダム工学」第1巻～第20巻に掲載された論文等の数は以下のとおり。

詳細は巻末に掲載する。

Vol.	年	巻頭言	学術講演 概要	招待論文	論文	特集	報告	ノート	討議	委員会・部会・調査団報告	技術報告	現場だより	意見・提言	本の紹介	その他
第1巻	1991年	4	-	5	12	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-
第2巻	1992年	4	-	6	9	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
第3巻	1993年	4	2	-	10	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-
第4巻	1994年	4	3	1	9	-	8	1	-	-	-	-	-	-	-
第5巻	1995年	4	1	-	11	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
第6巻	1996年	4	1	-	13	-	11	1	1	-	-	-	-	-	-
第7巻	1997年	4	-	-	11	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
第8巻	1998年	4	-	-	14	-	7	2	-	1	-	-	-	-	1
第9巻	1999年	4	-	-	19	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
第10巻	2000年	4	-	-	17	-	4	1	-	2	-	-	-	-	2
第11巻	2001年	4	-	-	16	-	4	-	-	3	-	-	-	-	1
第12巻	2002年	4	-	-	9	-	5	3	-	5	-	-	-	-	-
第13巻	2003年	4	-	-	7	-	7	1	-	-	1	-	2	2	-
第14巻	2004年	4	-	-	14	-	4	-	-	1	-	-	4	4	2
第15巻	2005年	4	-	-	16	-	3	2	-	-	-	-	4	4	2
第16巻	2006年	4	-	-	12	-	4	2	-	4	-	-	4	4	1
第17巻	2007年	4	-	-	10	-	6	-	-	1	1	-	4	4	1
第18巻	2008年	4	-	-	7	-	6	2	-	2	1	-	4	4	1
第19巻	2009年	4	-	-	7	-	4	-	-	2	1	1	4	5	1
第20巻	2010年	2	-	-	3	-	2	-	-	1	-	2	2	3	1
合計		78	7	12	226	2	114	15	1	26	4	3	28	30	13

学会主催の活動等

ダム工学会にて開催された講演等は以下のとおり。

1. 学術講演会

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第1回	1991年5月17日	ファイルダムの耐震性について	日本大学 田村 重四郎
		コンクリートダムの設計安全率について	(財)ダム技術センター 飯田 隆一
		コントラクタにおけるダム技術開発の動向について	(株)間組 長野 匡純
第2回	1992年5月7日	農業ダムの現状と課題	京都大学 長谷川 高士
		ダムと地質	応用地質(株) 羽田 忍
第3回	1993年5月7日	地球時代にダム湖に棲む生物	(社)淡水生物研究所 森下 郁子
		ダム基礎岩盤グラウチングのメカニズム	アイトーエンジニアリング(株) 柴田 功
第4回	1994年5月10日	土木技術と地球環境	(社)土木学会 竹内 良夫
		ダム管理の水門学的側面	京都職業能力開発短期大学 角屋 睦
		世界のダム技術の歴史的展望	(社)日本ダム会議 黒田 晃
第5回	1995年5月10日	阪神大震災に学ぶ地盤工学上の問題	京都大学 足立 紀尚
第6回	1996年5月10日	ダムと地震	東京大学 田村 重四郎
第7回	1997年5月9日	浦山ダムの技術的課題について	水資源開発公団 丈達 俊夫
第8回	1998年5月19日	コンクリートにおける高性能減水剤の活用	東京工業大学 長瀬 重義
第9回	1999年5月21日	ダム湖の環境保全	建設省 河川局 足立 敏之
第10回	2000年5月19日	1999台湾集集地震によるダムの被害	東京工業大学 大町 達夫
第11回	2001年5月18日	ダムの止水グラウチングの変遷と問題点	(財)ダム技術センター 飯田 隆一
		ダムと日本文明	国土交通省 河川局 竹村 公太郎
第12回	2002年5月17日	第3回水フォーラムに向けて	第3回水フォーラム事務局 尾田 栄章

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 13 回	2003 年 5 月 27 日	今、ダム技術者に求められるもの	- 鈴木 藤一郎
		もう一度、自然について考えてみよう - 自然を大切にするために -	桜美林大学 三島 次郎
第 14 回	2004 年 5 月 12 日	貯水池における水質変化 ～現場から見る流れや生物との関連性～	(独)土木研究所 天野 邦彦
第 15 回	2005 年 5 月 20 日	最近の貯水池土砂管理について	(独)土木研究所 柏井 条介
第 16 回	2006 年 5 月 18 日	洪水時のダム操作について	(株)建設技術研究所 今村 瑞穂
第 17 回	2007 年 5 月 17 日	ダムビジョン懇談会報告	ダム工学会 入江 洋樹
		海外における既設ダムの補強	(財)ダム技術センター 松本 徳久
第 18 回	2008 年 5 月 15 日	地震断層と社会基盤施設 ～ダム・トンネル事例を中心として～	東京大学 小長井 一男
第 19 回	2009 年 5 月 14 日	ダム耐震性能に係わる最近の話題	東京工業大学大学院 大町 達夫
第 20 回	2010 年 5 月 13 日	ダムの効用	岡山大学 阪田 憲次

2. 研究発表会

(1) 講演集

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第1回	1991年3月27日	RCD工法による真野ダムの施工について	- 須藤 勝栄
		岩盤不連続面の硬化 ~ 軟化型構成式 ~	- 足立 紀尚
			- 大西 有三
			- 岡 二三生
			- 張 鋒
		針貫入試験による軟岩基礎の調査	- 奥原 茂弘
		フィルダムの実測値による応力・ひずみ解析	- 久納 誠
		一次クーリングと湛水による温度応力について	- 山本 富佐雄
			- 中村 浩之
- 堤 節夫			
貯水池富栄養化対策としての曝気循環法に関する検討	- 福田 佳之		
	- 丹羽 薫		
阿木川ダムの水質保全対策	- 天野 邦彦		
	- 三浦 進		
	- 藤野 耕		
自動変位観測システムを用いた掘削法面監視について	- 毛涯 卓郎		
	- 大池 茂		
	- 寺園 勝二		
連続繊維補強土によるダム周辺緑化について	- 大野 睦男		
	- 馬渡 祐二		
	- オアン T.D.P.		
第2回	1991年11月8日	ダム挙動解析における逆解析手法の適用	- 堀家 茂一
		レーザー光シートを用いた堤体構造模型内部の動的破壊過程の可視化	- 長谷川 高士
		フィルダムの地震時安全性アセスメント	- 小長井 一男
			- 田中 弘

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第2回	1991年11月8日	堤体 - 岩盤の相互作用を考慮した重力式コンクリートダムの動的挙動特性	- 出原 理
		大型供試体を用いた RCD 用コンクリートの配合設計についての考察	- 永山 功
		微粒骨材を用いた RCD 用コンクリートの特性	- 森脇 康仁
		海砂のダムコンクリートへの適用について	- 辻子 雅則
		鎧畑ダム・利水放流設備新設工事の施工実績	- 門馬 博
		原位置地盤凍結サンプリング法によるパイピング試験について	- 高原 一啓
		均質なマサのグラウチングに関する一考察	- 双木 英人
		ダム堆砂対策の現状と課題	- 熊谷 博
第3回	1992年11月13日	地震動水圧におよぼす地山形状の影響	高知大学 松本 伸介
		地球温暖化が水資源におよぼす影響の地域比較	建設省 土木研究所 丹羽 薫
		アースダムの地震観測と三次元動的応答解析	農林水産省 農業工学研究所 安中 正実
		コンクリートダムの打上がり速度に関する一考案	水資源開発公団 谷 剛
		複数の地下水位面を有する貯水池の浸透水監視体制の検討	秋田県 鈴木 建作
		竜門ダムにおける RCD 工法とその改良	(財)ダム技術センター 及川 隆
		ダム湖岸法面緑化について	- 秋田 衛
		冷却媒体としてドライアイスを用いたプレクーリング工法について	- 竹内 光

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第3回	1992年11月13日	岩盤割れ目系のフラケタル特性による岩盤の不均質性評価に関する検討	- 宇田川 義夫
		ダム建設に伴う地すべりの調査手法としての地形判読	- 柳田 誠
		フィルダムコア材の水圧破碎基準について	- 柳沢 栄司
第4回	1993年11月24日	蛇尾川ダムの堤体コンクリート温度管理について	- 内田 善久
		ブレーキングを用いるダムコンクリート打込み温度の管理方法について	- 久保田 信弥
		分割練混ぜ方式のダムコンクリートへの適用検討の現状	- 佐藤 功
		ロックフィルダムのフィルター材の安定性に関する実験的研究	- 森田 信吾
		泥流堆積物を利用するフィルダムの堤体材料試験	- 西元 宏任
		地震による盛土構造物の残留変形解析	- 桑野 二郎
		ダム環境対策の現状	- 高橋 和也
		選択取水機能に関する実験的研究	水資源開発公団 水野 義之
		流動制御によるダム湖水質保全システム	建設省 土木研究所 久保 徳彦
		第三紀熔結凝灰岩地域の地質形成史解析とダム地質への適用例	(株)アイ・イク・イー 太田 直樹
		軟岩の定量的な岩盤分類の試み ～ふりこ試験器の開発～	(株)ニュージック 徳楠 充宏
		農業用ダム地震情報システムの開発	農林水産省 農業工学研究所 増川 晋

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 5 回	1994 年 11 月 22 日	重力式コンクリートダムの 実測挙動解析	- 杉浦 靖人
		断層処理設計に関する基礎 的検討	- 荒川 昭治
		アーチダムにおける掘削時 の岩盤挙動計測	- 村川 浩一
		北海道南西沖地震における 農業用フィルダムの挙動	- 谷 茂
		高密度電気探査による狭山 池堤体内部構造調査	- 北田 隆久
		フィルダムコア材料のピン ホール試験	- 峰村 修
		火山灰土（主としてローム） の強度特性と施工性に関する 研究	- 村瀬 祐司
		自破砕安山岩の岩盤分類に ついての一考案	- 阪元 恵一郎
		フィルター分離 AP 法による ダム洪水流出予測について	- 永田 謙二
		取水ゲート用チャンバの水 理特性	- 遊道 義憲
		水質・同位体を利用したダム 周辺地下水流動調査	- 塩崎 功
		ダム湖利用の現状	- 石津 治郎
第 6 回	1995 年 11 月 27 日	ダムグラウチングの定量的 施工管理について	- 高橋 公則
		ダム基礎岩盤のグラウチン グ特性とグラウチングの効 果判定に関する一考案	- 立花 猛
		逆解析手法によるコンクリ ートの発熱と熱伝達係数に 関する考察	- 嶋田 啓一
		コンクリートダムにおける 通廊のプレキャスト工法	- 赤坂 雄司
		回転式 RI 法によるフィルダ ムの盛立管理	- 米田 吉男

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 6 回	1995 年 11 月 27 日	粗粒材の透水試験結果に関する一考察	-
		CSG のせん断強度特性	- 豊田 光雄
		軟岩基盤での弾性波探査と高密度電気探査の併用による地質調査	- 関口 光司
		地下ダム止水壁の地震時挙動に関する研究	- 三上 博
		ダム基盤の地震計設置位置に関する一考察	- 井根 健
		ダム湖の魚類相	- 森谷 公之
		ダムに関する研究活動と社会的受容との相関について	- 雨宮 清
第 7 回	1996 年 11 月 29 日	ダム空間の景観デザイン	(株)ジ・オケブ 須田 清隆
		自然生態系に配慮した切土法面緑化手法の開発	飛鳥建設(株) 上杉 章雄
		ダム堆砂排除に関わる土砂場手法の研究	(財)ダム水源地環境整備センター 前川 丈夫
		吉田ダムにおける濁水処理スラッジの再利用について	香川県 大西 泰史
		水門用防錆グリースの研究	石川島播磨重工業(株) 君島 孝尚
		高圧ゲート用摺動式水密機構の研究	三菱重工業(株) 野口 孔明
		円弧越流頂(簡易越流頂)の水理特性と施工性について	農林水産省 農業工学研究所 桐 博英
		低品質骨材を含有したコンクリートの物性に関する基礎的検討	(株)アイ・イク・イー 高島 哲雄
		低品質骨材を用いたコンクリートの耐凍害性に関する実験	建設省 土木研究所 西澤 賢太郎
		高粘性流体を用いた現場透水試験	日本工営(株) 林 正彦
日吉ダム基礎緑式岩のグラウチングによる変形性の改良効果	水資源開発公団 双木 英人		

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第7回	1996年11月29日	コリオリ式質量流量計を利用したグラウチングの注入管理について	鹿島建設(株) 石田 次夫
第8回	1997年11月21日	振動台による堤体模型の破壊実験の新しい手法の提案	東京大学 三神 厚
		既設アーチダムにおける貯水位変動時の動特性に関する検討	(財)電力中央研究所 松尾 豊史
		最近の地震における農業用フィルダムの挙動	農業工学研究所 谷 茂
		コンクリートダムの温度分布に及ぼす日射と放射冷却の影響	アイドールエンジニアリング(株) 山本 富佐雄
		グラウチングによる花崗岩の変形性の改良効果に関する一考察	水資源開発公団 双木 英人
		大日・牛内ダム分水堰の計画・設計について	兵庫県 長田 二郎
		ダムコンクリート用骨材の評価手法に関する検討	(株)アイ・イク・イー 土屋 浩樹
		ダム堤内巡視設備の種類と特徴	日立造船(株) 昌司 達郎
		カーテンウォール付常用洪水吐きによる放流水質に関する現地調査	建設省 土木研究所 塚原 千明
		ダム湖の水質保全と水質予測の動向	(財)ダム水源地環境整備センター 松尾 景治
		高圧ラジアルゲート脚注の現地溶接継手の精度管理	石川島播磨重工業(株) 木治 昇
		フィルダムのコア材の改良に関する一考察	(株)ハダマ 吹原 康広
		細骨材水浸冷却脱水工法によるプレクーリング	佐藤工業・日本国土開発JV 中村 克巳
		固定式ケーブルクレーンによるダム頂部の施工	(株)大林組 三好 哲也

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 9 回	1998 年 11 月 20 日	高透水性を有するダム基礎岩盤の乱流を考慮した浸透流解析	(株)アイ・エヌ・イー 太田 弘文
		セメントミルクの濃度と注入特性の関係について	東京電力(株) 谷 智之
		高性能 AE 減水剤を用いたセメントミルクによるグラウト注入特性改善についての試験・考察	戸田建設(株) 田原 則雄
		掘削面曝露試験及び室内試験によるシルト岩ダム基礎のスレーキング特性	京都大学大学院 原田 光広
		ベース材粒度に着目した非侵食試験	建設省 土木研究所 今林 豊
		一庫ダムにおける兵庫県南部地震の影響と堤体の安全性	水資源開発公団 木戸 研太郎
		基礎地盤の非線形弾性特性を考慮したフィルダム築堤解析法	農林水産省 農業工学研究所 田頭 秀和
		ドラフトゲート形状の合理化に関する研究	三菱重工業(株) 山田 智一
		コンクリート運搬システムの選定手法の一提案	清水建設(株) 福元 洋一
		奥三面ダムにおける高流動コンクリートの適用	新潟県 峰村 修
		連続計量式落下型コンクリート製造システム	前田建設工業(株) 内田 明
希少猛禽類の調査手法について	(財)ダム水源地環境整備センター 西 浩司		
第 10 回	1999 年 12 月 10 日	地質構造を活かした止水範囲の設定と MGL システムによる検証	(株)建設技術研究所 中下 惠勇
		益田川ダムの劣化帯を利用した止水計画について	島根県 川西 敏英

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 10 回	1999 年 12 月 10 日	四万十層からなるダム基礎岩盤の地質統計学による地質工学図作成の試み	京都大学大学院 山崎 寿之
		硬軟複合岩盤のせん断強度に関する研究	建設省 土木研究所 平山 大輔
		重力ダムにおける堤体変形挙動とその解析的検討	水資源開発公団 野中 樹夫
		フィルダム監査廊の挙動特性	農林水産省 農業工学研究所 浅野 勇
		アスファルト全面表面遮水壁型ダムの耐震設計	九州電力(株) 田代 幸英
		コンクリート用骨材温度の推定に関する一考察	(株)熊谷組 古田島 信義
		小里川ダムにおける堤趾導流壁の施工	佐藤工業(株) 吉田 均
		加速度計と GPS を利用した締固め管理方法の高度化	(株)大林組 藤原 宗一
		超高圧ゲート噴流防止装置の開発	三菱重工業(株) 椎名 正樹
		ダム放流設備の下流管が充水する場合の給気問題に関する一考察	日立造船(株) 与口 正敏
		水塊モデルによる貯水池水質シミュレーション解析	八千代エンジニアリング(株) 光永 修
		異常洪水時のダム操作手法について	松江工業高等専門学校 裏戸 勉
		ダム事業における今後の環境影響評価の基本的な考え方	(財)ダム水源地環境整備センター 富家 雄一
第 11 回	2000 年 11 月 16 日	ゾーン型ロックフィルダムの盛立時および湛水時の挙動に関する研究	東電設計(株) 中野 靖
		フィルダムの築堤および初期湛水時の応力・変形解析	農林水産省 農業工学研究所 向後 雄二
		複合型ダムマスコンクリートのヒーティングによるクラック防止対策について	北海道開発コンサルタント(株) 菊地 耕

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 11 回	2000 年 11 月 16 日	成相ダムにおける拡張レヤ ー工法の更なる合理化につ いて	兵庫県 八尾 昌彦
		減勢工の発生音特性に関す る現地観測	建設省 土木研究所 小野 雅人
		粗骨材への冷却散布による ダムコンクリートの効率的 なプレターリングについて	(株)奥村組 林 裕之
		コンクリート等輸送装置の 性能に関する基礎実験	(財)水資源協会 加藤 剛四郎
		小倉ダムにおける脱水ケー キのリサイクルシステム	(株)ジータ 宮成 祐吉
		湛水初期におけるリンの溶 出と富栄養化の関連性につ いて	水資源開発公団 岩崎 健次
		旭バイパス排砂トンネルの 摩耗について	(株)ニュージック 大本 雄二
		仙人発電所球殻分岐管内整 流板亀裂発生原因調査	石川島播磨重工業(株) 松川 徹
		最近のダム魚道の設計につ いて	(財)ダム水源地環境整備 センター 小池 徳仁
第 12 回	2001 年 11 月 30 日	ダム基礎岩盤グラウチング 施工の合理化検討	(財)水資源協会 水谷 淳
		グラウチング及び基礎排水 孔によるコンクリートダム の揚圧力・浸透量低減効果	(独)土木研究所 市原 裕之
		レベル2地震動を受けるフ ィルダム模型の動的進行性 破壊現象	(独)農業工学研究所 増川 晋
		RCD 工法における打継目処 理の簡略化に関する基礎的 研究	水資源開発公団 鈴木 敦
		山口貯水池堤体強化工事に おける堤体挙動に着目した 情報化施工	鹿島建設(株) 藤崎 勝利

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 12 回	2001 年 11 月 30 日	ロックフィルダムにおける土石材料総合運用の実現化について	アイドールエンジニアリング (株) 菊地 智
		奥三面ダムにおける付属工事の工事日数短縮に関する試み	新潟県 峰村 修
		ジオファイバー工法による小里川ダム長大法面の樹林化施工 ~ コンクリートの見えない法面の創造 ~	佐藤工業 (株) 牧 宏衛
		曝気式循環施設の理論と現地適用への考え方	(財)ダム水源地環境整備センター 森井 裕
		デジタルカメラを利用した精密写真測量による大規模切土法面の挙動監視	飛島建設 (株) 阿保 寿郎
		電力ダムの洪水吐ゲート操作支援技術の開発 ~ 気象および流出予測の信頼性向上に関する研究 ~	関西電力 (株) 大東 秀光
		分岐部流れの乱れに関する流動解析からの一考察	三菱重工業 (株) 野口 真太郎
第 13 回	2002 年 11 月 29 日	ダム貯水池堆砂状況の把握とデータ管理の方向	(財)ダム水源地環境整備センター 岡野 眞久
		蛍光法による岩盤内亀裂の高精度可視化	(株)奥村組 寺田 道直
		CFRD 試験施工におけるコンクリートスラブの温度応力について	水資源開発公団 大前 智敬
		クーリングパイプ周辺の温度分布に関する研究	(独)農業工学研究所 浅野 勇
		ロックフィルダムの地震時残留変形に関する検討	(株)建設技術研究所 山邊 建二
		フィルダム工事における情報化施工システムの開発	鹿島建設 (株) 江本 美奈子
		脱水ケーキの法面緑化基盤材への有効利用	前田建設工業 (株) 今坂 成史

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 13 回	2002 年 11 月 29 日	水力発電所建設工事における環境管理システムの構築と運用	(株)開発設計コンサルト 山上 浩
		ダム放流設備の充水管および空気の流力不安定の防止法	(株)ニチゾウテック 畑中 章秀
		湾曲水路の土砂輸送能力	(独)土木研究所 井上 清敬
		潜孔式魚道の設計及び実証実験	岐阜県 堀部 春樹
		美利河ダム降下魚対策の検討 ~ バイパス魚道へのサクラムス・スモルト誘導施設 ~	(株)ド・コン 青山 裕俊
第 14 回	2003 年 12 月 12 日	ダム貯水池流入土砂量に基づく簡易な堆砂推定法についての考察	(財)ダム水源地環境整備センター 藤井 隆弘
		堤高の高い台形 CSG ダムの応力特性	国土交通省 国土技術政策総合研究所 長原 寛
		ダムサイト強震観測記録の高周波低減特性とその適用	(独)水資源機構 曾田 英揮
		重力式コンクリートダム大口径放流管ブロックの三次元的解析	アイドールエンジニアリング(株) 仲摩 貴史
		重力式コンクリートダムの動的クラック進展解析	清水建設(株) 新美 勝之
		ダムとダム湖のランドデザイン ~ 苦田ダム ~	(財)ダム水源地環境整備センター 星家 尚宏
		火砕流堆積層における複合的な止水処理	鹿児島県 福永 和久
		フィルダムロックゾーンのリアルタイム盛立品質管理システムの開発	東京電力(株) 高橋 章
		CSG の強度・透水性に及ぼす混合、締固め時間の影響	飛島建設(株) 岩淵 真
		地表水地下水統合解析によるダムのシミュレーション技術の開発	大成建設(株) 下茂 道人

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 14 回	2003 年 12 月 12 日	ワイヤレス間隙水圧計の開発	(独) 農業工学研究所 浅野 勇
		小渋ダム主放流管の腐食状況に関する調査と解析	八千代エンジニアリング (株) 勝山 敏
		ゲート運転支援システムの開発	石川島播磨重工業 (株) 馬場 浩史
第 15 回	2004 年 11 月 26 日	CFRD 堤体の実測挙動と弾塑性解析	(独) 水資源機構 曾田 英揮
		蛍光法によるグラウト浸透状況の調査	(株) 奥村組 浜田 元
		フィルダムの湛水挙動に関する遠心模型実験	東電設計 (株) 鈴木 朋和
		新型振動羽水車の数値解析及び実験	国土交通省 国土技術政策総合研究所 富澤 洋介
		飽和・不飽和圧密解析手法のロックフィルダムへの適用	(独) 農業工学研究所 林田 洋一
		ダム湖岸の緑化 ~ダム貯水位変動域の緑化~	(財) ダム水源地環境整備センター 吉田 豊一郎
		油圧シリンダ駆動式ワイヤロープウインチの開発	三菱重工業 (株) 平野 晴彦
		風化花崗岩を基礎とする真締川ダムの水理地質構造と設計	山口県 吉松 三男
		アスファルト表面遮水壁型調整池における IT 施工の導入と評価	九州電力 (株) 穴井 幸康
		金峰ダム監査廊コンクリートの温度計測と逆解析による熱特性値と熱境界特性値の評価	飛島建設 (株) 筒井 雅行
第 16 回	2005 年 11 月 25 日	重力・動力併用型 CSG 混合装置の開発とこまちダムへの適用	(株) 奥村組 廣中 哲也
		水位放流方式の適用性に関する研究	(株) 建設技術研究所 芳地 康征
		福岡県西方沖地震におけるダムの挙動	国土交通省 国土技術政策総合研究所 吉岡 英貴

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 16 回	2005 年 11 月 25 日	徳山ダムにおけるコア盛立の急速施工について	(独)水資源機構 大家 充裕
		既設堤体へのコンクリート打増しに関する課題と対応	中国電力(株) 清水 雄一
		固化処理底泥土を用いたフィルダム堤体の耐震補強事例	(株)フジタ 福島 伸二
		表面取水設備の選択取水設備への改造に関する検討	(財)ダム水源地環境整備センター 西村 敬一
		簡易断熱温度上昇試験に基づくフィルダム監査廊の温度解析	(独)農業工学研究所 浅野 勇
		蛍光法によるグラウト浸透状況の調査(第2報)	(株)奥村組 浜田 元
		既設アースフィルダムの耐震強化と耐震性照査 ～東京都水道局村山下貯水池～	日本工営(株) 森岡 昌昭
		フィルダムのコアの水圧破砕に関する基礎的研究	(独)土木研究所 富田 尚樹
		海水揚水発電所上部調整池の遮水シートの耐久性について	電源開発(株) 佐藤 道生
		Web方式によるダムゲート運転支援システム	日立造船(株) 松原 夏子
		全面アスファルト表面遮水壁型調整池における遮水壁施工の最適化	九州電力(株) 内田 浩平
第 17 回	2006 年 11 月 17 日	固化処理底泥土によるフィルダムの堤体補強のための設計法の提案	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 谷 茂
		フィルダムの堤体改修に使用する固化処理底泥土の含水比と粒度分布を考慮した強度管理法	(株)フジタ 北島 明
		徳山ダム基礎における水理地質構造の評価について	(独)水資源機構 川地 悟

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 17 回	2006 年 11 月 17 日	中空円筒供試体を用いたフィルダムコア材の浸透破壊実験	飛島建設（株） 本山 寛
		被圧地下水を有するフィルダムの地下水構造モデル	八千代エンジニアリング（株） 片山 善郎
		苫田 CFRD における浸透・外部変形に関する安全性評価	（独）土木研究所 小堀 俊秀
		ダムサイト地山止水処理におけるソイルセメント地中連続壁の検討について	（株）アイ・イク・イー 山田 尚人
		木戸ダム原石山におけるローモンタイト対策	福島県 猪狩 洋
		京極発電所上部調整池の設計・施工	北海道電力（株） 泉 信人
		連続サイフォン式取水設備の開発	八千代エンジニアリング（株） 勝山 敏
第 18 回	2007 年 11 月 22 日	固化処理底泥土を用いた小規模アースダム改修時の堤体ゾーニングについて	（株）ジグタ 五ノ井 淳
		フィルダムの堤体改修（堤体補強・嵩上げ）に関する事例研究	（株）ジグタ 北島 明
		特記仕様書のリスク分担の提案	（株）間組 高橋 博
		貯水池水質対策としての流動制御フェンスの効果	（財）ダム水源地環境整備センター 佐々木 稔
		益田川ダムの設計と施工	島根県 中村 壽浩
		低拘束圧条件下におけるロック材料強度	（独）土木研究所 林 直良
		分布型融雪流出解析モデルによる融雪出水予測【三国川ダムにおける融雪出水予測システムの構築】	国土交通省 北陸地方整備局 市山 健二
第 18 回	2007 年 11 月 22 日	森吉山ダムにおける堤体盛土の情報化施工 ～リアルタイム施工管理システムの試行～	（株）大林組 小倉 公一

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 18 回	2007 年 11 月 22 日	当別ダムにおける CSG の試験施工について	(株)ド-ン 尾山 玲
		津軽ダムにおける水環境保全措置について	国土交通省 東北地方整備局 樋川 満
		第二浜田ダムにおける堆砂シミュレーションを用いた堆砂容量の検討	(株)アイ・イク・イー 鈴木 伴征
		大山ダムにおけるトレンチ掘削による岩盤せん断試験	(独)水資源機構 小野 雅人
		矢作ダム堤体評価について	国土交通省 中部地方整備局 鳥山 智弘
第 19 回	2008 年 11 月 14 日	固化処理底泥土によるフィルダム堤体嵩上げにおけるゾーニングパターンの提案	(株)フジタ 福島 伸二
		洪水時ダム管理支援システムの検討	いであ(株) 坂本 俊二
		ダム水源地域へのサステイナブルサニテーションシステム導入による影響と課題	(財)ダム水源地環境整備センター 牛島 健
		大規模地震に対する水土木設備の耐震評価の概要	(株)ニュージック 中野 歩
		エコーチップ、分光測色計等による岩石判定と骨材用原石の選別掘削	(株)大林組 玉田 信二
		調整池内の発生土を用いた盛土施工について	(独)水資源機構 大串 憲市
		香川用水調整池盛立材の施工管理について	(独)水資源機構 金井 大輔
		不攪乱試料を用いたフィルダムコア材の透水実験	飛島建設(株) 荒井 幸夫
		早明浦ダムにおける淡水赤潮抑制に関する実験結果	(独)水資源機構 森谷 崇正
第 20 回	2009 年 11 月 13 日	ワイヤレス埋設機器の現状について	(独)農・食品産業技術総合研究機構 浅野 勇
		地震リスクを考慮した老朽化フィルダムの耐震補強について	(独)農・食品産業技術総合研究機構 谷 茂

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 20 回	2009 年 11 月 13 日	アースダム堤体の動的特性に関する調査・試験について	(独)水資源機構 吉久 寧
		液状化を考慮して設計されたフィルダムの事例調査	(株)ジータ 福島 伸二
		岩手・宮城内陸地震による胆沢ダム堤体の災害及び復旧について	飛島建設(株) 小林 弘明
		過早凝結が課題となるスメクタイトを含む骨材を有効利用した徳富ダムの RCD コンクリートの施工について	日本工営(株) 国峯 紀彦
		豪雨時の斜面崩壊過程を考慮した分布型降雨土砂流出モデルの開発	(株)建設技術研究所 小澤 和也
		ダム湖における水位低下操作を利用した外来魚対策	(財)ダム水源地環境整備センター 大杉 奏功

(2) 特別講演

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 11 回	2000 年 11 月 16 日	山峡ダムの近況報告	(財)ダム技術センター 徳永 良雄
第 12 回	2001 年 11 月 30 日	米国のダム・堰の撤去等について	国土交通省 治水課 名波 義昭
第 13 回	2002 年 11 月 29 日	ダム工学会 研究部会 活動報告	ダム工学会
第 14 回	2003 年 12 月 12 日	グラウチング技術指針の改訂	(独)土木研究所 山口 嘉一
第 15 回	2004 年 11 月 26 日	新潟中越地震の速報	(財)ダム技術センター 松本 徳久
		ダムと地震(仮称)	(独)水資源機構 佐藤 信光
第 16 回	2005 年 11 月 25 日	排砂の視点からみた既設ダムの有効利用に関する検討	ダム工学会維持管理研究部会 小林 裕
第 17 回	2006 年 11 月 17 日	世界のダム事情	(社)日本大ダム会議 佐山 實
第 18 回	2007 年 11 月 22 日	ダムや土木、公共事業を少し離れて見つめてみませんか	(独)土木研究所 平野 勇
第 19 回	2008 年 11 月 14 日	2008 年岩手・宮城内陸地震によるダムの被害報告	ダム工学会災害調査委員会調査団 島本 和仁
		岩手・宮城内陸地震における地表地震断層の状況	(独)土木研究所 佐々木 靖人
		岩手・宮城内陸地震で被災した荒砥沢ダムについて	農林水産省 東北農政局 大澤 賢修
		岩手・宮城内陸地震による胆沢ダムの被害復旧概要について	東北地方整備局 佐々木 隆

3. 講習会

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第1回	1996年4月19日	直下地震とダムの耐震性 ～兵庫県南部地震の調査・ 研究結果から～	東京工業大学 大町 達夫
		生態系と調和したダムづくり	(財)ダム水源地環境整備 センター 足立 敏之
		貯水池周辺の地すべり調査 と対策について	建設省 土木研究所 綱木 亮介
		コンクリートダムにおける 合理化施工の現状 ～宇奈 月ダムにおける堤内構造物 のプレキャスト化～	北陸地方整備局 前田・佐藤・宇奈月ダム 作業所 稲留 裕一 佐藤 健一
		RCD工法の現状と将来性 について ～RCC工法から みたRCD工法～	(財)ダム技術センター 山住 有巧
第2回	1997年1月24日	ダム・堰の景観設計と風土工 学	建設省 土木研究所 竹林 征三
		公共土木施設の景観デザイ ンをめぐる最近の話題	清水建設(株) 畑山 義人
		葛野川発電所葛野川ダムに おけるRCD工法について	東京電力(株) 舎川 徹
		山王海ダムの再開発	東北農政局 豊島 弘三
		ダムの地質 ～ダムサイト の地質解析～	八千代エンジニアリング(株) 内瀬戸 信彦
第3回	1998年1月30日	忠別ダムフィル堤体部にお ける基礎処理の設計と施工	大成建設(株) 宮山 憲彬
		フィルダムの設計と施工	愛知工業大学 大根 義男
		奥三面ダムの施工について	新潟県 峰村 修
		コンクリートダムの耐震設 計の現状と展望	建設省 土木研究所 永山 功
		ダムコンクリートの施工方 法について ～平面施工と ブロック工法～	(株)アイ・イク・イー 中村 靖治

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第4回	1999年1月29日	ダム建設現場のコスト縮減・アメリカ合衆国ダム事情	(財)日本ダム協会 (株)間組 吹原 康広
		ダム建設における第四紀断層の調査	脇坂 安彦
		天神ダム、梶谷ダムでの施工の新しい取り組み	前田建設工(株) 執行 信
		ダム基礎の止水に関する2,3の検討	(財)ダム技術センター 藤澤 侃彦
		ダム技術の現在とダム建設の将来	(財)国土開発技術研究センター 廣瀬 利雄
第5回	2000年1月28日	ダム事業におけるワシタカ調査について	建設省 土木研究所 安田 佳哉
		ダム事業における最適材料運用計画策定支援システムMES(ミニマム エミッション システム)	(財)ダム技術センター 西牧 均
		ゲート設備設計の最近の動向	建設省 土木研究所 高須 修二
		大規模土砂災害での対応およびダム建設におけるVEの導入	(財)ダム技術センター 小合澤 辰雄
		フィルタイプダムのかさ上げについて	京都大学・近畿大学 長谷川 高士
第6回	2001年1月26日	摺上川ダムの施工と新規開発にむけた取り組みについて	飛島・大林共同企業体 松岡 治
		シミュレーションモデルを用いたRCD工法の施工性の検証	愛知県 大内 忠臣
		貯水位を基本情報とする洪水時操作について	(社)九州建設弘済会 今村 瑞穂
		ロックフィルとCFRD	(財)ダム技術センター 松本 徳久
		国際的に見たダムの現状と将来	東京大学 高橋 裕
第7回	2002年1月25日	貯水池の土砂管理	(独)土木研究所 柏井 条介
		神流川水力発電所建設工事について	東京電力(株) 西脇 芳文

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第7回	2002年1月25日	フィルダムの施工と経済性向上	北陸地方整備局 川崎 秀明
		水循環における森林とダム	東京大学 太田 猛彦
		台形CSGダムについて	(財)ダム技術センター 藤澤 侃彦
第8回	2003年1月24日	最近の技術動向; CSGとグラウチング	国土技術政策総合研究所 川崎 秀明
		流域の視座	関東学院大学 宮村 忠
		宇宙船地球号と日本 - ダムのやくわり -	三井建設(株) 北川 正男
		五十里ダム施設改良工事及びダム連携工事の施工報告	鹿島建設(株) 米山 義春
		流砂系における貯水池土砂管理の課題	京都大学 角 哲也
		ダム再開発についての現状の課題と今後の展望	(独)土木研究所 坂本 忠彦
第9回	2004年1月23日	中国長江の締切に挑む - 三峡ダム仮締切工事 -	前田建設工業(株) 畠中 勝也
		世界ダム事情	国際大ダム会議 馬場 恭平
		人類の近未来と水資源および新エネルギー - ダムの未来 -	東京工業大学 丸山 茂徳
		小規模アースダム改修の新工法	(独)農業工学研究所 谷 茂
		女性と命と水	(財)ダム水源地環境整備センター 竹村 公太郎
第10回	2005年1月28日	めざせ! フィールドの達人 - 土木技術者のための地質調査の秘伝 -	アイドールエンジニアリング(株) 奥田 英治
		コンクリートダム設計の歴史	(財)ダム技術センター 飯田 隆一
		苫田ダムの設計と施工	中国地方整備局 中江 兼二
		ダムに関わる法的問題点について	九州大学 七戸 克彦
		フィルダムの設計および施工の歴史	愛知工業大学 大根 義男

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 10 回	2005 年 1 月 28 日	中越地震災害調査報告会 「新潟県中越地震に関する ダム工学会災害調査団調査 報告」	(独)土木研究所 山口 嘉一
第 11 回	2006 年 1 月 20 日	マレーシアにおける RCC ダ ムの施工	(株)間組 天明 敏行
		提唱、貯水池学	(財)ダム水源地環境整備 センター 加藤 昭
		ダムなしで 治水は可能か - 究極の治水体系は 4 0 0 年前にある -	新潟大学 大熊 孝
		気候変動の水災害への影響	京都大学 宝 馨
		ダム無用論を憂う - 国家 百年の計としてのダム事業 を考える -	富士常葉大学 竹林 征三
第 12 回	2007 年 2 月 2 日	フィルダムの安全管理	ダム工学会 ダム工学会 内田 善久 森 秀人
		中小規模ダムの堆砂問題に ついて	(株)三祐コンサルツツ 千原 英司
		ダム人間模様	河川環境管理財団 高崎 哲郎
		長井ダムの RCD 工法	(株)間組 三浦 健二
		ダム事業のマネジメントシ ステム	東京大学 小澤 一雅
第 13 回	2008 年 1 月 18 日	台形 CSG ダムの施工につい て	(財)日本ダム協会 前田建設工業(株) 佐藤 健一
		水力発電の未来	(株)開発設計コンサルツツ 藤野 浩一
		ダム L2 最前線	東京工業大学大学院 大町 達夫
		複合災害の最悪のシナリオ ~地震と洪水~	京都大学 河田 恵昭
		ダムのアセットマネジメン ト/米国の流水型(DRY)ダ ム	京都大学大学院 角 哲也

回	開催日	講演名	所属 / 講演者
第 14 回	2009 年 1 月 23 日	ダム事業の現況と今後の問題	国土交通省 河川局 青山 俊行
		持続可能な水力発電の課題と展望	(財)電力中央研究所 宮永 洋一
		2008 年中国四川大地震による地すべりダム災害	京都大学 汪 発武
		複岩手・宮城内陸地震とダム	(独)土木研究所 吉田 等
		ラオス RCC ダムの施工	西松建設(株) 中尾 光宏
第 15 回	2009 年 11 月 14 日	稲葉ダムの造成アバットメント、及び CSG 施工について	大分県 桑原 和生
		嘉瀬川ダム副ダム CSG 施工について	西松建設(株) 大石 一明
		既設ダムの再開発について	(独)土木研究所 山口 嘉一

4. 現地見学会

回	開催日	施設名	所属/団長	参加人数
第1回	1991年2月16日	宮ヶ瀬ダム	- 田村 重四郎	61
第2回	1991年10月17日	葛野川上部ダム 葛野川下部ダム	- 湯浅 昭	47
第3回	1992年9月3日	浦山ダム 合角ダム	- 田村 重四郎	43
第4回	1993年4月15日	津川ダム 千屋ダム	- 藤本 保	47
第5回	1993年11月18日	宮ヶ瀬ダム 塩川ダム	- 山岸 俊之	43
第6回	1994年5月19日	松田川ダム 四万川ダム	- 毛涯 卓郎	46
第7回	1994年11月8日	月山ダム 田沢川ダム	- 長門 明	49
第8回	1995年5月25日	久婦須川ダム 宇奈月ダム	- 佐古 圭次	49
第9回	1995年11月7日	大滝ダム 比奈知ダム	- 下村 周	55
第10回	1996年5月30日	葛野川上部ダム 地下発電所 葛野川下部ダム	- 山内 彪	50
第11回	1996年10月24日	門入ダム 満濃池 富郷ダム	- -	50
第12回	1997年6月12日	早池峰ダム 山王海ダム	- 高樋 堅太郎	50
第13回	1997年10月23日	大長見ダム 温井ダム	- 伊集院 敏	53
第14回	1998年6月4日	狭山池ダム 大滝ダム	- 国分 正胤	50
第15回	1998年10月1日	摺上川ダム 新宮川ダム	- 長谷川 高士	50
第16回	1999年6月10日	忠別ダム 滝里ダム 桂沢ダム	- 黒田 晃	52

回	開催日	施設名	所属/団長	参加人数
第17回	1999年10月13日	神流川上部ダム 神流川下部ダム 地下発電所 下久保ダム	- 山住 有巧	45
第18回	2000年6月29日	滝沢ダム 浦山ダム 山口貯水池	- 原田 譲二	45
第19回	2000年11月1日	九谷ダム 永平寺川ダム 栴谷ダム	- 竹林 征三	31
第20回	2001年7月12日	摺上川ダム 綱木川ダム 長井ダム	- 下村 周	46
第21回	2001年11月8日	徳山ダム 横山ダム 根尾谷断層館	- 水野 光章	46
	講演			
	1. 海外のCFRDを施工して		大成建設(株)	中村 隆
	2. 徳山ダムにおける環境調査と情報公開		水資源開発公団	嶋田 啓一
	3. 徳山ダムにおける環境保全対策の取り組みについて		水資源開発公団	柳川 晃
第22回	2002年7月18日	胆沢ダム 石淵ダム 鷹生ダム ニツ石ダム	- 柳澤 栄司	39
第23回	2002年10月31日	船上山ダム 小田股ダム 苦田ダム	- -	36
第24回	2003年7月10日	長井ダム 綱木川ダム	- 中村 靖治	46
第25回	2003年11月10日	滝沢ダム 琴川ダム	- 丈達 俊夫	39
第26回	2004年6月10日	木之川内ダム 小丸川上部ダム 小丸川下部ダム 地下発電所	- 山口 甚郎	42

回	開催日	施設名	所属/団長	参加人数
第 27 回	2004 年 10 月 7 日	新丸山ダム 中野方ダム 徳山ダム	- 播田 一雄	32
第 28 回	2005 年 6 月 8 日	忠別ダム 留萌ダム 徳富ダム	- 北條 紘次	46
第 29 回	2005 年 10 月 13 日	栃ヶ原ダム 川西ダム 広神ダム 東竹沢地区 河道閉塞対策工事 山本調整池 新山本調整池	- 松本 徳久	37
第 30 回	2006 年 7 月 6 日	胆沢ダム 石淵ダム 玉川ダム 鎧畑ダム 森吉山ダム	- 城島 誠之	45
第 31 回	2006 年 10 月 17 日	高瀬ダム 七倉ダム 新高瀬川発電所 大町ダム 黒部ダム 黒部第 4 発電所 出し平ダム 宇奈月ダム	- 森 吉昭 - 松本 正毅	28
第 32 回	2007 年 7 月 5 日	尾原ダム 志津見ダム	岡山大学 阪田 憲次	33
第 33 回	2007 年 12 月 6 日	嘉瀬川ダム 藤波ダム 合所ダム	(社)日本大ダム会議 濱口 達男	43
第 34 回	2009 年 5 月 26 日	白水堰堤 稲葉ダム 大山ダム 松原ダム・下笠ダム	(財)水資源協会 大藪 勝美	25
第 35 回	2009 年 10 月 15 日	夕張シュ-ハ°ダム 当別ダム	(社)日本大ダム会議 大藪 勝美	37

5. 活性化推進活動

(1) 地域活動

開催日	行事名	講演名	所属 / 講演者	参加人数
2005年11月29日	森吉山ダム現場見学会	-	-	21
2005年12月16日	稲葉ダム現場見学会	-	-	57
2006年10月17日	忠別ダム現場見学会	-	-	30
2006年11月10日	藤波ダム現場見学会	-	-	63
2006年11月17日	長井ダム現場見学会	-	-	47
2006年11月27日	横山ダム 徳山ダム現場見学会	-	-	43
2007年7月24日	北海道のコンクリートダム歴史研究発表会	台形CSGダムの設計と施工について	(財)ダム技術センター 藤澤 侃彦	149
2007年10月11日	西岡ダム 雨竜第一ダム 雨竜発電所現場見学会	-	-	26
2007年10月18日	長沼ダム現場見学会	迫川改修のあゆみ	宮城県 大内 渉	48
		ダム・水理構造物維持管理と耐久性	東北大学 久田 真	
2007年11月9日	嘉瀬川ダム現場見学会	洪水調節専用(流水)型ダムの現状と課題	(財)ダム技術センター 池田 隆	57
2007年11月30日	香川用水調整池 香川用水記念公園 水の資料館 豊稔池現場見学会	吉野川の治水・利水の現状と課題について	(独)水資源機構 杉村 淑人	74
		豊稔池の築造	香川用水土地改良区 長町 博	

開催日	行事名	講演名	所属 / 講演者	参加人数
2007年12月7日	太田川ダム現場見学会	大規模地震に対するダムの耐震性能照査	(財)ダム技術センター 金銅 将史	36
2008年10月3日	新桂沢ダム 桂沢ダム 夕張スーパーパ 口現場見学会	-	-	79
2008年11月5日	胆沢ダム現場 見学会	胆沢ダムの事業概要と岩手・宮城内陸地震の記録について	国土交通省 佐々木 隆	68
		IT を活用した胆沢ダムの施工および品質管理	胆沢ダム堤体盛立工事JV 品川 敬	
		ダム貯水池の水質管理 - アオコの発生と環境要因 -	東北大学 梅田 信	
2008年11月14日	志津見ダム 灰塚ダム 知和ウェット ランド現場見 学会	ダムで水没した人間の思い	元灰塚ダム建設(反対)同盟会 伊藤 裕啓	41
	大山ダム現場見学会	最近の山岳地震について	九州大学 大塚 久哲	75
2008年11月28日	大滝ダム現場見学会	ダムに関連した委託研究成果の紹介	京都大学 西山 哲	51
		白屋地区地すべり対策工事の押え盛土工事について	大成建設(株) 江田 正敏	
2009年10月16日	当別ダム現場見学会	-	-	116
2009年10月22日	胆沢ダム現場見学会	胆沢ダムの事業概要について	国土交通省 伊藤 邦展	46
		地盤構造物の地震時安定性の評価について	日本大学 中村 晋	

開催日	行事名	講演名	所属 / 講演者	参加人数
2009年11月6日	菅生ダム現場見学会	貯水池の深層曝気と水質挙動	神戸大学 道奥 康治	56
		ダムの機能向上と水理設計	(財)ダム技術センター 高須 修二	
2009年11月13日	嘉瀬川ダム井手口ダム現場見学会	大規模地震に対するダムの耐震性能照査について	(財)ダム技術センター 島本 和仁	45
		RCDの高速施工について	鹿島・青木あすなろ・松尾建設JV 林 健二	
2009年11月20日	殿ダム現場見学会	コンクリート構造物の長寿命化にむけて	鳥取大学 井上 正一	65

(2) 若手の会

開催日	行事名	講演名	所属 / 講演者	施設名	参加人数
2007年 2月15日	第1回 語りべの会	海外のダム建設 について	鹿島建設(株) 福田 勝行	東京大 学本郷キ ャンプス	93
		川は恵み、ダム は思想する	荘内日報社 水戸部 浩子		
2007年 7月30日	現地見学会	-	-	宮ヶ瀬 ダム	37
2007年 12月4日	第2回 語りべの会	中国におけるダ ム整備の現状と 新しいダム技術 適用の試み	中華人民共和国 清華大学 安 雪暉	東京大 学生産 技術研 究所駒 場コンパ ンション ホール	143
		迷探偵『地質野 調兵衛』	(財)国土技術研究 センター 桑原 啓三		
2008年 8月1日	現地見学会	-	-	二瀬ダム 浦山ダム	42
2008年 10月9日	ビデオ 上映会	-	-	東京大 学本郷キ ャンプス	30
2008年 12月8日	第3回 語りべの会	ダムの用・強・ 美	国土交通省 国土技 術政策総合研究所 川崎 秀明	東京大 学本郷キ ャンプス	84
		ダムの魅力	ダムファン代表 萩原 雅紀 ダムファン代表 宮島 咲		
2009年 7月30日	現地見学会	-	-	湯西川 ダム	45
2009年 10月22日	ビデオ 上映会	-	-	東京大 学本郷キ ャンプス	27
2010年 1月18日	第4回 語りべの会	永田年(すすむ) と佐久間ダム	国際連合大学 高橋 裕	東京大 学本郷キ ャンプス	84
		水利土木遺産を 見る	近畿大学 岡田 昌彰		

(3) ダムなんでも相談室

開催日	行事名	参加人数
2006年7月28日	「水の週間」ウォーターフェア'06 東京	2000
2007年7月28日	「水の週間」ウォーターフェア'07 東京	2000
2008年7月25日	「水の週間」ウォーターフェア'08 東京	1500
2009年7月31日	「水の週間」ウォーターフェア'09 東京	1200

(4) その他

開催日	行事名	参加人数
2001年5月18日	ダム工学会創立10周年記念講演	193
2005年12月9日	ダム工学会創立15周年記念シンポジウム	198
2007年11月28日	大規模ダム竣工50周年記念事業	257
2009年4月10日	「黒部の太陽」特別上映会	290

表彰関係

1. 表彰基準

(1)功績賞（特別功績賞、功績賞、技術功績賞）

功績賞は、技術賞と同等の業績または論文賞と同等の論文発表等の積み重ねによって、ダム事業の発展やダム工学の進歩に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体、あるいはダム工学会の運営に寄与し、学会の声価を高め、その興隆に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体に対して授与する。なお、ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に特に著しい貢献をなしたと認められる場合は特別功績賞、ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に貢献をなしたと認められる場合は功績賞、ダム技術を通じてダム工学の進歩に著しい貢献をなしたと認められる場合は技術功績賞を授与するものとする。

(2)技術賞

技術賞は、ダムの計画、設計、施工、または維持管理等に関して、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業を実施した個人または団体に対して授与する。

(3)論文賞

論文賞は、ダム工学会が刊行する論文集「ダム工学」及び、これと同等の会誌にダム工学に関わる独創的な論文を発表し、ダム工学における学術、技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人または本会会員を含む団体に対して授与する。

(4)技術開発賞

技術開発賞は、ダムの調査、試験、設計、施工または維持管理等において、創意工夫に富む技術を開発、実用化し、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人、または本会会員を含む団体に対して授与する。

(5)著作賞

著作賞は、ダム工学を体系化し、またはダム工学における新しい分野を集大成し、ダム工学、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた工学的な著作の著者、またはダム工学、ダム技術の意義あるいはダム技術者の活躍を広く世に紹介することに著しい貢献をなしたと認められた一般的な著作の著者に対して授与する。

2. 特別功績賞

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 14 年度	沢田 敏男	京都大学名誉教授 日本学士院会員	昭和 17 年 京都大学卒業 ・ 京都大学教授 ・ 京都大学総長 ・ 日本学術振興会会長 ・ 日本学士院会員 ・ WWF3 プレシンポジウム国内実行委員会委員長
平成 15 年度	田村 重四郎	東京大学名誉教授	昭和 29 年 東京大学工学部卒業 昭和 50 年 東京大学教授・生産技術研究所 平成 元年 土木学会耐震工学委員会委員長 平成 7 年 ダム工学会会長
平成 16 年度	中川 博次	京都大学名誉教授	昭和 31 年 京都大学大学院工学研究科修士課程 (土木工学)専攻 昭和 44 年 京都大学工学部教授 平成 10 年 ダム工学会会長 平成 10 年 水資源開発審議会会長
平成 17 年度	飯田 隆一	(財)ダム技術センター 技術顧問	昭和 28 年 3 月 東京大学工学部土木工学科卒業 昭和 48 年 5 月 建設省土木研究所ダム部長 昭和 57 年 11 月 建設省土木研究所所長 平成 4 年 10 月 (財)ダム技術センター理事長 平成 11 年 ダム工学会会長
平成 18 年度	大根 義男	愛知工業大学総長補佐	昭和 31 年 3 月 中央大学工学部土木工学科卒業 昭和 43 年 4 月 愛知工業大学工学部土木工学科 教授 平成 2 年 5 月 ダム工学会 理事 平成 12 年 5 月 ダム工学会 会長
平成 19 年度	長瀧 重義	愛知工業大学工学部	昭和 35 年 3 月 東京大学工学部土木工学科卒業 昭和 55 年 7 月 東京工業大学工学部土木工学科 教授 平成 8 年 4 月 新潟大学工学部建設学科教授 平成 14 年 5 月 ダム工学会会長 平成 16 年 4 月 愛知工業大学教授

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 20 年度	足立 紀尚	(財)地域地盤環境研究所	昭和37年 3月 京都大学工学部土木工学科卒業 昭和58年 2月 京都大学工学部交通土木工学科 教授 平成 11年 6月 (財)大阪土質研究所理事 平成 14年 6月 (財)地域地盤環境研究所 理事長 平成 18年 4月 ダム工学会会長
平成 21 年度	梅田 貞夫	鹿島建設(株) 代表取締役会長	昭和 35年 3月 京都大学大学院研究科 (土木工学)修了 平成 8年 6月 鹿島建設(株)代表取締役社長 平成 10年 4月 (社)日本土木工業協会会長 平成 11年 7月 (財)日本ダム協会会長 平成 17年 5月 ダム工学会会長

3. 功績賞

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 6 年度	岡本 舜三	日本学士院会員	
平成 14 年度	堀 和夫	(株)熊谷組 社友	昭和 28 年 東京大学卒業 ・ 矢木沢ダム調査設計課長 ・ 建設省計画課長河川局開発課長 ・ 北陸地方建設局長 ・ 日本シールドエンジニアリング(株)顧問 ・ (株)熊谷組常勤顧問、取締役副社長
	近藤 信昭	近畿コンクリート工業(株)	昭和 28 年 東京大学卒業 ・ 椿原、鳩谷、黒部川第四勤務 ・ 取締役 常務取締役 専務取締役 ・ 近畿コンクリート工業(株)取締役社長、 取締役会長
	伊集院 敏	(株)日本技研コンサルタント取締役	昭和 28 年 九州大学卒業 ・ 同年建設省入省 ・ 水資源開発公団第一工務部・企画部・思川開発 琵琶湖開発・関西支社等歴任、ダム事業担当理事 で退職 ・ (株)間組
	柴田 功	アイドルエンジニアリング(株) 最高技術顧問 日特建設(株)顧問	昭和 33 年 早稲田大学卒業 ・ 建設省土木研究所ダム部長 ・ (財)ダム技術センター研究第一部長、理事、ダ ム技術研究所所長歴任
	内田 敏久	電力土木技術協会 顧問	昭和 29 年 3 月 東京大学工学部卒業 昭和 29 年 4 月 中部電力(株)入社 平成 5 年 6 月 同社取締役副社長 平成 9 年 6 月 中部電気保安協会理事長
平成 15 年度	志水 茂明	戸田建設(株) 取締役相談役	昭和 34 年 3 月 京都大学大学院修士課程終了 昭和 62 年 7 月 建設省関東地方建設局長 昭和 62 年 12 月 水資源開発公団理事 平成 4 年 7 月 戸田建設(株)専務取締役

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 15 年度	仲野 良紀	(元)岐阜大学教授	昭和 32 年 3 月 東京大学農学部農業工学科卒業 昭和 32 年 4 月 農林省入省(農業技術研究所) 昭和 55 年 7 月 岐阜大学教授 (農学部農業工学科) 平成 5 年 4 月 岐阜大学大学院連合農学研究科 (博士課程)
	潮田 盛雄	(株)アイ・エヌ・エー 相談役	昭和 31 年 3 月 山梨大学工学部卒業 昭和 31 年 4 月 電源開発(株) 入社 昭和 43 年 3 月 (株)アイ・エヌ・エー入社 平成 12 年 3 月 代表取締役社長
	加藤 重男	大成建設(株)社友	昭和 37 年 東京大学卒業 昭和 37 年 大成建設(株)入社 平成 6 年 忠別ダム総合所長 平成 9 年 フリー工業(株)取締役専務
平成 16 年度	糸林 芳彦	元日特建設(株) 特別顧問	昭和 31 年 3 月 徳島大学工学部土木工学科卒業 昭和 50 年 3 月 関東地方建設局川治ダム工事事 務所所長 昭和 60 年 6 月 (株)建設技術研究所取締役 昭和 63 年 10 月 水資源開発公団理事
	古城 一省	八千代エンジニアリ ング(株)相談役	昭和 31 年 3 月 九州大学工学部卒業 昭和 31 年 4 月 九州電力(株)入社 昭和 38 年 6 月 八千代エンジニアリング(株) 入社 平成 16 年 2 月 相談役
	鈴木 徳行	名城大学理工学部 建設システム工学科 教授	昭和 31 年 4 月 建設省入省、天竜川上流調査係長 昭和 47 年 12 月 矢作ダム、八田原、島地川、長島 ダム各所長 昭和 57 年 4 月 名城大学理工学部教授 平成 5 年 4 月 名城大学理工学部土木工学科長
	石井 清	東京湾横断道路(株) 取締役社長	昭和 33 年 東京大学工学部土木工学科卒 昭和 51 年 東京電力(株) 建設部土木調査課長 平成 5 年 東京電力(株) 常務取締役・送変電建設 本部長 平成 9 年 東電設計(株) 代表取締役社長 現職

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 16 年度	佐藤 雄昭	ケミカルグラウト (株)	昭和 37 年 早稲田大学卒業 昭和 37 年 鹿島建設(株) 入社 平成 2 年 土木技術本部工務部部長 平成 7 年 ケミカルグラウト(株)取締役施工本部 副本部長
平成 17 年度	酒井 賢一	元日特建設(株) 特別顧問	昭和 26 年 3 月 北海道大学工学部土木工学科 卒業 昭和 60 年 6 月 泊原子力発電所建設所 所長(取締役) 昭和 62 年 6 月 常務取締役 平成 3 年 6 月 北電興業(株)取締役社長
	浅井 喜代治	三重大学名誉教授	昭和 33 年 3 月 京都大学大学院農学研究科 (農業工学)修士課程終了 昭和 33 年 4 月 農林省入省 昭和 41 年 9 月 香川大学農学部講師 昭和 55 年 3 月 三重大学教授
	岡本 隆一	(株)アイ・エヌ・エー 社友	昭和 30 年 3 月 九州大学理学部地質学科卒業 昭和 30 年 4 月 建設省入省、九州地建企画部、 日田工事事務所技官 昭和 42 年 6 月 土木研究所地質研究室長 平成 2 年 4 月 (株)アイ・エヌ・エー専務取締役、 取締役副社長、最高顧問
	城島 誠之	(株)日本建設技術社 代表取締役社長	昭和 34 年 3 月 九州大学工学部土木工学科卒業 昭和 34 年 4 月 建設省九州地方建設局入省 平成 3 年 2 月 (財)ダム技術センター理事 平成 5 年 11 月 (株)建設技術社社長
	清家 保成	西松建設(株)社友	昭和 36 年 山口大学卒業 昭和 36 年 西松建設(株)入社 平成 2 年 大松川ダム所長 平成 5 年 東北支店土木部長

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 17 年度	福田 佳之	アイドルエンジニアリング(株) 取締役会長	昭和 35 年 3 月 北海道大学工学部土木工学科 卒業 昭和 35 年 4 月 岡山県高梁川総合開発局河本ダ ム事務所勤務 昭和 40 年 6 月 水資源開発公団青蓮寺ダム建設 所勤務 昭和 52 年 4 月 アイドールエンジニアリング (株)設立 取締役
平成 18 年度	高山 昌照	九州大学名誉教授	昭和 34 年 3 月 九州大学農学部農業工学科卒業 昭和 34 年 4 月 農林省九州農業試験場採用 昭和 56 年 8 月 九州大学農学部教授 平成 12 年 4 月 高山地盤環境工学研究所開設
	寺園 勝二	(株)建設技術研究所 審議役	昭和 37 年 4 月 建設省関東地方建設局上級職 採用 昭和 58 年 7 月 建設省東北地方建設局七ヶ宿ダ ム工事事務所長 平成 5 年 7 月 (財)ダム水源地環境整備センタ ー理事 平成 15 年 3 月 (株)建設技術研究所審議役
	柳澤 栄司	東北大学名誉教授	昭和 40 年 3 月 東北大学大学院工学研究科修士 課程修了 昭和 56 年 10 月 東北大学教授(工学部) 平成 9 年度～10 年度 地盤工学会副会長 平成 12 年 5 月～平成 18 年 5 月 ダム工学会理事
平成 19 年度	初倉 克幹	基礎地盤コンサルタ ンツ(株)	昭和 32 年 3 月 広島大学理学部地学科卒業 昭和 34 年 4 月 農林省金沢農地事務局採用 昭和 44 年 4 月 九州農政局地質官 昭和 61 年 10 月 農林水産省構造改善局資源課 農村環境保全室長
	高樋 堅太郎	日本基礎技術(株) 特別顧問	昭和 38 年 3 月 京都大学工学部卒業 昭和 38 年 4 月 水資源開発公団採用 平成 7 年 6 月 水資源開発公団理事 平成 9 年 10 月 (財)ダム技術センター

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 19 年度	岡田 宜昭	(株)間組 社友	昭和 39 年 3 月 東京教育大学農学部農業工学科卒業 昭和 39 年 4 月 (株)間組入社 昭和 59 年 1 月 味噌川ダム所長 平成 11 年 6 月 (株)間組土木本部長
平成 20 年度	荒井 治	フリー工業(株)	昭和 38 年 3 月 東京大学工学部土木工学科卒業 平成 3 年 5 月 建設省河川局開発課長 平成 5 年 1 月 建設省関東地方整備局長 平成 6 年 7 月 ダム水源地環境整備センター 理事
	増田 明德	N T C コンサルタン ツ(株)	昭和 35 年 3 月 愛媛大学農学部農業工学科卒業 昭和 51 年 4 月 農林水産省構造改善局設計課 農業土木専門官 昭和 61 年 4 月 東北農政局土地改良技術事務所 所長 平成 3 年 5 月 日本農業土木総合研究所 専門研究員
	内瀬戸 信彦	八千代エンジニアリ ング(株)社友	昭和 41 年 3 月 広島大学大学院理学研究科卒業 昭和 41 年 4 月 八千代エンジニアリング(株) 入社 平成 12 年 2 月 八千代エンジニアリング(株) 常務取締役
	吉川 勅	(株)熊谷組	昭和 40 年 3 月 三重大学農学部農業土木学科 卒業 昭和 40 年 4 月 (株)熊谷組入社 平成 9 年 4 月 名古屋支店副支店長 平成 12 年 3 月 水資源機構徳山ダム工事所所長
平成 21 年度	渡部 威	関西電力(株)社友	昭和 30 年 3 月 東京大学工学部土木工学科卒業 昭和 30 年 4 月 関西電力(株)入社 平成 3 年 6 月 関西電力(株)常務取締役 平成 9 年 6 月 近畿コンクリート工業(株)社長
	遠藤 紀寛	(株)間組 社友	昭和 37 年 3 月 三重大学農業土木学科卒業 昭和 37 年 4 月 農林水産省入省 平成 3 年 7 月 農林水産省北陸農政局長 平成 20 年 6 月 (株)間組 顧問

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 21 年度	水野 光章	(財)水資源協会 研究顧問	昭和 40 年 3 月 東京大学工学部卒業 昭和 40 年 4 月 水資源開発公団採用 平成 11 年 8 月 水資源開発公団理事 平成 13 年 11 月 (財)水資源協会専務理事
	寺井 清	(株)大林組 社友	昭和 33 年 3 月 県立徳島工業高等学校土木課程 卒業 昭和 33 年 4 月 (株)大林組入社 平成 2 年 2 月 福井治水ダム建設工事 所長 平成 4 年 9 月 (株)大林組東京本社土木技術本 部技術部長

4. 技術功績賞

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 15 年度	足立 英文	(株)大阪砕石工業所 顧問	昭和 28 年 兵庫県立兵庫工業高等学校 土木科卒業 昭和 28 年 (株)大阪砕石工業所 入社 昭和 63 年 スリランカ サマナラウェバダム 担当部長 平成 12 年 顧問、副社長
平成 16 年度	長門 明	(株)竹中土木技術本部次長	昭和 27 年 3 月 建設省関東地方建設局荒川上流工 事事務所 昭和 49 年 4 月 建設省河川局開発課補助技術係長 昭和 61 年 7 月 建設省関東地方建設局二瀬ダム管 理所長 平成 5 年 10 月 (財)ダム技術センター首席参事
	加藤 祐一	(株)ムツミ 特別顧問	昭和 31 年 福岡県立黒木高等学校 卒業 昭和 33 年 (株)大阪砕石工業所 入社 昭和 33~42 年 黒又川第二発電ダム他のダム骨材生 産工事に従事 昭和 55 年 取締役副社長に就任
平成 17 年度	田原 正清	アイドルエンジ ニアリング(株) 非常勤顧問	昭和 30 年 6 月 (株)志多組入社 昭和 31 年 4 月 建設省九州地方建設局五ヶ瀬川工 事事務所採用 昭和 56 年 4 月 建設省九州地方建設局耶馬溪ダム 工事事務所長 昭和 59 年 5 月 (社)福岡県建設資料センター専務 理事
	藤本 秀男	日特建設(株) 顧問	昭和 41 年 東北大学理学部地質古生物学科 卒業 昭和 60~63 年 本店直轄グラウト工事部長 平成 6~10 年 取締役基礎本部長、 常務取締役基礎本部長 平成 11~17 年 常務取締役名古屋支店長、 代表取締役専務営業本部長

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 18 年度	青沼 英明	元(財)ダム技術センター参与	昭和 30 年 3 月 山梨大学工学部 機械工学科卒業 昭和 46 年 7 月 建設省関東地方建設局 川治ダム工 事事務所 機械課長 平成 4 年 7 月 (財)ダム技術センター 参与 平成 11 年 8 月 (株)エミック 技術顧問
	米谷 敏	前田建設工業(株) 顧問	昭和 39 年 岐阜大学卒業 昭和 39 年 前田建設工業株式会社 入社 平成 9 年 本社土木部部长 平成 15 年 本社 顧問兼(株)ミヤマ工業代表取締役 社長
	安達 捷	日本基礎技術(株) 社友	昭和 32 年 島根農科大学付属農林高等学校 昭和 32 年 日本基礎技術(株) 入社 昭和 44~57 年 内川ダム、赤瀬ダム、岩坂ダム工事 事務所所長 昭和 61 年~平成 6 年 北陸、名古屋、大阪副支店長
平成 19 年度	中原 勝	大阪碎石工業所 石友会	昭和 29 年 3 月 都島工業高校土木科卒業 昭和 29 年 4 月 (株)大阪碎石工業所入社 昭和 59 年 本社技術部 部長 昭和 63 年 本社設計部長
	小合澤 辰雄	(財)ダム技術セン ター	昭和 34 年 3 月 丸子実業高等学校土木課程卒業 昭和 34 年 4 月 建設省近畿地方建設局採用 平成 4 年 4 月 建設省河川局開発課課長補佐 平成 10 年 4 月 (財)ダム技術センター上席参事
平成 20 年度	今野 恒	日本振興(株)	昭和 35 年 3 月 宮城県立小牛田農林高等学校卒業 昭和 35 年 4 月 建設省東北地方建設局入省 平成 7 年 7 月 鳴瀬川総合開発調査事務所長 平成 9 年 7 月 (財)ダム技術センター上席主任研 究員
	大西 宣嗣	(株)ムツミ	昭和 32 年 3 月 愛媛県立新居浜商業高等学校卒業 昭和 45 年 (株)睦建設工業入社 平成 13 年 専務取締役事業本部長 平成 16 年 代表取締役社長

年 度	氏 名	所 属	受賞者略歴
平成 21 年度	古田 政美	(株)ドーコン顧問	昭和 43 年 3 月 北海道大学理学部地質学鉱物学科 卒業 昭和 43 年 4 月 北海道開発コンサルタント(株) 入社 平成 13 年 4 月 (商号変更により(株)ドーコン) 取締役 平成 19 年 5 月 (株)ドーコン取締役常務執行役員
	大庭 哲郎	日本基礎技術(株) 常勤顧問	昭和 44 年 3 月 山口大学文理学部理学課地学専攻 卒業 昭和 44 年 4 月 日本基礎技術(株)入社 平成 9 年 日本基礎技術(株)九州支店支店長 平成 16 年 日本基礎技術(株)技術本部技術常勤顧問

5. 技術賞

年 度	表彰事業名	受賞事業者	共同受賞者
平成 14 年度	宇奈月ダム排砂ゲート 設備工事	国土交通省 北陸地方整備局	
	狭山池ダム建設事業	大阪府	
	富郷ダム建設事業	水資源開発公団	
	山口貯水池堤体強化工 事	東京都水道局	
	山王海ダム建設工事	農林水産省東北農政局	
	浅虫ダム建設事業	青森県	
平成 15 年度	月山ダム建設事業	国土交通省 東北地方整備局	西松・大林・鉄建共同企業体 鹿島・不動共同企業体
	長島ダム建設事業	国土交通省 中部地方整備局	前田・清水・竹中土木共同企業体
	新宮川ダム建設工事	東北農政局 会津農業水利事務所	青木・フジタ・大本共同企業体
	見島ダム建設工事	山口県	大本・井森共同企業体 八千代エンジニアリング(株)
	田沢川ダム建設事業	山形県	大成・佐藤・地崎共同企業体
平成 16 年度	小里川ダム建設事業	国土交通省 中部地方整備局	佐藤・前田・大日本共同企業体
	羽地ダム建設事業	内閣府沖縄総合事務局 北部ダム事務所	佐藤・國場共同企業体 八千代エンジニアリング(株)
	川辺ダム河川総合開発 工事(本體工)	鹿児島県	熊谷・竹中土木・森山(清)共同企業体 (株)アイ・エヌ・エー
	三高ダム工事	広島県	鹿島・飛島・大末共同企業体
	奥三面ダム建設事業	新潟県	鹿島・青木・本間共同企業体
	四川ダム建設事業	広島県	五洋・三井住友・鴻治共同企業体
平成 17 年度	摺上川ダム建設事業	国土交通省 東北地方整備局	飛島・大林共同企業体 日立造船(株) (株)建設技術研究所
	三峰川総合開発事業美 和ダム洪水バイパス施 設建設工事	国土交通省 中部地方整備局	大林・鴻池共同企業体 前田建設工業(株) (株)日本建設技術社 (株)ニュージェック

年 度	表彰事業名	受賞事業者	共同受賞者
平成 17 年度	苫田ダム建設事業	国土交通省 中国地方整備局	佐藤・鴻池・アイサワ共同企業体 大成建設(株) 三菱重工(株) 日本工営(株) (株)ニュージェック
	日野川用水農業水利事業 榎谷ダム建設工事	農林水産省 北陸農政局日野川用水 農業水利事業所	前田・熊谷・飛島共同企業体
	大聖寺川総合開発事業 九谷ダム建設工事	石川県	熊谷・ハザマ・前田・真柄共同企業体 (株)アイ・エヌ・エー
	高梁川総合開発事業三 室川ダム建設工事	岡山県	前田・大本・日本国土共同企業体 (株)八千代エンジニアリング
	宮崎川河川総合開発事 業宮崎ダム建設工事	長崎県	飛島・長崎土建共同企業体 西日本技術開発(株)
	神流川発電所上野ダム 建設工事	東京電力(株)	ハザマ・飛島・日本国土・戸田共同企業 体
	神流川発電所南相木ダ ム建設工事	東京電力(株)	前田・大成・大林・青木あすなる共同企 業体
平成 18 年度	灰塚ダム建設事業	国土交通省 中国地方整備局	フジタ・竹中土木・不動共同企業体 (株)竹中土木 アイドルエンジニアリング(株) (株)ニュージェック
	迫川上流農業水利事業 小田ダム建設工事	農林水産省東北農政局	清水・奥村・鴻池共同企業体 日技クラウン(株)
	鷹生ダム建設工事	岩手県	清水・熊谷・佐賀共同企業体 日本工営(株)
	益田川治水ダム建設事 業	島根県	西松・銭高・大畑共同企業体 日立造船鉄構(株) 西日本技術開発(株)
平成 19 年度	忠別ダム建設事業	国土交通省 北海道開発局	大成・地崎・竹中土木共同企業体 日本工営(株) (株)ドーコン
	徳山ダム建設事業	(独)水資源機構	熊谷・大成・青木あすなる共同企業体 大林・清水・大日本共同企業体

年 度	表彰事業名	受賞事業者	共同受賞者
平成 19 年度	鹿島川総合開発事業中 木庭ダム多目的ダム (本体)建設工事	佐賀県	大林・松尾・上滝・深町共同企業体 (株)アイ・エヌ・エー
	帝釈川ダム再開発事業	中国電力株式会社	鹿島・大本・飛島・森本共同企業体
平成 20 年度	荒川横川ダム建設事業	国土交通省 北陸地方整備局	飛島・戸田・福田共同企業体 (株)アイ・エヌ・エー (株)I H I (株)東京建設コンサルタント
	浄土寺川ダム建設事業	福井県	大成・三井住友・木原・前川元共同企業体 (株)建設技術研究所
	琴川河川総合開発建設 事業琴川ダム	山梨県	清水・大林・天野共同企業体 (株)ニュージェック
	岩井川治水ダム建設工 事	奈良県	奥村・大成・戸田・大豊・森本共同企業体 八千代エンジニアリング(株)
	綱木川ダム建設事業	山形県	前田・日本国土共同企業体 日本工営(株)
	小丸川発電所石河内ダ ム建設事業	九州電力(株)	清水・西松・三井住友共同企業体
平成 21 年度	留萌川留萌ダム建設事 業	国土交通省 北海道開発局	飛島・鉄建・岩田共同企業体 (株)ドーコン
	滝沢ダム建設事業	(独)水資源機構	鹿島・熊谷・銭高共同企業体 西松・青木・奥村共同企業体
	佐渡農業水利事業小倉 ダム建設工事	農林水産省北陸農政局	フジタ・奥村・大豊共同企業体 NTCコンサルタンツ(株)
	西岡ダム建設事業本体 工工事	北海道	岩田地崎・中山共同企業体 パシフィックコンサルタンツ(株)
	福富ダム建設工事	広島県	大成・アイサワ・錦共同企業体 中電技術コンサルタント(株) (株)ダイヤコンサルタント
	小丸川発電所上部調整 池建設工事	九州電力(株)	鹿島・大成・青木あすなる・前田・銭高・ 鴻池共同企業体 西日本技術開発(株)

6. 論文賞

年 度	審査部門	論文名	受賞者
平成 6 年度		QUALITY CONTROL AND TEMPERATURE REGULATION OF SABIGAWA RCD DAM	東京電力(株) 山本 康博 東京電力(株) 平井 憲 東京電力(株) 内田 善久
		電磁波トモグラフィによるダムの地質解析技術(その1) (その2) (その3)	建設省土木研究所 中村 康夫 建設省土木研究所 佐々木 靖人
		リン吸着剤を用いたリンの削減について	(財)ダム水源地環境整備センター 寺園 勝二 (財)ダム水源地環境整備センター 上條 勝彦
平成 7 年度		縦継目が重力式コンクリートダムの挙動に及ぼす影響について	水資源開発公団 杉村 淑人 水資源開発公団 木戸 研太郎
		フライアッシュの置換率とコンクリートの長期的な強度発現に関する実験的検討	建設省土木研究所 永山 功 建設省土木研究所 渡辺 和夫
平成 8 年度		地域整備計画におけるデザインコンセプトの創出に関する風土工学的研究	建設省土木研究所 竹林 征三
		重力式コンクリートダムの構造の安定性に及ぼす鉛直地震動の影響	建設省土木研究所 永山 功 建設省土木研究所 佐々木 隆
		温度応力からみたダム暑中コンクリートの打ち込み温度について	(財)水資源協会 加藤 剛四郎 水資源開発公団 杉村 淑人 水資源開発公団 田中 靖 水資源開発公団 木戸 研太郎
平成 10 年度	類 コンクリートダム部門 フィルダム部門	周辺活断層を考慮したダムの耐震設計について	関西電力(株) 橋本 徳昭
	類 地質・基礎部門	割裂方向制御グラウチング工法に関する研究(総合題目)	(財)ダム技術センター 藤澤 侃彦 建設省土木研究所 山口 嘉一 日特建設(株) 松井 孝

年 度	審査部門	論文名	受賞者
平成 10 年度	類 環境水質保全 部門	富栄養化防止フェンス による藻類増殖防止機 構の解明と予測法の提 案（総合題目）	埼玉大学 (財)水資源協会 水資源開発公団日吉ダム管理所 (株)西日本技術開発 浅枝 隆 斎藤 暁樹 後藤 浩一 井芹 寧
平成 11 年度	類 フィルダム部門	中央コア型ロックフィ ルダムの漏水量観測値 の一解析法	(財)ダム技術センター 坂本 忠彦
平成 13 年度	類 コンクリートダム部門	重力式コンクリートダ ム・貯水系の地震時ク ラック解析のための EF - BE 手法	東京工業大学 大町 達夫
	類 環境水質保全 部門	エアリフト魚道の開発 に関する実験的考察	国土交通省信濃川工事事務所 沖縄総合事務局北部ダム事務所 水資源開発公団滝沢ダム建設所 川崎 秀明 喜納 敏男 染谷 健司
平成 14 年度	類 地質・基礎部門	ダム基礎軟岩の変形性 のばらつきおよび非線 形性を考慮した設計合 理化（総合題目）	(独)土木研究所 (株)ニュージェック 山口 嘉一 赤松 利之
平成 15 年度	類 フィルダム部門	ロックフィルダムの上 流側ロックゾーンの浸 透特性が水位急低下時 の残留水位に及ぼす影 響	関西電力(株) 岡山大学 (株)建設企画コンサルタント (株)建設企画コンサルタント 工藤アキヒコ 西垣 誠 鳥居 剛 浅田 昌蔵
	類 維持管理部門	曝気式循環施設の理論 とその効果に関する考 え方	(財)ダム水源地環境整備センタ- (財)ダム水源地環境整備センタ- (財)ダム水源地環境整備センタ- 埼玉大学 関根 秀明 吉田 延雄 梅田 信 浅枝 隆
平成 16 年度	類 コンクリートダム部門	RCD 用コンクリートの 必要ペースト量に関す る考察	(独)土木研究所 永山 功
	類 フィルダム部門	CFRD コンクリートス ラブの温度応力につい て	(独)水資源機構 (独)水資源機構 大前 智敬 野中 樹夫

年 度	審査部門	論文名	受賞者
平成 17 年度	類 水理構造物部門	(総合題目) RESCON モデルを用いたフラッ シング排砂の適用性検 討について	京都大学大学院 角 哲也 京都大学大学院 井口 真生子 京都大学大学院 高田 康史
平成 18 年度	類 コンクリートダム部門 フィルダム部門 水理構造物部門	ダムサイトにおける入 力地震動に関する研究 (総合題目) 1) Response Spectra of Earthquake Motions at Dam Foundations 2) Acceleration Response Spectra at Dam Foundations	東京工業大学 大町 達夫 (財)ダム技術センター 松本 徳久 国交省国土技術政策総合研究所 安田 成夫 国交省国土技術政策総合研究所 佐野 貴之 (独)土木研究所 吉田 等 (独)土木研究所 佐々木 隆 東電設計(株) 安中 正
	類 フィルダム部門	固化処理土を用いた老 朽化フィルダムの堤体 補強における設計法の 提案	(独)農業・食品産業技術総合研 究機構 谷 茂 (株)フジタ 福島 伸二 (株)フジタ 北島 明
	類 フィルダム部門	ロックフィルダム堤体 および基礎地盤の設計 の合理化に関する研究 (総合題目)	(独)土木研究所 山口 嘉一
	類 維持管理部門	混合粒径河床変動モデ ルによる貯水池堆砂・ 排砂現象の再現	(独)土木研究所 櫻井 寿之 (独)土木研究所 柏井 条介 (株)ドーコン 鎌田 昌行 (株)アイ・エヌ・エー 鈴木 伴征
平成 19 年度	類 フィルダム部門	アスファルト遮水壁と コンクリート構造物の 接合に関する検討	九州電力(株) 田代 幸英 九州電力(株) 大内 周 西日本技術開発(株) 森 二郎
	類 環境水質保全 部門	富栄養化したダム湖に おけるアオコ発生指標 としての水温成層安定 性	東北大学 梅田 信 埼玉大学 古里 栄一 埼玉大学 浅枝 隆

年 度	審査部門	論文名	受賞者
平成 20 年度	類 コンクリートダム部門	既設アーチダムの常時挙動に及ぼす鉛直ジョイント部モデル化の影響	(財)電力中央研究所 岡山大学 西内 達雄 阪田 憲次
	類 フィルダム部門	半円状に湾曲したダム軸をもつフィルダムの振動特性と地震応答	東京工業大学 東京工業大学 東京工業大学 小島 康弘 大町 達夫 井上 修作
	類 フィルダム部門	水位急低下に伴う浸透挙動と斜面の安定性評価について	愛知工業大学 愛知工業大学 愛知工業大学 成田 国朝 木村 勝行 奥村 哲夫
平成 21 年度	類 フィルダム部門	比抵抗トモグラフィ法によるフィルダム堤体内部の比抵抗モニタリング	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 森 充広 増川 晋 渡嘉敷 勝 田頭 秀和
	類 水理構造物部門	流水型ダム流木対策スクリーンの水理設計	(独)土木研究所 (独)土木研究所 (独)土木研究所 櫻井 寿之 箱石 憲昭 柏井 条介
	類 フィルダム部門 水理構造物部門	岩手・宮城内陸地震による胆沢ダム洪水吐き被害の調査・分析	国土交通省胆沢ダム工事事務所 国土交通省胆沢ダム工事事務所 国土交通省胆沢ダム工事事務所 国土交通省胆沢ダム工事事務所 佐々木 隆 小山 幸男 佐藤 彰 穴戸 善博
	類 フィルダム部門	拘束圧依存性を考慮したロック材料の強度評価	(独)土木研究所 (独)土木研究所 (独)土木研究所 (独)土木研究所 山口 嘉一 佐藤 弘行 林 直良 吉永 寿幸

7. 技術開発賞

年 度	技術開発名	受 賞 者
平成4年度	単孔多段式地下水圧測定システム(MGLシステム)の開発	建設省土木研究所 山口 嘉一
		建設省土木研究所 桧垣 大助
		戸田建設(株) 原 敏昭
		日本国土開発(株) 梅田 美彦
		(株)建設技術研究所 中尾 誠司
		大阪セメント(株) 後藤 年芳
		日特建設(株) 杉村 亮二
平成5年度	自動グリーンカットシステム(グリーンカットロボット)の開発	大成建設(株) 松谷 真二
		大成建設(株) 市原 正一
		大成建設(株) 酒向 義勝
		大成建設(株) 中村 隆
		三井造船(株) 江沢 一明
	ダム用コンクリート自動運搬システム	(株)大林組 寺井 清
		(株)大林組 荻野 雅彦
		(株)大林組 田中 暉一郎
		(株)大林組 風間 慶三
		(株)大林組 中尾 通夫
平成6年度	長谷ダムにおけるダムコンクリートの温度管理システム	関西電力(株) 渡部 威
		関西電力(株) 早川 知夫
		飛鳥建設(株) 和田 哲郎
		飛鳥建設(株) 近久 博志
		飛鳥建設(株) 津崎 淳一
		飛鳥建設(株) 中原 博隆
	骨材の真空冷却工法の開発	建設省河川局 小合澤 辰雄
		(財)ダム技術センター 西田 穂積
		大成建設(株) 加藤 重男
		大成建設(株) 松谷 真二
		大成建設(株) 安倍 善悦
平成7年度	3次元CADによるダム工事の情報化施工管理システムの開発	鹿島建設(株) 澤内 至武
		鹿島建設(株) 田代 民治
		鹿島建設(株) 渡辺 成夫
		鹿島建設(株) 石田 次夫
		鹿島建設(株) 五味 篤暁
	ダム上下流面清掃装置「KUMO」	(株)問組 国峯 紀彦
		(株)問組 谷田部 好信

年 度	技術開発名	受 賞 者
平成 8 年度	ダム用コンクリート運搬設備「クライミングライン」	清水建設(株) 佐藤 成美
		清水建設(株) 安河内 孝
		清水建設(株) 福元 洋一
		清水建設(株) 長谷川 悦央
		清水建設(株) 菊地 友徳
平成 9 年度	ダムコンクリートにおける骨材粒形改善	岡山大学 阪田 憲次 (株)建設技術研究所 川上 俊器 建設省中国地方建設局 為沢 長雄 建設省中国地方建設局 中江 兼二
	RCD用コンクリートのリアルタイムVC値測定システム	東京電力(株) 安田 登 東京電力(株) 堤 知明 東京電力(株) 舎川 徹 東京電力(株) 関根 裕治 東京電力(株) 赤松 英樹 (株)間組 村上 祐治 (株)間組 菊地 保旨
平成 10 年度	JIOCE 式高速連続ミキサ	(財)国土開発技術研究センター 廣瀬 利雄 (財)国土開発技術研究センター 梶原 日出隆 前田建設工業(株) 内田 明
平成 11 年度	気化冷却法の開発	(株)熊谷組 佐藤 英明 (株)熊谷組 古田島 信義 (株)熊谷組 玉井 裕行 (株)熊谷組 庄田 政弘 (株)熊谷組 森田 栄治 石川島建機(株) 千坂 修
平成 12 年度	貯水池バイパス排砂システムの構築	関西電力(株) 森本 浩 関西電力(株) 小久保 鉄也
	「CRT ミキサシステム」 (超硬練りCSGおよびRCD用コンクリート製造システム)	西松建設(株) 鈴木 紘 西松建設(株) 川村 正身 西松建設(株) 木村 一正 西松建設(株) 松井 健一 西松建設(株) 佐藤 幸三 戸田建設(株) 高本 進 (株)大阪砕石工業所 菊地 敏勝

年 度	技術開発名	受 賞 者
平成 12 年度	コンクリート・土石類運搬装置(SP-TOM)	(財)水資源協会 加藤 剛四郎
		(財)水資源協会 水谷 淳
		飛鳥建設(株) 北村 義一
		飛鳥建設(株) 廣瀬 成道
		(株)大阪砕石工業所 足立 英文
		(株)大阪砕石工業所 橋本 巧
平成 13 年度	鋼コンクリート半円形仮締切工法の開発	電源開発(株) 橋本 長幸
		電源開発(株) 篠崎 友利
		鹿島建設(株) 甚内 郁郎
		東洋建設(株) 田路 隆茂
		東洋建設(株) 合田 和哉
		ライジングタワー
	清水建設(株) 佐藤 成美	
	清水建設(株) 森 敏昭	
	清水建設(株) 垂水 直樹	
	清水建設(株) 鬼塚 恵二	
	清水建設(株) 米田 吉男	
	清水建設(株) 小原 由幸	
	清水建設(株) 福元 洋一	
	平成 14 年度	H-ADCP を用いた河川流量観測装置の開発
関西電力(株) 大東 秀光		
関西電力(株) 前田 雄三		
関西電力(株) 上坂 薫		
(株)ニュージェック 北山 和典		
(株)ニュージェック 南 修平		
コンクリート打設自動運転システム		水資源開発公団 徳田 憲治
		鹿島建設(株) 高田 悦久
		鹿島建設(株) 鶴岡 松生
		鹿島建設(株) 太田 裕士
		鹿島建設(株) 増村 浩一
引張りラジアルゲートの開発		国交省国土技術政策総合研究所 川崎 秀明
		国交省中国地方整備局 五十嵐 崇博
	(独)土木研究所 柏井 条介	
	富士常葉大学 竹林 征三	

年 度	技術開発名	受 賞 者
平成 15 年度	ダムコンクリート運搬用自昇式テルハクレーンの開発	国交省東北地方整備局 島田 昭一 (株)間組 金沢 真一 (株)間組 寺田 幸男 (株)間組 藤田 司 吉永機械(株) 毛内 司
	空気ロック式選択取水設備の開発	国交省国土技術政策総合研究所 川崎 秀明 内閣府沖縄総合事務局 山下 武宣 内閣府沖縄総合事務局 喜納 敏男 八千代エンジニアリング(株) 橋村 潔
平成 16 年度	ワイヤレス間隙水圧計	東京電力(株) 高橋 章 (独)農業工学研究所 向後 雄二 (独)農業工学研究所 浅野 勇 坂田電機(株) 遠目塚 良一
	細骨材水浸式計量による信頼性の高いダムコンクリート製造システム	(株)大林組 三好 哲也 (株)大林組 玉田 信二 (株)大林組 近松 竜一 (独)水資源機構 小谷口 雅義 (独)水資源機構 河島 勝也
	株木・前田式ダム用コンクリート自動運搬システム「タワーベルコン」	山形県綱木川ダム建設事務所 樋口 悦郎 株木建設(株) 武田 光雄 株木建設(株) 西川 弘 (前)前田建設工業(株) 若松 敬継 前田建設工業(株) 内田 明
平成 17 年度	遺伝子資源に配慮したダム周辺跡地における自然復元手法	九州電力(株) 大内 周 九州電力(株) 秋花 芳一 九州電力(株) 袴着 正隆
	噴射衝撃によるアオコの生態的制御技術	(独)水資源機構 福井 正泰 (独)水資源機構 渡辺 稔 青木あすなろ建設(株) 秋竹 孝雄 (有)環境水理研究所 古里 栄一 西日本技術開発(株) 上村 洋司 西日本技術開発(株) 井芹 寧 西日本技術開発(株) 伊利 沙汀
平成 18 年度	GPS を用いたフィルダムの安全管理のための外部変形計測システム	内閣府沖縄総合事務局 横森 源治 (独)土木研究所 山口 嘉一 (独)土木研究所 小堀 俊秀 国際航業(株) 岩崎 智治

年 度	技術開発名	受 賞 者
平成 18 年度	徳山ダムにおけるコア盛立の急速施工について	(独)水資源機構 自閑 茂治 (独)水資源機構 川地 悟 (独)水資源機構 竹内 英二 (独)水資源機構 大家 充裕 (独)水資源機構 宮原 みか子
	最新の情報技術を駆使した施工及び工事管理手法	九州電力(株) 田代 幸英 九州電力(株) 大内 周 九州電力(株) 穴井 幸康 九州電力(株) 大久保 秀男 鹿島建設(株) 石田 次夫 鹿島建設(株) 植木 睦央
	RCC 工法の施工システムの開発	(株)間組 菊地 保旨 (株)間組 武内 浩之 (株)間組 森田 浩二 (株)間組 村上 祐治 (株)間組 高橋 博 (株)間組 藤田 司 (株)間組 天明 敏行
平成 19 年度	徳山ダムにおける環境保全対策	(独)水資源機構 自閑 茂治 (独)水資源機構 村尾 浩太 (独)水資源機構 青井 保男 (独)水資源機構 梶谷 隆志 (独)水資源機構 陶山 武士
	戸当り補強機構を有する補修用ゲートの開発	開発電子技術(株) 井波 秀次 (株)JPハイテック 青木 和浩 (株)JPハイテック 塩田 洌 (株)栗本鐵工所 浅野 徹
	簡易ダム操作シミュレーターの開発・導入	関西電力(株) 吉津 洋一 関西電力(株) 多田 隆司 関西電力(株) 山田 秀樹 関西電力(株) 島口 正嗣 関西電力(株) 片岡 幸毅 (株)エネゲート 坂田 正法

年 度	技術開発名	受 賞 者
平成 20 年度	ダムコア材曝気設備の開発	(株)熊谷組 伊藤 隆 (株)熊谷組 中川 安典 (株)熊谷組 沼宮内 雅人 (株)セイア 伊藤 和彦 日工(株) 蓬萊 秀人
	矢作ダム浮沈式濁水対策フェンスの操作方法と構造	(社)中部建設協会 深谷 壽久 (株)建設環境研究所 岡本 幸久 (株)丸島アクアシステム 城 敬治 アサンテ環境研究所 竹尾 敬三
	野生動物行動追跡システム及び行動シミュレーター	(独)土木研究所 傳田 正利 (独)土木研究所 天野 邦彦
平成 21 年度	航空レーザ測量によるレベル 500 地形図の作成について	(独)水資源機構 薬師寺 公文 (独)水資源機構 佐々原 秀史 (独)水資源機構 市原 裕之 (独)水資源機構 川野 睦也 (独)水資源機構 川野 明夫 中日本航空(株) 鷓飼 尚弘 中日本航空(株) 千田 良道
	巡航 RCD 工法	九州地方整備局嘉瀬川ダム 工事事務所 中島 修 (財)ダム技術センター 藤澤 侃彦
	堤体盛土における 3 次元情報と α システムによる情報化施工技術の開発	(株)大林組 古屋 弘 (株)大林組 藤原 宗一 (株)大林組 疋田 喜彦 (株)大林組 肥後 桂介 (株)大林組 小倉 公一 東北地方整備局 船木 純孝
	建設汚泥を有効利用する「バイオニュートラル工法」の開発	清水建設(株) 加瀬 俊久 清水建設(株) 垂水 直樹 清水建設(株) 河野 重行 清水建設(株) 芳岡 良一 清水建設(株) 川口 正人 清水建設(株) 隅倉 光博

8. 著作賞

年 度	受 賞 者		著作名	著作内容
	氏 名	所 属		
平成 14 年度	飯田 隆一	(財)ダム技術センター	「ダムの基礎グラウチング」	-
平成 15 年度	ダム工事総括管理技術者会 (CMED 会)		「宇宙船地球号と日本」 -ダムのやくわり-	人類の洪水の歴史、ダムが日常生活に果たす役割、ダムの作り方などについて、子供たちに理解してもらうためにアニメーションや実際のダム現場の映像を交えながらわかりやすく説明。
平成 16 年度	竹林 征三	富士常葉大学 環境防災学部 教授 付属風土工学 研究所所長	「ダムのはなし」と 「続ダムのはなし」	「ダムのはなし」ダムとはなにか、その語源からはじまり、ダムの古代からの歴史、そしてダムの技術について、さまざまな視点より論ずる。「続ダムのはなし」最近のダム無用論について様々な視点より論破した力作。
平成 17 年度	(財)ダム技術センター		「多目的ダムの建設」	ダム事業における調査、計画、設計、施工及び管理に携わる技術者が理解しておくべき技術的事項や、事業実施のための実見上の必要事項を体系的にとりまとめた解説書。
平成 18 年度	(社)日本大ダム会議		「にっぽんダム物語」	一般人を対象として、歴史的にダムが果たしてきた役割、ダムがもたらした負の影響と対策、今後の役割等を記述。
平成 19 年度	大根 義男	愛知工業大学	「実務者のための土質工学」	実務者に役立つよう土質力学から応用まで、明快かつ懇切に記述した名著である。実務の分野では、フィルダム工学を記述し、16章、325頁で構成されている。
平成 20 年度	中村 康夫	(財)ダム技術センター	「地質現象とダム」	さまざまな地質現象に起因するダム建設上の問題点とその解決方法について、参考文献としての役割を果たすものと期待される。

年 度	受 賞 者		著作名	著作内容
	氏 名	所 属		
平成 21 年度	(社)日本大ダム会議		DAMS IN JAPAN -Past Present and Future-	日本のダムに関する総合的な英文書籍として初めて出版されたものであり、日本のダムの歴史、役割、社会や自然環境への影響と対応などを海外の読者向けにわかり易く取りまとめている。
	(財)日本ダム協会施工技術研究会		「コンクリートダムの施工」、「フィルダムの施工」	近年における日本のダムの施工事例及び細部技術について、徹底して施工の視点から記録・分析されており、技術者だけでなく研究者にも貴重な情報を提供する著作である。

災害調査委員会

1. 活動状況

(1) 新潟県中越地震

平成 16 年 10 月 23 日 18 時頃に発生した「新潟県中越地震」におけるダムの被害状況と被災後の安全性を調査するため、平成 16 年 11 月 5 日から 6 日に災害調査団の派遣を行った。調査箇所は、震源近傍の、長福寺ダム、坪山ダム、川西ダム、浅河原調整池、山本調整池、新山本調整池、妙見堰と、施工中の広神ダムである。

調査団報告：ダム工学 Vol.14 No.4

<調査団メンバー>

- 団長 大町達夫 東京工業大学 総合理工学研究科 教授
- 団員 金銅将史 国土技術総合研究所 ダム研究室 主任研究官
- ” 平山大輔 北陸地方整備局 河川計画課 課長補佐
- ” 谷 茂 独立行政法人農業工学研究所 造構部 上席研究官
- ” 山口嘉一 独立行政法人土木研究所 ダム構造物チーム 上席研究員
- ” 富田尚樹 独立行政法人土木研究所 ダム構造物チーム 研究員
- ” 倉橋稔幸 独立行政法人土木研究所 地質チーム 主任研究員
- ” 貞弘丈佳 独立行政法人水資源機構 技術研究研修センター 所長
- ” 佐藤信光 独立行政法人水資源機構 技術研究研修センター 地質研究室長
- ” 川崎秀明 財団法人ダム技術センター 企画部長
- ” 米崎文雄 財団法人ダム技術センター 技術第 2 部長
- ” 上前孝之 財団法人ダム技術センター 研究第 2 部 研究員

(2) 岩手・宮城内陸地震

平成 20 年 6 月 14 日午前 8 時 43 分に発生した「岩手・宮城内陸地震」におけるダムの被災状況の調査をするため、平成 20 年 6 月 30 日から 7 月 1 日に災害調査団の派遣を行った。調査箇所は、震源地に近い 5 ダムを選定し、荒砥沢ダム、栗駒ダム、石淵ダム、衣川 1 号ダムと、石淵ダムの下流で施工中の胆沢ダムとした。

調査団報告：ダム工学 Vol.18 No.1

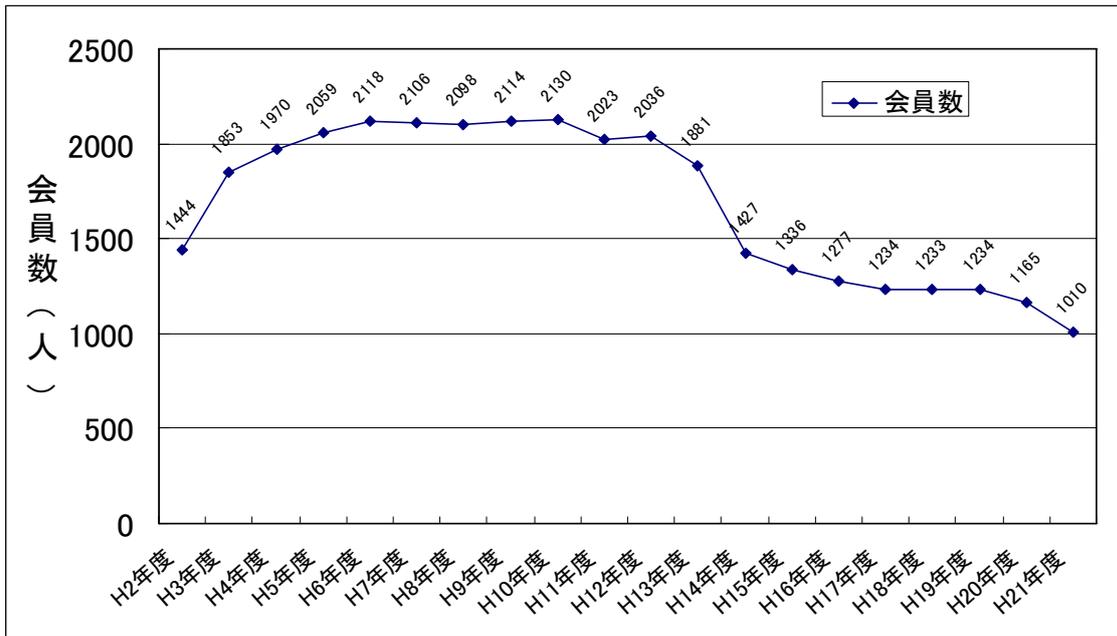
<調査団メンバー>

- 団長 大町達夫 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 人間環境システム専攻 教授
- 団員 川崎秀明 国土交通省 国土技術政策総合研究所 国土マネジメント研究官
- ” 島本和仁 財団法人ダム技術センター 企画部企画課長兼研究第一部上席主任研究員
- ” 岩井慎治 八千代エンジニアリング株式会社 総合事業本部 水工部

その他

1. 会員数の変遷

ダム工学会会員数は、平成2年度の設立時は1444人であったがその後平成12年度までは約2000人の会員数を維持した。平成13、14年度の2年間で約600人の会員数が減少し、それ以後も徐々に減少傾向にあり、平成21年度末では1010人となっている。



ダム工学会 年度別会員数の推移

2. 10周年記念事業

ダム工学会の10周年を記念し、第11回学術講演会を10周年記念講演と位置づけ開催した。

- (1) 主催 ダム工学会 学術研究発表会小委員会
- (2) 開催日時 平成13年5月18日(金) 15:20~16:50
- (3) 会場 星陵会館 2F大ホール
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-16-2
TEL 03-3581-5650
- (4) 参加者 193名
- (5) プログラム
 - ・挨拶 学術講演会小委員長 原 稔明
 - ・講演
 - 『ダムの止水グラウチングの変遷と問題点』
 - 財団法人ダム技術センター 顧問 飯田 隆一
 - 『ダムと日本文明』 国土交通省 河川局長 竹村 公太郎
- (6) 懇親会
17:00~ 星陵会館 4Fシーボニア

3. 15周年記念事業

ダム工学会 15周年記念シンポジウム開催録

- (1) 主催 ダム工学会シンポジウム実行委員会
 (2) 開催日時 平成 17 年 12 月 9 日 (金) 13:00 ~ 17:30
 (3) 会場 星陵会館 2 F 大ホール
 〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-16-2
 TEL 03-3581-5650
- (4) プログラム
 13:00 ~ 13:10 ダム工学会会長の挨拶 会長 梅田貞夫
 13:10 ~ 15:10 基調講演
 『世界の水問題』 日本水フォーラム事務局長 尾田栄章
 『地球温暖化と水資源管理』 東京大学助教授 沖 大幹
 15:10 ~ 15:30 休憩
 15:30 ~ 17:30 パネルディスカッション
 テーマ：『21世紀のダムを考える』
 座長：ダム工学会副会長 入江洋樹
 パネリスト：国土交通省河川局治水課長 関 克己
 京都大学助教授 角 哲也
 荘内日報論説委員 水戸部浩子
 ダム工事総括管理技術者会会長 楠見正之
 建コン・ダム発電専門委員会副委員長 山下幸弘
- (5) 懇親会
 18:00 ~ 星陵会館 4 F シーボニア

(6) 参加申し込み人数

	申込み数	親睦会
講演者、パネル	8名	8名
会長、役員等	14名	12名
官公庁・財団等	13名	3名
総合建設業	95名	39名
コンサルタント	59名	22名
電力、メーカー	18名	3名
スタッフ	22名	10名
合計	229名	97名



梅田ダム工学会会長挨拶



パネリスト

4. ダム工学掲載論文一覧

(1) 巻頭言

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
1	1	1991年3月	なし	岡本 舜三
	2	1991年6月	湾岸で「水」が狙われる/東京にも水飢饉が潜在する/他	本田 茂
	3	1991年9月	これからのダム技術	川本 正知
	4	1991年12月	ダム・思いつくまま	黒田 晃
2	5	1992年3月	自然との共生	稲葉 興作
	6	1992年6月	総合と創造	中川 博次
	7	1992年9月	シベリアの水力発電事業について	野瀬 正儀
	8	1992年12月	ダムなどの美的デザイン	沢田 敏男
3	9	1993年3月	温故知新	清山 信二
	10	1993年6月	安全性, 環境と経済性について	廣瀬 利雄
	11	1993年9月	技術者としての心得 物の本質を考えよう	湯浅 昭
	12	1993年12月	人と水の文化	藤井 義弘
4	13	1994年3月	情報と震害	田村 重四郎
	14	1994年6月	時の流れとダム	安藝 恒夫
	15	1994年9月	タイタニック号は何故沈んだか	近藤 徹
	16	1994年12月	渇水問題を顧みて	大根 義男
5	17	1995年3月	伸び続ける電力需要と水力開発	石井 清
	18	1995年6月	水の恵みとダム	牧田 新一郎
	19	1995年9月	ダム随想	河井 清和
	20	1995年12月	農業を支えるダム技術の発展	佐藤 昭郎
6	21	1996年3月	ダム工学に貢献できる地質学を目指して	岡本 隆一
	22	1996年6月	古代のフィルダムの文化的使命について	河上 房義
	23	1996年9月	電力新時代の到来と土木技術者の役割	渡部 威
	24	1996年12月	今後のダム技術の発展を祈って	戸田 守二
7	1	1997年3月	信頼の確保	豊田 高司
	2	1997年6月	我が岡谷と水の恵み	武井 俊文
	3	1997年9月	ダム事業苦難の時代	古城 一省
	4	1997年12月	ダム施工技術者としての原点	下青木 隆一
8	1	1998年3月	コンクリートダムとリサイクル技術	長瀧 重義
	2	1998年6月	技術をつなぐ	梶山 義夫
	3	1998年9月	社会システムの変革とダム技術	内藤 克美
	4	1998年12月	大きな経済の変換点に際して	飯田 隆一

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
9	1	1999年3月	河川環境とダム	南 維三
	2	1999年6月	ダム建設コスト縮減と調査設計	福田 佳之
	3	1999年9月	ダム技術の変遷と次世代の技術者に期待するもの	大和 文哉
	4	1999年12月	創生 (Creation) ・ 保生 (Sustaining) ・ 再生 (Renewal)	足立 紀尚
10	1	2000年3月	新しい世紀に向けた科学技術の課題	長谷川 高士
	2	2000年6月	「砂漠のキャデラック」を読んで	平山 修一
	3	2000年9月	最近の公共事業をめぐる議論について思う	山内 彪
	4	2000年12月	ダム工学に求める雑感	岸 昭男
11	1	2001年3月	次の10年に向けて	岡本 舜三
	2	2001年6月	単純事故とチェック体制	西原 巧
	3	2001年9月	ダムとダム技術者への想い	梅田 貞夫
	4	2001年12月	ダムの堆砂雑感	宮口 友延
12	1	2002年3月	フィルダムの研究のすすめ	柳沢 栄司
	2	2002年6月	学術の分化・総合化とダム工学	仲野 良紀
	3	2002年9月	ダム雑感	前田 卓也
	4	2002年12月	工学におけるリスクアセスメント	入江 洋樹
13	1	2003年3月	ダム工学に想う - コンサルタントからの視点 -	竹村 陽一
	2	2003年6月	若きエンジニア	金山 良治
	3	2003年9月	発電用ダムが果たしてきた役割と今後の開発	田中 征夫
	4	2003年12月	アーチダム 建設の時代から保守の時代へ	色部 誠
14	1	2004年3月	ダムと水資源	山口 良介
	2	2004年6月	モンスーン・アジアの再認識	中道 宏
	3	2004年9月	技術開発のすすめ	坂本 忠彦
	4	2004年12月	ダム技術の新たな取り組みに想う	大串 國弘
15	1	2005年3月	新たなる価値創造 - 託す心 -	前田 又兵衛
	2	2005年6月	ダムと環境との共生	中井 卓
	3	2005年9月	公共事業と土木技術者	大根 義男
	4	2005年12月	水と人間とダム	石井 弓夫
16	1	2006年3月	今こそ基礎研究の充実を!	籾倉 克幹
	2	2006年6月	超長期的視点でダムを考える	山口 甚郎
	3	2006年9月	ダム工学会に期待する	葉山 莞児
	4	2006年12月	ダムに係る安全の工学について思う	三池 亮次
17	1	2007年3月	ダムは必要だ	中村 靖治
	2	2007年6月	ロックフィルダムの物性値分布測定の思い出	澤田 義博
	3	2007年9月	自然と開発の共生	浅井 喜代治

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
17	4	2007年12月	完成間近の徳山ダムに想う - 危機対応ポテンシャルの重要性 -	浜口 達男
18	1	2008年3月	ひとの暮らしに貢献するダム技術者	本庄 正史
	2	2008年6月	地域におけるダムの魅力とその維持	秀島 好昭
	3	2008年9月	ダムへの想い	堤 節夫
	4	2008年12月	ダムの再生	別枝 修
19	1	2009年3月	フーバーダムと関西国際空港	足立 紀尚
	2	2009年6月	原点に戻ろう	横塚 尚志
	3	2009年9月	水を想う	小野 俊雄
	4	2009年12月	既設ダムの長寿命化	角江 俊昭
20	1	2010年3月	ダム建設計画見直しを思う	青山 咸康
	2	2010年6月	10cmの重みをいかに伝えていくか	高木 茂知

(2) 学術講演概要

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
3	11	1993年9月	ダム基礎岩盤グラウチングのメカニズムについて	柴田 功
	12	1993年12月	地球環境時代の川について	森下 郁子
4	16	1994年12月	土木技術と地球環境	竹内 良夫
			ダム管理の水文学的側面	角屋 睦
			世界のダム技術の歴史的展望	黒田 晃
5	20	1995年12月	阪神・淡路大震災から学ぶ地盤工学の諸問題	足立 紀尚
6	24	1996年12月	ダムと地震動について	田村 重四郎
7	3	1997年9月	浦山ダムの技術課題について	丈達 俊夫
10	1	2000年3月	ダム湖の環境保全(前編)	足立 敏之
10	2	2000年6月	ダム湖の環境保全(後編)	足立 敏之
11	3	2001年9月	ダムと日本文明	竹村 公太郎

(3) 招待論文

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
1	1	1991年3月	コンクリートダムの設計安全率について	飯田 隆一
	2	1991年6月	大型供試体試験を用いたRCDコンクリートの配合設計法について	志水 茂明
			コントラクターにおける技術開発の動向	長野 匡純
	3	1991年9月	RCD工法における運搬設備の多様化に関する一考察	山住 有巧 横塚 尚志
	4	1991年12月	配合設計法からみたRCDとRCC	柳田 力
2	5	1992年3月	レーザートモグラフィによる粒状体構造模型内部の動的破壊過程の可視化	小長井 一男 田村 重四郎
			ダムの挙動解析における逆解析手法の適用	長谷川 高士 村上 章
	6	1992年6月	フィルダムの耐震設計	岡本 舜三 田村 重四郎
			フィルダムの耐震性について	田村 重四郎
			フィルダムの耐震設計における地震力と強度	松本 徳久
			フィルダムの地震時挙動と動的物性値	安田 成夫
	4	14	1994年6月	基礎地盤内における非弾性変形と応力の再配分に関する理論的考察

(4) 論文

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
1	1	1991年3月	連続繊維補強土によるダム周辺緑化について	堀家 茂一
			1次クーリングと湛水による温度応力について	山本 富佐雄 中村 浩之 堤 節夫 福田 佳之
	2	1991年6月	RCD工法による真野ダムの施工について	須藤 勝栄
			自動変位観測システムを用いた掘削法面監視について	大野 睦雄 長渡 祐二 オアン T.D.P
	3	1991年9月	岩盤不連続面の硬化 - 軟化型構成式	足立 紀尚 大西 有三 岡 二三生 張 鋒
			貯水池富栄養化対策としての曝気循環法に関する検討	丹羽 薫 天野 邦彦 三浦 進
			フィルダム土質材料の締固め及び透水試験	松本 徳久 山口 嘉一 安仁屋 勉
			自動グリーンカット機械の開発	新藤 博之 大内 定道 太田 宏通 渋谷 光男
	4	1991年12月	液体窒素を用いたダムコンクリートのプレクーリングに関する研究	嶋田 洋 小野 定 江渡 正渡 栗田 和昭
			針貫入試験による軟岩基礎の強度評価	高橋 亜夫 三浦 良信 清水 国夫 奥原 茂弘
			阿木川ダムの水質保全対策	毛涯 卓郎 大池 茂 寺園 勝二 藤野 耕
			三次元リモート測量システム	近藤 高弘

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
2	5	1992年3月	大型供試体試験を用いた RCD 用コンクリートの配合設計についての考察	永山 功
			安定処理土の法面保護への利用に関する検討	大藪 勝美 太原 浩 遠藤 良直 吉久 寧
			低品質骨材のダムコンクリートへの適用に関する検討	本條 忠應 引地 隆久
	7	1992年9月	堤体と岩盤の相互作用を考慮した重力式コンクリートダムの動的挙動特性	永山 功 佐々木 隆 出原 理
			蛇尾川揚水発電所下部ダムにおける堤体コンクリートの温度規制	山本 康博 内田 善久 堀部 慶次
			地盤凍結工法により採取した高品質不攪乱試料を用いたパイピング試験について	高原 一啓
	8	1992年12月	ダム貯水池堆砂量の推定法についての試論 - 確率過程として堆砂現象をとらえる -	竹林 征三 廣瀬 昌由 尾作 悦男
			DM, 石粉による RCD 用コンクリートの品質向上に関する実験研究	松島 博之 入矢 桂史郎 原田 暁 萩野 雅彦
			孔間弾性波・電磁波測定によるグラウチング効果の判定について	蓮井 昭則 稲葉 秀雄 結城 則行 中川 浩二
3	9	1993年3月	地球温暖化が進行した場合に水資源に及ぼす影響の地域比較	丹羽 薫 廣瀬 昌由 宮井 貴大 天野 裕史
	10	1993年6月	コンクリートダムの打上がり速度に関する一考察	山住 有巧 播田 一雄 自閑 茂治 谷 剛

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
3	10	1993年6月	流水養生によるポストクーリング効果について	鷹取 正顕 田中 靖 五十嵐 昇	
			岩盤割れ目系のフラクタル特性による岩盤の不均質性評価に関する検討	宇田川 義夫	
	11	1993年9月	日吉ダムにおける頁岩の使用に関する検討	山口 温朗 柏木 順 及川 拓治	
			複数の地下水層を有するダムサイトでの止水処理と漏水監視	山口 嘉一 鈴木 建作 太田 直樹	
			流速を未知数とした有限要素浸透流解析法の開発とその適用について	大西 有三 ソリマン・モハメド	
	12	1993年12月	フィルダムコア材における水圧破碎規準に関する研究	柳沢 栄司 菅野 高弘	
			ガーダ補強式放流管の合理的設計への一考察	相場 充 飯塚 晴彦 土生川 真二 重永 憲明 高須 修二	
			岩盤不連続性に関するデータベース作成のための基礎的研究	谷本 親伯 岸田 潔 安藤 拓	
	4	13	1994年3月	中央土質コア型ロックフィルダムの終局耐震安定性の評価について	大町 達夫
				F.E Analysis of Strength Deterioration in Stiff Clsys and Mudstones Upon Excavation	Nobuyuki YOSHIDA Toshihisa ADACHI
				コンクリート製造プラントにおける細骨材の表面水率の補正方法に関する検討	永山 功 大槻 英治 飯田 一彦 庄野 昭 野々目 洋
				骨材微粒分を含むコンクリートの性状に関する基礎的検討	島津 義郎 薬師寺 公文 高橋 陽一

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
4	14	1994年6月	湛水過程におけるアースダムの浸透、応力及び力学的安定性	森井 俊広 服部 九二雄
			ふりこ試験器による軟岩の定量的な岩盤分類の試み	永山 功 高木 多喜雄 森田 宏 徳楠 充宏 岩垣 孝一
	15	1994年9月	分岐部の流体励振力・キャビテーション防止策の研究	今村 建二 重永 憲明 明田 敏郎 前川 伸
	16	1994年12月	1993年釧路沖地震および1993年北海道南西沖地震におけるダムの挙動	中村 昭 安田 成夫 岩下 友也
			ゲート用水密ゴムの超弾性応力解析技術の研究	菊地 愛子 幕田 宏 重永 憲明 川上 善道 大坪 敬
	5	17	1995年3月	フィルダム遮水断面内の流線網に関する一解析法
火山灰質粘性土を用いた盛土構造物の安定性と施工性に関する研究				村瀬 祐司 大根 義男
18		1995年6月	RI式水分計による骨材の表面水率測定に関する実験的検討	永山 功 渡辺 和夫 熊原 義文 西川 正夫 小川 朗二
			割裂方向制御グラウチングに関する基礎的実験	藤沢 侃彦 中村 昭 山口 嘉一 松井 孝
			電気探査法及び地下レーダ法によるダムサイト調査	中里 裕臣 竹内 睦雄
			粒子の相互干渉を考慮した2粒度粒子の間隙比算定モデル	高田 和法 小澤 一雅

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
5	19	1995年9月	割裂方向制御グラウチング工法の原位置試験	藤沢 侃彦 中村 昭 山口 嘉一 吉田 等 松井 孝
			グラウチングによる節理のせん断強度の改良効果に関する基礎的研究	水戸 義忠 菊池 宏吉 若林 成樹 平野 勇
	20	1995年12月	プレクーリングを用いるダムコンクリートの温度管理方法の検討	藤原 喜啓 久保田 信弥 江渡 正満 長谷川 悦央
			断層処理設計に関する基礎的検討	荒川 昭治 小川 和延
			重力式コンクリートダムの実測挙動解析	永山 功 菊池 政美 杉浦 靖人
	6	21	1996年3月	3次元個別要素による砂礫流の衝撃力予測に関する基礎的研究
ダム湖環境における微生物腐食に関する研究				鎌田 久美子 赤嶺 健一 平井 陽一
電磁波と弾性波を利用した物理探査方法の開発 (ダム基礎岩盤グラウチングの評価への応用)				鈴木 英世 安田 登 木村 まさ志 斎藤 秀樹 鍋岡 昭三
22		1996年6月	ゲート小間隙部の流れと振動現象	巻幡 敏秋 大倉 康彦
	ダム基盤の地震計設置位置に関する基礎的検討		山岡 暁 井根 健	

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
6	22	1996年6月	地震時における地下ダム止水壁の挙動に関する一考察	三上 博 原田 次夫 山田 定信 大久保 達也	
			自動走査式フレーム型 RI 密度計を利用したロック材の現場締固め特性の評価	豊田 光雄 中村 昭 延山 政之	
	23	1996年9月	トンネル内放流における高圧ゲートの給気特性に関する研究	貞弘 丈佳 高橋 陽一 巻幡 敏秋 与口 正敏	
			土質コアを有するロックフィルダムの水理的破壊現象に関する研究	村瀬 祐司 大根 義男 成田 国朝 奥村 哲夫	
			兵庫県南部地震における一庫ダム動的解析	田口 勝也 杉村 淑人 木戸 研太郎	
			RCD 用コンクリートにおける骨材微粒材料の利用に関する基礎的研究	高樋 堅太郎	
	24	1996年12月	重力式コンクリートダムの構造の安定性に及ぼす鉛直の地震動の影響	永山 功 佐々木 隆	
			摺動式水密ゴムの高圧領域への適用化研究	今村 建二 菊池 愛子 金子 徹 小口 菊雄 野口 孔明	
	7	1	1997年3月	捺り構造ゲートの解析方法	寺田 溥
				洪水吐きゲートの維持管理費用	薬師寺 公文 柏井 条介
Key Parameters Governing Dynamic Granular Slope Stability				Kazuo KONAGAI Takashi MATSUSHIMA	
2	1997年6月	個別要素法によるフィルダムの動的挙動に関する基礎的研究	森本 浩之 木山 英郎		

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
7	2	1997年6月	ダム取水設備の気泡噴流による凍結防止装置の数値解析	与口 正敏 巻幡 敏秋 井口 俊雄	
			ダム湖の水質対策の動向	荒井 治 高須 修二	
			自動走査式 RI 密度計(SRID)の開発とフィルダムへの適用	豊田 光雄 吉田 等 延山 政之	
	3	1997年9月	水門扉に作用する水理的上下向力	寺田 溥	
			簡易越流頂(円弧越流頂)の放流特性・施工性と水理設計	常住 直人 加藤 敬 中西 憲雄 桐 博英	
	4	1997年12月	超貧配合コンクリートの力学的性質に関する実験的検討	永山 功 渡辺 和夫 西澤 賢太郎	
			ダム空間の景観デザインについて	須田 清隆 本田 陽一 木下 明子 吹原 康広	
	8	1	1998年3月	フィルダムのコア材の改良に関する一考察	吹原 康広 陣門 謙一 香西 信一郎
				ダムコンクリート用骨材の評価手法に関する実験的検討	土屋 浩樹 河野 広隆 森濱 和正 加藤 俊二
		2	1998年6月	Shell Type Double Leaf Gate to Withstand Wave Forces	Hiroshi TERATA
				ダム-岩盤-貯水の連成を考慮した一庫重力式コンクリートダムの兵庫県南部地震応答シミュレーション解析	塩尻 弘雄 上田 稔
				2Dimensional Analysis of Seismic Cracking in Concrete Gravity Dams	HongyuanZHANG TatsuoOHMACHI
ダム貯水池による洪水調節の合理化に関する2,3の考察				今村 瑞穂	
水位上昇確率を考慮した試験湛水時の洪水対策容量		柏井 条介 櫻井 寿之			

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
8	2	1998年6月	粗骨材最大寸法と高流動コンクリートの品質に関する実験的検討	永山 功
				渡辺 和夫
	3	1998年9月	感性評価に基づく水門の景観設計に関する研究	町田 宗久
				新井 博之
				中田 利治
				渡辺 昭
	4	1998年12月	透水層を挟在する供試体に対する割裂方向制御グラウチング	長町 三生
				竹林 征三
				藤澤 侃彦
				吉田 等
	4	1998年12月	中央コア型ロックフィルダムの漏水量観測値の一解析法	山口 嘉一
				松井 孝
矢萩 賢仁				
菅原 一昌				
4	1998年12月	ローラゲートの振動制御に関する一考察	千葉 幸憲	
			荻原 国宏	
			岩下 友也	
			井根 健	
4	1998年12月	フィルダムの堤敷における地震時動的相互作用と堤敷観測波からの基盤入射波の推定	吉田 等	
			大西 正記	
			室田 高志	
			森本 浩	
9	1	1999年3月	現場実験に基づく既設アーチダムの常時挙動に関する検討	松尾 豊史
				西内 達雄
				金津 務
9	1	1999年3月	締固めた土の先行圧縮特性と斜面安定評価について	上田 稔
				成田 国朝
				山口 雅弘
9	1	1999年3月	姫川第六発電所シェル構造ローラゲート現地振動実験	荻原 国宏
				川上 高嶺
				奥村 克司
9	1	1999年3月	姫川第六発電所シェル構造ローラゲート現地振動実験	遊道 義憲

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
9	1	1999年3月	節理内流路を模擬した透明管供試体によるグラウト充填メカニズムの実験的研究	武藤 光 菊地 宏吉 平野 勇 水戸 義忠
				渡辺 啓行 ラザビ・ソヘイル 高島 賢二 谷山 尚
	2	1999年6月	フライアッシュ高含有RCD用コンクリートの基本的特性	市川 滋己 木戸 研太郎 杉村 淑人
				武藤 光 佐々木 肇 平野 勇 菊地 宏吉
				福元 洋一 嶋田 洋 池田 尚治
				山口 嘉一 今林 豊 佐藤 弘行 吉田 等
				比抵抗によるセメントグラウチングの効果判定に関する基礎的検討
	3	1999年9月	動的グラウチング工法の開発	平 治 西垣 誠 大橋 昭 寺戸 康隆 高田 徹
				セメントミルクの濃度と注入特性の関係について
				連続計量式落下型コンクリート製造システム
谷 智之 内田 善久				
内田 明 廣瀬 利雄 梶原 日出隆				

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
9	3	1999年9月	高濃度 - 低圧型グラウチング工法 (HTLP 工法) の提案と検証	武藤 光 菊地 宏吉 水戸 義忠 鈴木 哲也 平野 勇	
			越流に伴う堤体の破壊現象に関する研究	木村 勝行 重野 輝貴 成田 国朝	
	4	1999年12月	円形放流管湾曲部の圧力特性	柏井 条介 宮脇 千晴	
			層流・乱流を考慮したダム基礎岩盤の浸透流の挙動に関する一考察	永山 功 西村 義 太田 弘文	
			放射冷却のモデル化とリフト間拘束に着目した一次クーリング方法の研究	中江 兼二 保田 厚 堤 節夫 山本 富佐雄	
			ダム用高流動コンクリートに関する実験的検討	飯田 一彦 大友 健 雑賀 英磨 永山 功	
			岩盤斜面掘削に伴う長大法面および地山の応力変化に関する解析的基礎研究	木戸 研太郎 吉中 龍之進	
	10	1	2000年3月	選択取水設備の呑み口寸法の選定方法	寺田 溥
				ダムゲート水密ゴムへの非圧縮超弾性解析の適用	菊地 愛子 渋谷 一郎 大西 巍
		2	2000年6月	EFFECTS OF MEASURES FOR ENHANCING DYNAMIC STABILITY OF CONCRETE-FACED ROCKFILL DAM	Xianjing KONG Tong ZHU Guocheng HAN
アーチダムの地震時安定性評価に関する研究				森本 浩 小久保 鉄也 重光 泰宗	

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
10	2	2000年6月	ダム貯水池周辺地すべりの貯水位変動による残留間隙水圧の実態	貞弘 文佳 平野 勇 阪元 恵一郎 小池 淳子
			多目的ダム貯水池の水質と流入河川・貯水池特性との関連について	天野 邦彦 安田 佳哉 鈴木 宏幸
	3	2000年9月	ローラとレールの接触面の強度	寺田 溥
			アンカーを用いた半重力式砂防ダムの特性と設計手法に関する研究	大八木 豊 甲斐 史朗 廣田 泰久
			RCD工法におけるコンクリート運搬・打設シミュレーションモデルの開発と適用	大内 忠臣 藤沢 侃彦 谷口 正基
			ダム貯水池のフラッシング排砂における排砂効率	角 哲也
			掘削斜面内の応力・変形挙動ならびに安定性評価に関する研究	中村 吉男 山口 雅弘 成田 国朝
			地震時重力式コンクリートダムのクラック発生と補強対策	張 宏遠 大町 達夫
	4	2000年12月	コンクリートアーチダムの地震応答における材料非線形性とジョイント開口の相互作用	渡辺 啓行 ザビ タバ ヲハル 高島 賢二 谷山 尚
			ドラフトゲートのトランジションの短縮化研究	今村 建二 金子 徹 小口 菊雄 山田 智一
			高圧ゲート水密ゴム部の噴流減勢装置の開発	今村 建二 前川 伸 金子 徹 椎名 正樹
			確率統計的浸透流解析によるダム基礎グラウチング効果の評価	山口 嘉一 佐藤 弘行

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
10	4	2000年12月	濁質生産量の推定方法に関する研究	横山 勝英 石川 忠晴 梅田 信
11	1	2001年3月	ダム貯水池周辺地すべりの浸透流解析による残留間隙水圧の検討	貞弘 文佳 平野 勇 小池 淳子 上原 芳久
			アスファルト全面表面遮水壁型調整池の耐震性評価	田代 幸英 大内 周 粟津 善文 松田 智行
			ヨシの生長解析に基づく栄養塩除去量の評価	田中 規夫 浅枝 隆 Shiromi KARUNARATNE 谷本 勝利
			置換処理工の形状・規模が軟質岩盤基礎のせん断抵抗力に及ぼす影響	吉田 等 宮内 茂行 平山 大輔
			振動するゲートまわりの流れの流動解析による一考察	今村 建二 大西 外明 桂木 一行 金子 徹 前川 伸
	フィルタ材料の非粘着性判定のための実験的研究	上阪 恒雄 山口 嘉一		
	2	2001年6月	マニフォールド法によるダム堤体および基礎岩盤のクラック進展に関する検討	張 国新 杉浦 靖人 長谷川 浩夫 斉藤 孝三
放流管分岐部の水理特性			中川 博次 貴堂 巖 遊道 義憲 田中 甚一	

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
11	2	2001年6月	跳水式減勢工の発生音特性とその予測手法	桜井 力 柏井 条介 小野 雅人	
			フィルダム監査廊への鋼繊維補強コンクリートの適用	赤坂 雄司 原 夏生 中嶋 勇 向後 雄二	
	3	2001年9月	差圧測定による浮遊砂濃度計測システムの開発	角 哲也 森田 佐一郎 越智 隆志 小宮 秀昭	
			エアリフト魚道の開発に関する実験的考察	川崎 秀明 喜納 敏男 染谷 健司	
	4	2001年12月	重力式コンクリートダム-貯水系の地震時クラック解析のためのFE-BE手法	張 宏遠 大町 達夫	
			空気ロック式ゲートレス取水設備に関する研究	川崎 秀明 喜納 敏男 橋村 潔 津嘉山 正光	
			フィルダム等の水中フェーシング用耐震アスファルト混合物に関する開発研究	仁瓶 義夫 幸田 正裕 溝渕 利明 大根 義男	
			急峻な山岳域における降雨予測手法の開発	片岡 幸毅 大東 秀光 上坂 薫 高田 望	
	12	1	2002年3月	RCD工法における連続打設に向けた基礎的研究	鈴木 敦 加納 茂紀 原 稔明
				フィルダム監査廊への適用を目的とした鋼繊維補強コンクリートの物性評価	原 夏生 赤坂 雄司 浅野 勇 向後 雄二

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
12	1	2002年3月	確率論的変形解析によるダム基礎設計の基礎的検討	山口 嘉一 赤松 利之
	2	2002年6月	表面遮水壁型ロックフィルダムに作用する地震時動水圧に関する基礎的数値解析	大町 達夫 太田 弘次
			非線形変形特性を考慮したフィルダム軟岩基礎の変形量予測	山口 嘉一 赤松 利之 岡部 登
	3	2002年9月	ダム堆砂の性状把握とその利用法	大矢 通弘 角 哲也 嘉門 雅史
			青野ダムにおける曝気循環による水質変化特性	野本 岳志 藤原 正好 天野 邦彦 安田 佳哉
	4	2002年12月	長方形開水路の掃流砂輸送特性	柏井 条介 井上 清敬
			地盤の変形性を考慮した台形ダムの地震時動的挙動の解析	金銅 将史 田中 源吾 川崎 秀明
	13	1	2003年3月	曝気式循環施設の理論とその効果に関する考え方
光ファイバを用いた温度計のコンクリートダムへの適用に関する研究				為沢 長雄 森田 義則 渡邊 高士 溝渕 利明
2		2003年6月	細骨材水浸式計量による信頼性の高いダムコンクリート製造システムの開発	三好 哲也 十河 茂幸 宮内 茂行 河島 勝也
			シェル構造フラップゲートの構造解析および固有振動数	上田 幸彦 荻原 国宏 五十嵐 達文 金森 豪

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
13	3	2003年9月	ロックフィルダムの上流側ロックゾーンの浸透特性が水位急低下時の残留水位に及ぼす影響	工藤 アキヒコ 西垣 誠 鳥居 剛 浅田 昌蔵
	4	2003年12月	CFRD コンクリートスラブの温度応力について	大前 智敬 水野 義之 野中 樹夫
			2段ローラゲートの波による動的応答解析	上田 幸彦 荻原 国宏
14	1	2004年3月	ダム堆砂の河川還元材利用における環境影響	大矢 通弘 角 哲也 嘉門 雅史
			粗粒材料の室内と現場締固め特性の比較	豊田 光雄
			CSG に要求される材料安全係数に関する考察	永山 功 佐々木 隆
	2	2004年6月	上野ダムにおける HTLP 工法の有効性検証	前原 雅幸 菊地 宏吉 小林 隆志 齋藤 敏明
			堤趾導流部水理模型実験における水面計測値の特性	柏井 条介 大黒 真希
			RCD 用コンクリートの VC 値に関する一考察	永山 功
	3	2004年9月	底面ろ床法による都市湖沼の浄化に関する研究	山崎 惟義 渡辺 亮一 熊谷 博史 北野 義則
			RCD 用コンクリートの必要ペースト量に関する考察	永山 功
			ダム貯水池流入土砂量に基づく堆砂管理についての考察 - 土砂生産量強度マップの開発の事例 -	岡野 眞久 高柳 淳二 藤井 隆弘 安藤 明宏
			底泥土を活用した既設フィルダムの堤体改修工法	谷 茂 福島 伸二 北島 明

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
14	4	2004年12月	高濃度 - 層流注入型グラウチング工法の提案	前原 雅幸 齋藤 敏明 菊地 宏吉 小林 隆志	
			水圧吸引土砂排除システムの排砂機能に関する研究	岡野 眞久 俣野 文孝 片山 裕之 田島 芳満 中川 一	
			RCD用コンクリートの強度特性に関する一考察	永山 功	
			鯖石川ダム堆砂実績を用いた粒径別流入土砂量の推定	鈴木 伴征 柏井 条介 吉岡 喜浩	
15	1	2005年3月	曝気式循環施設における混合水深の考え方の一考察	上田 倫子 吉田 延雄 横山 繁樹 澤田 寿	
			造成アバットメント工の力学特性に関する研究	平山 大輔 川崎 秀明 吉岡 英貴	
			選択取水設備の取水性能と水質への影響に関する一考察	堀田 哲夫 東海林 光 山下 芳浩 陳 飛勇 伊藤 英夫	
			ダムコンクリートの高速運搬システムの開発とその実用性に関する研究	武田 光雄 木田 哲量 西川 肇 工藤 勝輝	
				中央土質遮水壁型ロックフィルダムの最小安全率を与える下流方向すべり面	山口 嘉一 中村 真
	2	2005年6月	RESCONモデルを用いたフラッシング排砂の適用性検討について	角 哲也 井口 真生子	
			貯水池流動鉛直2次元モデルにおけるモデルレベルによる計算結果の比較	櫻井 寿之 柏井 条介	

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
15	2	2005年6月	ロックフィルダムの地震時すべり変形量に関する検討	山口 嘉一 富田 尚樹 水原 道法
			GPSを用いたフィルダム外部変形計測に関する一考察	山口 嘉一 小堀 俊秀 横森 源治 大野 誠 岩崎 智治
			シェル構造ローゲートの開閉中における鉛直方向水理力	上田 幸彦 荻原 国宏
	3	2005年9月	蛍光法によるグラウト浸透亀裂の高精度可視化	寺田 道直 浜田 元 西山 孝 市丸 博美
			貯水池堆積土砂の堀削管理とその下流河川還元に関する研究	岡野 眞久 菊井 幹男 石田 裕哉 角 哲也
			クロスフロー水車の開水路流れへの適用に関する実験	楳田 真也 川崎 秀明 安田 成夫 富澤 洋介 石田 啓
			固化処理底泥土を用いた老朽化フィルダム堤体の耐震補強に関する事例研究	北島 明 谷 茂 福島 伸二 西本 浩司
	4	2005年12月	油圧式シリンダ駆動式ワイヤロープウィンチの開発	平野 晴彦 三橋 真人 鹿野田 幸典
			地質境界を有するフィルダム軟岩基礎の変形に関する信頼性設計の基礎的研究	山口 嘉一 中村 真 新家 拓史

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
16	1	2006年3月	フィルタ材料の非粘着性向上に関する検討	山口 嘉一 横森 源治 安仁屋 勉 赤松 利之
			固化処理底泥土を用いた老朽化フィルダムの堤体補強における設計法の提案	福島 伸二 谷 茂 北島 明 西本 浩司
			混合粒径河床変動モデルによる貯水池 堆砂・排砂現象の再現	櫻井 寿之 鎌田 昌行 柏井 条介 鈴木 伴征
	2	2006年6月	老朽化フィルダムの堤体改修に使用する固化処理底泥土の含水比と粒度を考慮した強度管理法	福島 伸二 谷 茂 北島 明 西本 浩司
			無段階水押し試験による不飽和地盤の透水性評価	山口 嘉一 新家 拓史
			海水揚水発電所上部調整池の遮水シートの耐久性について	佐藤 道生 柏柳 正之 佐藤 泰明
	3	2006年9月	ワイヤレス間隙水圧計の開発とフィルダムにおける観測	向後 雄二 浅野 勇 林田 洋一 遠目塚 良一
			粗粒・高含水比コア材料の品質改良に関する研究	谷中 保男 高橋 章 糴田 茂樹 西垣 誠
	4	2006年12月	山岳域の電力ダムを対象とした降雨予測手法の実用化	橋本 徳昭 高田 望 片岡 幸毅 池淵 周一

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
16	4	2006年12月	富栄養化したダム湖におけるアオコ発生指標としての水温成層安定性	梅田 信 古里 栄一 浅枝 隆
			無筋コンクリートのクラック進展解析における解析パラメータに関する検討	佐々木 隆 山口 嘉一 高藤 啓
17	1	2007年3月	老朽化フィルダムの堤体改修（補強・漏水防止・嵩上げ）の事例調査	谷 茂 福島 伸二
			定水位操作における課題と改善に関する考察	今村 瑞穂 日野 徹 芳地 康征
			アスファルト遮水壁とコンクリート構造物の接合に関する検討	田代 幸英 大内 周 森 二郎
	2	2007年6月	既設アーチダムの常時挙動に及ぼす鉛直ジョイント部モデル化の影響	西内 達雄 阪田 憲次
			江川ダムの貯水池上流端堆砂部に見られたヤナギ群落の生育環境と発達過程	浅見 和弘 丸谷 成 田野 弘明 酒井 進
			固化処理底泥土を用いた老朽ため池堤体改修における堤体ゾーニングの事例研究	福島 伸二 谷 茂
	3	2007年9月	コア材料の割裂引張強度に関する実験的検討	佐藤 弘行 山口 嘉一
			RCD工法による重力ダムの打止め部および水平打継目処理の合理化に関する検討	大藪 勝美 永山 功 木戸 研太郎 枅内 暁史
			原位置岩盤せん断試験によるダム基礎の岩盤分類の定量的な評価の試み	森 良樹 脇坂 安彦 佐々木 靖人 阿南 修司
	4	2007年12月	半円状に湾曲したダム軸をもつフィルダムの振動特性と地震応答	小島 康弘 大町 達夫 井上 修作

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
18	1	2008年3月	水位急低下に伴う浸透挙動と斜面の安定性評価について	成田 国朝 木村 勝行 奥村 哲夫
			ダム基礎グラウチングのグラウト閉鎖過程を考慮した配合制御の検討	山口 嘉一 佐藤 弘行 西岡 正浩
	2	2008年6月	堆砂シミュレーションによる第二浜田ダム・浜田ダム再開発の堆砂容量評価	鈴木 伴征 新山 雅紀 竹内 博輝 神田 孝
			老朽化フィルダムの堤体改修に使用する固化処理底泥土の含水比と粒度を考慮した強度管理法の適用性の確認調査試験	福島 伸二 谷 茂 五ノ井 淳 北島 明
	3	2008年9月	森吉山ダムにおける堤体盛土の情報化施工 - リアルタイム施工管理システムの試行 -	小倉 公一 古屋 弘 疋田 喜彦 肥後 桂介
			拘束圧依存性を考慮したロック材料の強度評価	山口 嘉一 佐藤 弘行 林 直良 吉永 寿幸
	4	2008年12月	濁質量 - 流量関係式 (L-Q 式) の観測点以外への適用	柏井 条介
	19	1	2009年3月	貯水池の好気性保持およびリン溶出抑制のための水位低下・干し上げに関する考察 - 渡良瀬貯水池における現地実験および他ダムへの適用について -
流水型ダム流木対策スクリーンの水理設計				櫻井 寿之 箱石 憲昭 柏井 条介
2		2009年6月	渡邊・馬場法による遠心振動下にあるロックフィルダムの残留変形評価	岡本 敏郎 嶋田 賢
			岩手・宮城内陸地震による胆沢ダム洪水吐き被害の調査・分析	佐々木 隆 小山 幸男 佐藤 彰 穴戸 善博

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
19	3	2009年9月	比抵抗トモグラフィ法によるフィルダム堤体内部の比抵抗モニタリング	森 充広 増川 晋 渡嘉敷 勝 田頭 秀和
			重力ダム高位標高部の施工の高速化のための基礎的検討	大藪 勝美 木戸 研太郎 鈴木 敦 中村 剛
	4	2009年12月	大型模型振動実験によるダム模型のクラック破壊特性	佐々木 隆 山口 嘉一 倉橋 宏
20	1	2010年3月	水位放流方式によるダム操作の適用性に関する検討	三石 真也 角 哲也 尾関 敏久 松木 浩志
	2	2010年6月	WRFによる降雨予測を活用したダム操作に関する検討	三石 真也 角 哲也 尾関 敏久
			VR方式によるダム洪水調節の適用性に関する検討	三石 真也 角 哲也 尾関 敏久 松木 浩志

(5) 特集

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
1	1	1991年3月	ダム工学会研究会に期待する	椎貝 博美
			ダム工学会研究会に期待する	下村 周
			ダム工学会研究会に期待する	山住 有巧
			ダム工学会研究会と総括管理技術者	岡田 宜昭
			ダム工学会研究会に期待する	堀岡 征二
			ダム工学会研究会に期待する	羽田 忍
	2	1991年6月	ダム工学会研究会に期待する	豊田 高司
			ダム工学会研究会に期待する	小川 健
			ダム工学会研究会に期待する	吉越 洋
			ダム工学会研究会に期待する	辻 正人

(6) 報告

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
2	6	1992年6月	フィルダムの地震時安全性アセスメント - 台湾曾文水庫の事例報告 -	田中 弘 和田 勝義 山田 孝治	
	7	1992年9月	海砂のダムコンクリートへの適用について	辻子 雅則 長谷川 昌弘 槇島 修 津山 和則	
			長谷ダムの施工（拡張レヤ工法）について	早川 知夫 赤井 新也 和田 哲郎 乗京 正弘	
			均質なマサのグラウチングに関する一考察	双木 英人	
	8	1992年12月	フィルダム表面アスファルト遮水壁工法について	重松 和男 加形 護	
			ダム湖岸法面緑化	尾作 悦男 川西 龍一	
			アルミニウム陽極を用いた直流電解法による濁水の処理方法について	山本 義徳 恒成 正吾	
	3	9	1993年3月	ダム放流設備の異種金属接触腐食の実態と解析シミュレーション	市川 慧 丹野 光正 片脇 清 守屋 進 原 修一 田所 裕
				トランスフォーカとバケット台車の自動運転システム及びバケット遠隔開閉システム	本多 正市 和田 正道 福元 洋一
				冷却媒体としてドライアイスを用いたプレクーリング工法について	竹内 光 武山 峰典 越川 正彦
竜門ダムにおけるRCD工法とその改良				丈達 俊夫 吉田 等 及川 隆	
琵琶湖におけるヨシ植栽				中村 宣彦 山下 祥弘 北牧 正之	

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
3	10	1993年6月	上大須ダムのブランケットグラウチングについて	奥田 宏明 藍田 正和 西野 健三
			コンクリート表面しゃ水壁型ロックフィルダムのダム構造・計測設備と観測結果	山村 勤 小林 芳文
	11	1993年9月	クローラクレーンにも対応可能なトランスファーカ自動運転システム	井上 光治 栗副 耕治 松原 和夫 榎本 治泰
			自動グリーンカットシステムの開発について	松谷 真二 酒向 義勝 中村 隆 江沢 一明
	12	1993年12月	松田川ダムにおけるトランスファーカ自動運転システム及びバケット遠隔開閉装置	谷崎 博人 山崎 達郎 若崎 富男
			宮ヶ瀬ダムにおけるダム型枠及びスライド機械	柴田 義之 田代 民治 塚本 克美
4	13	1994年3月	葛野川発電所下部ダムの計画について - RCC用コンクリートの配合について -	舎川 徹 関根 祐治
	14	1994年6月	大谷ダム布倉川地すべりの挙動と対策	米沢 富信 征矢 三樹
			RCC工法に関する考察	白村 暁 鈴木 徳行
	15	1994年9月	高圧ラジアルゲート脚柱の剛性評価に関する考察	小島 治久 畑 英也 畑山 安雄 高須 修二
			奥沙流ダムの設計と施工について	野田 昭一 鈴木 一巳
			ダムコンクリート打設作業自動化システム	米田 安夫 堀 保夫 中山 隆義 吉原 一義

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
4	16	1994年12月	軟弱地盤上のアースフィルダムの安定性	高橋 準一 加藤 謙之 後藤 寿信
			コンクリート打継面処理機の開発とその適用性	本多 正市 和田 正道 高畑 研
5	17	1995年3月	孔壁展開画像による調査精度の向上について	宇田 進一 重田 満 中尾 誠司
			アーチダムショルダー部に施工されたPSアンカー緊張力の挙動解析	森 明弘 浅井 義明 松本 茂樹 高柳 彰博
			萱瀬ダムの嵩上げに関する設計と施工計画について	村川 嘉郎 岩永 彰 粟津 幸平 古谷 博司
	18	1995年6月	アーチダムにおける掘削時の岩盤挙動計測	渡辺 成夫 村川 浩一
	19	1995年9月	地震時における農業用フィルダムの挙動	谷 茂
			ダム基礎掘削面との対比によるジオトモグラフィ調査結果についての検証	平野 勇 双木 英人 阪元 恵一郎 小池 淳子
20	1995年12月	葛野川発電所葛野川ダムRCD工法の施工試験結果について	舎川 徹 関根 祐治 赤松 英樹	
6	21	1996年3月	ダム用二軸強制練りミキサーの内張ライナーの長寿命化	市原 正一 木村 忠紘 八木 伸人 牧野 清二
			孔内載荷試験機を用いたグラウチングによる力学的改良効果の検討 - 砂岩・頁岩互層を対象として -	菊池 宏吉 水戸 義忠 七澤 馨 高橋 義春 宮本 健也

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
6	22	1996年6月	ダム貯水池の流水管理に関するアンケート調査の概要	角屋 睦 永井 明博
			七々宿ダム管理用発電所の計画・設計について	渡辺 勝 今田 晃
			海水揚水発電技術実証プラント上部調整池における掘削・盛立基準	瀧本 純也
	23	1996年9月	石打ダム基礎岩盤のスレーキングについて	建部 精之 村上 竜介 森田 覚
			川浦アーチダム試験湛水時における堤体と基礎岩盤の挙動について	奥田 宏明 村上 晃生 川上 康博
	24	1996年12月	ダムコンクリート打設用ケーブルクレーンの自動運転	小田 和俊 荏隈 幸五千 近藤 操可 石井 正典 赤木 晃
			ケーブルクレーン(軌索式・片側移動)自動運転システム	鈴木 彰悦 沢田 学 江澤 一明 藤原 一正
			貯水池のバイパス排砂システムに関する実験的研究	原田 稔 森本 浩 小久保 鉄也
			浦山ダム基礎岩盤の掘削に伴う挙動特性について	丈達 俊夫 田中 靖 大前 智敬
	7	1	1997年3月	寺内ダム貯水池における流動制御現地実験
三浦ダムの取水塔に対する寒中コンクリートを用いた補修工事				宮田 修司 藤堂 勝也

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者	
7	1	1997年3月	山口調整池のフィルダムにおける花崗岩のグラウチングによる変形性の改良効果	平野 勇 双木 英人 西林 道彦 菊地 宏吉 水戸 義忠	
	2	1997年6月	フィルダムにおける材料使用判定基準の合理化	森 吉昭 島田 保之 幸村 秀樹 高橋 章	
	3	1997年9月	コリオリ式質量流量計を利用したグラウチングの注入管理について	石田 次夫 三橋 清己	
			新しいコンクリート運搬設備の開発	福元 洋一 嶋田 洋 佐藤 成美	
	4	1997年12月	熱赤外線リモートセンシングによる岩盤掘削面調査	平野 勇 双木 英人 小池 淳子	
			MGLシステムによるダムサイトの多層地下水系の観測	小菅 芳男 飯島 伸幸 郷右近 正紀 柳町 英久	
			飛騨川水系ダム群の濁水対策について	野池 悦雄	
			掘削に伴うN値の変化：千葉県矢那川ダムを例として	木村 公志 古川 和也 荻原 茂雄 松本 徳久	
	8	1	1998年3月	耶馬溪ダム貯水池における曝気の流動制御による水質保全効果について	荒川 詔 長崎 聖作 丹羽 薫 福壽 真也
		2	1998年6月	スレーキングの激しい軟岩基礎に建設された城川ダムの施工について	宮下 紀代則 佐久間 隆男
海水揚水発電技術実証試験パイロットプラント上部調整池におけるゴムシート表面遮水工の設計・施工				吉岡 邦明 佐藤 敏之 池口 幸宏	
3	1998年9月	ダム堤体内巡視設備の設置計画について	昌司 達郎		

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
8	3	1998年9月	シリカフェームを用いたグラウトの開発	増田 修一 松井 健一 寺戸 康隆 寺本 勝三
			固定式ケーブルクレーンによるダム頂部の施工	三好 哲也 金子 正一
	4	1998年12月	盛立中のフィルダム遮水ゾーンの透水性の拘束圧依存性と強度特性	近藤 賢一 八木 哲郎 小林 信洋 福島 伸二
9	1	1999年3月	THE GEOLOGICAL STRUCTURE AND THE ROCK SLOPE STABILITY ON A DAM SITE UNDER CONSTRUCTION	Mitsuhiro TOKUSU Yuzuru OHTOMO
			宮ヶ瀬ダムにおける堅坑方式による原石山掘削について	佐藤 勝 西田 博 上阪 恒雄 荒井 外茂治
	2	1999年6月	鹿島式ケーブルクレーン自動運転システム	塚本 克美 岸 光輝 平松 雄二 佐藤 歳幸
	4	1999年12月	山口調整池における連続地中壁による基礎処理について	竹内 求 坪井 浩二 石塚 勝
10	1	2000年3月	貯水池周辺の地すべり地における残留間隙水圧の実態と解析事例	網木 亮介
			コンクリート運搬工法の開発とその評価について	福元 洋一 嶋田 洋 池田 尚治
	2	2000年6月	1999年台湾集集地震によるダムの被害について	大町 達夫
	3	2000年9月	急速法を利用したロックフィルダム材料判別方法の試み	高橋 博 森野 日出夫 大沼 和弘

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
11	2	2001年6月	コンクリートダムの長期挙動データに対する季節調整法の適用	浅野 勇 安中 正実 増川 晋 田頭 秀和
	3	2001年9月	フィルダム監査廊のプレキャスト型砕工法と一体性確認試験	赤坂 雄司 原 夏生 横沢 和夫 白根 勇二
			選択取水数の近似式表現とその設計への実用	今村 建二 大西 外明 小口 菊雄 土生川 真二
	4	2001年12月	RCD工法における堤体内設備の施工合理化	荒井 猛 上阪 恒雄 宮田 信一 岡田 慎司
12	1	2002年3月	跳水現象を利用した分水施設の試み	服部 龍雄 甲斐 史朗 廣田 泰久 高田 保彦
			2001年1月13日エルサルバドル沖地震によるLAS COLINAS地すべりの教訓	小長井 一男 Jorgen JOHANSSON Paola MAYORCA 山本 哲朗 宮島 昌克 渦岡 良介 Nelson E.PULIDO Freddy C.DURAN 佐々 恭治 福岡 浩
	3	2002年9月	ダム掘削法面の設計法に関する実態調査と解析的検討	山口 嘉一 市原 裕之 畠 康之

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
12	4	2002年12月	骨材プラント濁水回収微粒分の細骨材への有効利用について	宮本 昇 森田 栄治 江上 良二 與良 祐司
			シリアの Zeyzoun ダムの崩壊事故および他ダムの安全性調査	山口 嘉一 脇坂 安彦 米崎 文雄 谷 茂 大根 義男 伊藤 道明
13	1	2003年3月	自動現場透水試験システム（平 主水）の開発	庄田 政弘 吉村 耕市郎 酒井 則宏
	2	2003年6月	ダム堆砂リサイクルのコスト分析と PFI による事業化検討	大矢 通弘 角 哲也 嘉門 雅史
			脱水ケーキの法面緑化基盤材への有効利用	今坂 成史 安井 利彰
	3	2003年9月	美利河ダム魚道における降下魚対策施設の検討	二階堂 司 齋藤 源 藤田 光則 青山 裕俊
			コンクリート打設自動運転システムの開発	徳田 憲治 高田 悦久 鶴岡 松生 太田 裕士
	4	2003年12月	雲仙・普賢岳における鋼製スリット砂防えん堤工事の無人化施工	古賀 省三 茶山 和博 須郷 茂夫 池内 俊裕 倉谷 勝敏
			小倉ダムにおけるコア・フィルタ転圧管理システム	池内 潤 倉谷 勝敏 内山 直治 北嶋 吉勝

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
14	1	2004年3月	間隙水圧計長期性能試験による振動弦型計器の現地適用性検討	川崎 秀明 長原 寛 山下 武宣 安仁屋 勉
	2	2004年6月	施工管理に関する遠隔測量システムの開発と適用評価	茶山 和博 山内 彪 森 利夫 斎藤 邦夫 平野 廣和
	3	2004年9月	CVMを用いた環境保全事業の評価におけるボランティア精神の影響	土田 真理子 高嶋 克宜 永井 護
	4	2004年12月	汎用建設機械搭載型遠隔操縦ロボットの開発と実用化	茶山 和博 山内 彪 田上 幸雄 久保田 孝行 藤岡 晃 五ノ井 淳
15	3	2005年9月	全面アスファルト表面遮水壁型調整池におけるIT施工の導入と評価	田代 幸英 大内 周 粟津 善文 穴井 幸康
	4	2005年12月	マレーシアのスンガイキンタダムで実施したRCCダムの配合設計と試験施工	天明 敏行 菊地 保旨 村上 祐治 大矢 通弘
16	1	2006年3月	マレーシア国スンガイキンタダムにおけるRCCの仮設備と施工	高橋 博 藤田 司 菊地 保旨 天明 敏行
	2	2006年6月	徳山ダムにおけるコア盛立の急速施工について	大家 充裕 川地 悟 宮原 みか子

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
16	3	2006年9月	石井ダム試験湛水におけるモニタリング結果報告	小川 和延 木下 靖 三宅 俊史 西川 倫広
17	1	2007年3月	矢作ダム浮沈式濁水対策フェンスの操作方法と構造	深谷 壽久 岡本 幸久 城 敬治 竹尾 敬三
			辰巳ダム計画における葛藤管理の実証的研究	山本 光利 玉井 信行
	2	2007年6月	開水路流れにおけるクロスフロー水車を用いた圧縮空気生産実験	楳田 真也 石田 啓 富澤 洋介 安田 成夫 川崎 秀明
	4	2007年12月	ソイルセメント地中連続壁による地山止水処理への適用	高島 哲雄 山田 尚人 矢島 順一郎
			ダム用アンカー技術の現状および海外事例	川崎 秀明 木戸 俊朗 大町 達夫
			2000年鳥取県西部地震における賀祥ダムの地震観測記録の修正	佐藤 信光 川崎 秀明 大町 達夫
18	1	2008年3月	ダムコア材曝気設備の開発と現場導入事例	伊藤 隆 沼宮内 雅人 伊藤 和彦 蓬萊 秀人
	2	2008年6月	益田川ダムの設計と施工	中村 壽浩
デジタルカメラによるダム表面状態調査			吉田 次男 河野 幸彦 石井 政博 小出 博	

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
18	3	2008年9月	ITを活用した胆沢ダムの品質管理の合理化	高田 悦久 品川 敬 菅原 俊幸 小林 弘明
			袖部に弱部を有する中木庭ダムの基礎処理	仁戸田 幸司 九重 宏樹 鈴木 孝雄 粟飯原 稔
	4	2008年12月	岩手・宮城内陸地震による胆沢ダムフィル堤体の被災復旧概要	佐々木 隆 小山 幸男 穴戸 善博 伊藤 武志
19	1	2009年3月	洪水調節専用ダム（流水型ダム）の土砂流出特性に関する調査	目 晋一 竹内 博輝 青嶋 大悟 齊藤 明郎
	2	2009年6月	ダムの耐震性能にかかわる最近の話題	大町 達夫
	3	2009年9月	ダム堆砂の簡易処理・河川還元に関する研究	角 哲也 小坪 洋巳 久保田 明 三反畑 勇 天明 敏行 小高 志郎
	4	2009年12月	柏崎市川内ダムの2007年新潟県中越沖地震による被災調査とその復旧について	尾崎 正俊 五十嵐 一弘 若井 一也 田村 光宏 金子 智幸 貫井 明
20	1	2010年3月	木戸ダムにおける仮設備と施工について	桑野 陵一 上馬場 靖 藤岡 宏文
			老朽化フィルダムの堤体改修における液状化対策問題	福島 伸二 谷 茂

(7) ノート

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
4	15	1994年9月	フィルダムの安全管理のための堤体挙動計測手法に関する検討	播田 一雄 杉村 淑人 白川 信之 桑島 孝暢
6	21	1996年3月	国際RCCシンポジウム参加報告	木戸 研太郎
8	1	1998年3月	EXPERIMENTAL STUDY OF HYDRODYNAMIC PRESSURE INSIDE NARROW CAVITIES	Tatsuo OHMACHI HongyuanZHANG Nobuyoshi YABUKI Natsuki TSUKADA
	4	1998年12月	農業用ダムのデータベース構築について	谷 茂
10	1	2000年3月	セメントグラウト固化体の弾性波速度	山口 嘉一 山本 重樹 阿部 義宏
12	2	2002年6月	PSEUDO-THREE DIMENSIONAL LAGRANGIAN PARTICLE FINITE DIFFERENCE METHOD FOR MODELING LONG-TRAVELING SOIL FLOWS	Kazuo KONAGAI Muneyoshi NUMADA
	3	2002年9月	砂礫流下による水理構造物損傷量を予測するための試案	柏井 条介 井上 清敬
13	1	2003年3月	貯水池流入土砂のうち主に粗粒分の粒度分布を推定する一手法	薬師寺 公文 五十嵐 昇 石塚 泰信
15	4	2005年12月	有限要素法による地震時動水圧計算法についての検討	塩尻 弘雄 後藤 健二
			姉川ダムにおける水質保全対策	木下 裕史 藤村 公人 森野 輝彦 竹尾 敬三
16	1	2006年3月	透水力を考慮した斜面の安定解析	成田 国朝 木村 勝行
	2	2006年9月	遮水性改良コンソリデーショングラウチングの最適注入手順	山口 嘉一 佐藤 弘行 阿部 智彦

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
18	3	2008年9月	PMLによるダム・岩盤・貯水系の計算法についての検討	桜井 達朗 塩尻 弘雄
	4	2008年12月	岩盤内管路における岩盤と水の相互作用に関する基礎的検討	桜井 達朗 塩尻 弘雄 鈴木 順一

(8) 討議

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
6	24	1996年12月	ゲート小間隙部の流れと振動現象(巻幡敏秋、大倉康彦著)	萩原 国宏 上田 幸彦

(9) 委員会・部会・調査団報告

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
8	1	1998年3月	コンクリートダムの空洞部の設計・施工に関する調査報告書	コンクリートダム研究部会
10	3	2000年9月	ダム建設における横坑調査()	ダム工学会地質基礎研究部会
	4	2000年12月	ダム建設における横坑調査()	ダム工学会地質基礎研究部会
11	1	2001年3月	ダム建設における横坑調査()	ダム工学会地質基礎研究部会
	2	2001年6月	ダム建設における横坑調査()	ダム工学会地質基礎研究部会
	4	2001年12月	ダム貯水池の堆砂および濁水に関する調査報告()	ダム工学会維持管理研究部会
12	1	2002年3月	ダム貯水池の堆砂および濁水に関する調査報告()	ダム工学会維持管理研究部会
	2	2002年6月	第21回現地見学会講演会講演要旨の報告 講演1. 「海外のCFRDを施工して」	中村 隆
			第21回現地見学会講演会講演要旨の報告 講演2. 「徳山ダムにおける環境調査と情報公開」	嶋田 啓一
			第21回現地見学会講演会 講演要旨の報告 講演3. 「徳山ダムにおける環境保全対策の取り組みについて」	柳川 晃
	3	2002年9月	ダム貯水池の堆砂および濁水に関する調査報告()	ダム工学会維持管理研究部会
			フィルダム耐震設計における課題と提言	ダム工学会フィルダム研究部会
14	4	2004年12月	新潟県中越地震に関するダム工学会災害調査団調査報告	新潟県中越地震ダム工学会災害調査団
16	3	2006年9月	排砂の視点から見た既設施設の有効利用に関する研究(その1) - 底部放流管を利用した堆砂対策について -	ダム工学会維持管理研究部会
			排砂の視点から見た既設施設の有効利用に関する研究(その2) - 下層放流による微細土砂排出効果のモデル解析 -	ダム工学会維持管理研究部会

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
16	3	2006年9月	排砂の視点から見た既設施設の有効利用に関する研究 (その3) - 底部放流管の利用に関する技術的課題と対策 -	ダム工学会維持 管理研究部会
	4	2006年12月	フィルダムの安全管理	ダム工学会フィ ルダム研究部会
17	3	2007年9月	ダム用ポンプ打設工法	ダム工学会コン クリートダム研 究会
18	1	2008年3月	2008年岩手・宮城内陸地震によるダムの被害(速報)	島本 和仁 大町 達夫 川崎 秀明 岩井 慎治
	4	2008年12月	排砂施設の設置に関する技術的検討 - ダム排砂バイパスの事例研究 -	ダム工学会維持 管理研究部会
19	3	2009年9月	重力式コンクリートダムにおける打設速度の最適化 ()	ダム工学会施工 研究部会
	4	2009年12月	重力式コンクリートダムにおける打設速度の最適化 ()	ダム工学会施工 研究部会
20	1	2010年3月	重力式コンクリートダムにおける打設速度の最適化 ()	ダム工学会施工 研究部会

(10) 技術報告

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
13	3	2003年9月	フィルダム工事における情報化施工システムの開発	高野 準 田代 幸英 五味 篤暁 江本 美奈子
17	2	2007年6月	ダム堆砂堀削機の開発	三浦 均 楠見 正之 堀部 基寛
18	1	2008年3月	常用洪水吐ゲート放流管周辺部の健全性評価	三浦 盛男 小林 信昭 田島 健 鳥山 智弘
19	2	2009年6月	早明浦ダムにおける淡水赤潮抑制に関する実験結果	門田 光司 加藤 慎一朗 森谷 崇正

(11) 現場だより

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
19	4	2009年12月	ITを活用した胆沢ダムの合理化施工	高田 悦久 品川 敬 菅原 俊幸
20	1	2010年3月	留萌ダムにおけるスレーキング対策とVE提案	伊藤 淳 榊 利彰 山上 雅弘 山岸 保
	2	2010年6月	長井ダムにおけるテル八型クレーンの採用	菊地 保旨 加藤 洋一 諸澤 正毅

(12) 意見・提言

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
13	3	2003年9月	プラムラインやめませんか？	中村 靖治
	4	2003年12月	プラムラインをやめないで！	大町 達夫
14	1	2004年3月	Henny の式再考	永山 功
	2	2004年6月	有効数字と数字の丸め	中村 靖治
	3	2004年9月	なし	-
	4	2004年12月	貯砂ダムのすすめ	水野 光章
15	1	2005年3月	なし	-
	2	2005年6月	岩盤分類の目的と方法について再確認してみませんか	平野 勇
	3	2005年9月	なし	-
	4	2005年12月	ダム技術者は100年後の展望を！	楠見 正之
16	1	2006年3月	なし	-
	2	2006年6月	1000年先のダムの安全性を確保するための工法を考 えてみませんか	菊地 宏吉
	3	2006年9月	施工者から見たフィルダム建設工事・・・そして 若手ダム技術者に望むこと	伊藤 淳
	4	2006年12月	ダム操作規則の見直しについて	今村 瑞穂
17	1	2007年3月	国民のリスク管理意識の高揚を図る取組みを	宇治 公隆
	2	2007年6月	なし	-
	3	2007年9月	質の良い構造物を作ろう	中村 靖治
	4	2007年12月	ダム事業に日頃思うこと	三好 哲也
18	1	2008年3月	岩盤クリ - プ進行程度見積もりの数値化の提案	吉田 鎮男
	2	2008年6月	特記仕様書のリスク分担の提案	高橋 博 巾 淳二
	3	2008年9月	フィルダム盛立材料の試験方法とダム技術者の知力強 化	鈴木 重憲
	4	2008年12月	本格的インターネット時代を迎えたダム工学分野	水戸 義忠
19	1	2009年3月	公共事業の真の評価とは	安部 友則
	2	2009年6月	計測のすすめ	塩尻 弘雄
	3	2009年9月	ダムエンジニアは如何に学び如何に生きるべきか	川崎 秀明
	4	2009年12月	プレキャスト化の促進 その現状と今後	ダム工事総括管 理技術者会 (CMED 会)常任 幹事会
20	1	2010年3月	ダムと地質情報	佐々木 靖人
	2	2010年6月	見直すべきダムの効果	鈴木 徳行

(13) 本の紹介

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
13	3	2003年9月	地球統計学	村川 浩一
	4	2003年12月	めざせ！フィールドの達人 - 地質調査秘伝の書 -	奥田 誠
14	1	2004年3月	地球の水危機	塩尻 弘雄
	2	2004年6月	問題解決のための「社会技術」 - 分野を超えた知の協働 -	田中 弥生
	3	2004年9月	ダム撤去	袋井 肇
	4	2004年12月	緑のダム 森林・河川・水循環・防災	上遠野 均
15	1	2005年3月	続ダムのはなし	河野 健治
	2	2005年6月	土木地質の秘伝97 めざせ！フィールドの達人	内瀬戸 信彦
	3	2005年9月	多目的ダムの建設 平成17年版	吉田 等
	4	2005年12月	水門工学	高木 芳朗
16	1	2006年3月	分散型サニテーションと資源循環 - 概念、システムそして実践 -	齋藤 源
	2	2006年6月	知っておきたい斜面のはなし Q&A - 斜面と暮らす -	佐々木 靖人
	3	2006年9月	にっぽんダム物語	染谷 健司
	4	2006年12月	RCD 工法技術の進歩	永田 和弘
17	1	2007年3月	なし	
	2	2007年6月	ダム基礎岩盤の調査・設計	吉田 等
	3	2007年9月	ダムの安全管理	横山 真至
	4	2007年12月	湖水を拓く - 日本のダム建設史 -	宇治 公隆
18	1	2008年3月	地下水を知る	塚田 智之
	2	2008年6月	地質現象とダム	末次 忠司
	3	2008年9月	ダムは水害をひきおこす - 球磨川・川辺川の水害被害者は語る -	田頭 秀和
	4	2008年12月	空と森の王者イヌワシとクマタカ	田野 弘明
19	1	2009年3月	Annex - Hydropower Good Practices -	三鼓 晃
	2	2009年6月	コンクリートダムの施工	安部 友則
	3	2009年9月	DAMS IN JAPAN - Past, Present and Future -	佐野 憲次
	4	2009年12月	建設技術者のための地形図読図入門 土木地質 達人の知恵	小長井 一男 吉田 等
20	1	2010年3月	ダムと環境の科学 ダム下流生態系	吉田 明
	2	2010年6月	原位置岩盤試験データベース(2008年度版) 貯水池土砂管理ハンドブック - 流域対策・流砂技術・下流河川環境 -	水戸 義忠 佐藤 克英

(14) その他

Vol.	No.	発行年月	タイトル	執筆者
8	3	1998年9月	重力ダムの設計・解析手法の特徴と今後の発展の方向	飯田 隆一
11	3	2001年9月	学術講演概要「ダムと日本文明」	竹村 公太郎
14	2	2004年6月	学会長挨拶にかえて	長谷川 高士
			タイトルなし	田村 重四郎
15	1	2005年3月	芋川河道閉鎖（東竹沢地区）緊急対策工事について	西井 洋史 金澤 真一
	2	2005年6月	20数年ぶりのダム技術者としての想い	梅田 貞夫
16	2	2006年6月	互教・互学	足立 紀尚
17	2	2007年6月	設立当時を振り返って	山内 彪
18	2	2008年6月	ダム工学会の活動について	杉野 健一
19	2	2009年6月	新会長挨拶	阪田 憲次
20	2	2010年6月	新会長挨拶	入江 洋樹

編集後記

ダム工学会は平成2年9月の創設以来20周年を迎えましたが、この20年間に我が国では250基を上回るダムが竣工しています。

これらのダムが、国民生活に不可欠な社会資本として機能を発揮していること、また計画から管理段階の多様なダム技術の開発・発展に寄与していることは言うまでもありません。一方、社会・経済情勢を背景にダム事業の再評価が進められるなど、近年、アカウンタビリティの確保が重要な課題となっています。

このような背景のなか、ダム工学会には、総合技術であるダム技術の更なる高度化に向けた取組みはもとより、ダムに関するさまざまな情報をユーザーである一般市民に正しく発信することが求められているものと考えます。

本記念誌は、ダム工学会20周年記念事業の一環として、20年間の学会活動の歩みをとりとめたものです。本誌が会員各位の技術研鑽、情報発信に向けた資料として活用いただければ幸いです。

本記念誌編集にあたって、関連委員会・事務局から多くの資料を提供願うとともに、編集委員会には活性化推進小委員会委員をはじめ多くの方々の参画をいただきました。

ここに、協力をいただいた各位に心から感謝申し上げます。

平成22年12月

編集委員長 森 秀人

一般社団法人ダム工学会 20周年記念誌

平成22年12月1日発行

編集委員

委員長 森 秀人

委員 池田 栄一

” 池田 隆

補佐委員 丹羽 尚人

” 早川 史郎

” 三浦 哲也

事務局 佐々木剛志

” 福地 学